

実務経験のある教員等による授業科目一覧（共通科目）

授業コード		510011		オムニバス			
科目名		エコ入門		単位数		2	
配当学年		1		曜日時限		木曜 3 限	
年度学期		2025 年度 春学期		コース			
対象学科		基_機械, 基_電電, 基_電情, 基_応用, 基_環生, 先_ロボ, 先_情報, 先_データ, 建_建築_A コース, 建_建築_L コース		必選の別		選択科目	
科目区分		共通教育科目					
担当者		佐藤 由佳					
実務家教員担当授業		担当教員の佐藤由佳は、極域の超高層大気／電離圏／磁気圏の総合観測に基づく太陽地球系結合過程に関する科学研究や観測装置／データベース／解析ソフトウェアの開発等の実務経験がある。その経験を活かし、本科目の対象の一部である自然の地球環境に関して、観測の実例や最新の科学的知見、地球環境観測のオープンデータの利活用などを授業で扱っている。					
教室							
授業の目的と進め方		エコってなんでしょう。もちろんこの科目の ECO はエコロジーから来た言葉です。この科目では、現代社会を生きる市民として、また科学技術に携わるものとして不可欠な高い環境意識と、広範な知識を身に付け、より進んだ環境問題への対応、持続的社会的構築に取り組む準備ができることを目的として、広く環境に関するトピックを入門的に学びます。講義と演習課題（小テスト＋レポート）を中心に進めます。					
達成目標	目標 1	自然の地球環境それ自体についての科学的な理解ができ、説明することができる【20%】					
	目標 2	経済や資源に関する社会的状況の事実に基づいた理解ができ、説明することができる【20%】					
	目標 3	気候変動、エネルギー、生物多様性などの環境問題の概要を広く理解し、説明することができる【40%】					
	目標 4	持続可能な社会に向けての取り組みや各主体の役割について知り、説明することができる【20%】					
	目標 5						
	目標 6						
	目標 7						
アクティブ・ラーニング	ディスカッション			ディベート		グループワーク	○
	プレゼンテーション	○		実習		フィールドワーク	
	その他課題解決型学習			環境をめぐるさまざまな課題に対しては、正確な知識をもつと同時に、自らが実践者であることが必要不可欠です。この授業では、授業期間およびその後までも含め、本科目で学ぶ「現代社会を生きる市民」としての持続可能な社会に向けての貢献を、実際にしていくことを、課題とします。授業の中では、各自の実践を提出物やレポート等で振り返ります。			

	授業計画	授業時間外学修（予習及び復習を含む）
第 1 回	持続可能な社会に向けて	予習：テキスト第 1 章を読み、持続可能な社会に必要なことを自分なりに考えておく（1 時間）。 復習：テキスト第 1 章からキーワードを書き出し、それに対して本時の授業で学んだことを記録する（1 時間）。
第 2 回	地球の基礎知識	予習：テキスト第 2 章 2-1 を読み、地球環境においてどのような現象が起こっているか把握しておく（1 時間）。 復習：テキスト第 2 章 2-1 からキーワードを書き出し、それに対して本時の授業で学んだことを記録する（1 時間）。
第 3 回	いま地球で起きていること	予習：テキスト第 2 章 2-2 を読み、現在、地球で起きている問題について、その要点をまとめ、疑問点を確認しておく（1 時間）。 復習：テキスト第 2 章 2-2 からキーワードを書き出し、それに対して本時の授業で学んだことを記録する（1 時間）。
第 4 回	気候変動と脱炭素社会	予習：テキスト第 3 章 3-1 を読み、気候変動が起こるメカニズムやその問題解決に向けての取り組み、脱炭素社会について理解しておく（1 時間）。 復習：テキスト第 3 章 3-1 からキーワードを書き出し、それに対して本時の授業で学んだことを記録する（1 時間）。
第 5 回	エネルギー	予習：テキスト第 3 章 3-2 を読み、現在起きているエネルギー問題の要点についてまとめ、その解決方法を自分なりに考えておく（1 時間）。 復習：テキスト第 3 章 3-2 からキーワードを書き出し、それに対して本時の授業で学んだことを記録する（1 時間）。
第 6 回	生物多様性・自然共生社会	予習：テキスト第 3 章 3-3 を読み、生物多様性とは何か、生物多様性の重要性を把握し、自然と共生できる方法を自分なりに考えておく（1 時間）。 復習：テキスト第 3 章 3-3 からキーワードを書き出し、それに対して本時の授業で学んだことを記録する（1 時間）。
第 7 回	地球環境問題	予習：テキスト第 3 章 3-4 を読み、現在起きている地球環境問題についての要点をまとめ、その解決策について考えておく（1 時間）。 復習：テキスト第 3 章 3-4 からキーワードを書き出し、それに対して本時の授業で学んだことを記録する（1 時間）。
第 8 回	循環型社会	予習：テキスト第 3 章 3-5 を読み、循環型社会とは何かを自分なりに把握しておく（1 時間）。 復習：テキスト第 3 章 3-5 からキーワードを書き出し、それに対して本時の授業で学んだことを記録する（1 時間）。
第 9 回	地域環境問題	予習：テキスト第 3 章 3-6 を読み、地域で起きている環境問題について把握するとともに、テキスト以外のソースから身の回りで起きている環境問題について調べておく（1 時間）。 復習：テキスト第 3 章 3-6 からキーワードを書き出し、それに対して本時の授業で学んだことを記録する（1 時間）。
第 10 回	化学物質・放射性物質	予習：テキスト第 3 章 3-7、3-8 を読み、環境汚染問題に発展する化学物質の種類を把握しておくとともに、放射性物質の性質を理解しておく（1 時間）。 復習：テキスト第 3 章 3-7、3-8 からキーワードを書き出し、それに対して本時の授業で学んだことを記録する（1 時間）。
第 11 回	持続可能な社会に向けたアプローチ	予習：テキスト第 4 章を読み、持続可能な社会を構築するために必要なことをまとめておく（1 時間）。 復習：テキスト第 4 章からキーワードを書き出し、それに対して本時の授業で学んだことを記録する（1 時間）。

第 12 回	各主体の役割・活動とパブリックセクター、企業の環境への取り組み	予習：テキスト第 5 章 5-1、5-2 を読み、国際機関、国、地方自治体、企業などの役割についてまとめ、疑問点を確認しておく（1 時間）。 復習：テキスト第 5 章 5-1、5-2 からキーワードを書き出し、それに対して本時の授業で学んだことを記録する（1 時間）。
第 13 回	個人の行動、NPO、各主体の連携	予習：テキスト第 5 章 5-3、5-4 を読み、環境問題に対して民間レベルで行えること、NPO の果たすべき役割を把握しておく（1 時間）。 復習：テキスト第 5 章 5-3、5-4 からキーワードを書き出し、それに対して本時の授業で学んだことを記録する（1 時間）。
第 14 回	まとめ	予習：テキスト第 6 章を読み、要点についてまとめ、疑問点を確認しておく（2 時間）。 復習：テキスト第 6 章からキーワードを書き出し、それに対して本時の授業で学んだことを記録する（1 時間）。
課題等に対するフィードバック	演習課題の内、小テストについては採点をして返却をするので、授業内容の復習に活用すること。レポートについては、授業中などに適宜解説の時間を設け全体向けにフィードバックを行う。	
評価方法と基準	各回の演習課題を合計点として 100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。	
テキスト	東京商工会議所『eco 検定公式テキスト（改訂 10 版）』日本能率協会マネジメントセンター（2025 年）【ISBN: 978-4-8005-9295-8】 環境省『令和 6 年版 環境白書 循環型社会白書／生物多様性白書』日経印刷【ISBN: 978-4-86579-414-4】（PDF/HTML 版は{環境省 HP, http://www.env.go.jp/policy/hakusyo/}からも無料で取得可能）	
科目の位置付け	共通教育科目の環境系科目の中でも全般／入門の位置づけの科目。他にあまり環境系科目や環境にかかわる専門科目を取らない／取れない場合、総合的な内容を広く身に付けるための科目。また、上位の環境系科目や環境にかかわる専門科目を学ぶ場合の入門となる科目。eco 検定（環境社会検定試験／東京商工会議所）に合格できるレベルを目標としており、実際に eco 検定の受験をすることを推奨する。	
履修登録前準備	授業は Microsoft 365 の Teams を用いた遠隔授業となります。Teams 授業チームへの参加方法に関しては、ポータルサイトの「授業資料」にて別途指示を出しますので、履修登録後に必ず確認して速やかに参加登録を済ませてください。（Teams 授業チームへの参加登録を完了しないと授業が受けられません。）	

授業コード		510328		オムニバス						
科目名		起業とビジネスプラン		単位数		2				
配当学年		3		曜日時限		木曜 3 限				
年度学期		2025 年度 春学期		コース						
対象学科		基_機械, 基_電電, 基_電情, 基_応用, 基_環生, 先_ロボ, 先_情報, 先_データ, 建_建築_A コース, 建_建築_L コース		必選の別		選択科目				
科目区分		共通教育科目								
担当者		清水 弘、筒井 研多								
実務家教員担当授業		担当教員 2 名は新たなビジネスを立ち上げることと、そのビジネスプランの作成について豊富な実務経験を持つ。その経験を活かし、受講生が起業することは勿論、今後、企業で様々な活動を行う上でも参考になる授業を行う。								
教室		3-325								
授業の目的と進め方		「起業」には問題をチャンスと捉えその解決を行う姿勢や行動(起業マインド)の意味もある。起業も含め、学生が就職後に携わる企業での活動は問題解決の連続であり、起業マインドの在り方、アイデア発見と充実、ビジネスプランの主要項目を学ぶことは、学生の今後の活動のためにも重要である。授業は、講義、小演習・アンケートの検討提出、それを教員が確認し次回授業への反映のステップで進め、ビジネスプランの主要項目を毎回の小演習（20 分程度）で検討し完成していく。								
達成目標	目標 1	自分の起業アイデアを独自性、論理性、実現性のあるビジネスプランとして記述できるようになる（60%）。								
	目標 2	起業を企画するためのビジネスプラン作成のステップを理解し、具体的な活動として実践出来るようになる（40%）。								
	目標 3									
	目標 4									
	目標 5									
	目標 6									
	目標 7									
アクティブ・ラーニング		ディスカッション			ディベート			グループワーク		
		プレゼンテーション			実習		◎	フィールドワーク		
		その他課題解決型学習				自分の身の周りや世の中変化での困り事・問題を発見し、それを解決する計画をビジネスプランとして作成する。				

	授業計画	授業時間外学修（予習及び復習を含む）
第1回	起業マインドと起業の重要性 問題・困り事の解決 ・「仕事」とはどのようなものか。日本の起業の状況や、多様な起業のタイプと起業マインドの大切さ。 ・問題・困りごとその解決を対価に変える、問題・困り事解決のあらすじとしてのビジネスプランを学修する。 ・趣味、好きなモノ、研究テーマ、知り合い関連など興味のある起業事例を調べる。（小演習）	予習：日本で起業が少なかった理由を考えておく。（1時間） 復習：身の回りの起業事例について、なぜ自分が興味をもったか考えて見る。（1時間）
第2回	身の周りのビジネスのチャンス ・3つの視点からのビジネスのチャンスの紹介。 ・皆さんが関わる人々をマップに記述し、その問題・困り事を考えることを学修する。 ・自分の身の周りのマップとビジネスチャンス（小演習）	予習：自分はどのような人々と関わっているかを考える。（1時間） 復習：身の回りの人々の問題・困り事からのチャンスのリストを充実させる。（1時間）
第3回	世の中の変化から新たなビジネスのチャンスの発見 ・自分の枠を広げて発想することの大切さと、虫の目から鳥と魚の目の視点で考えることを学修する。（社会や世の中変化からの視点） ・社会や世の中変化からのビジネスチャンス（小演習）	予習：世の中の変化を1つ以上挙げる。（1時間） 復習：世の中の変化からのチャンスのリストを充実させる。（1時間）
第4回	地域の課題から新たなビジネスのチャンスの発見 ・地域の課題を理解し、それを自分たちのアイデアで解決できることを学修する。 ・地域の課題からのビジネスのチャンス（小演習）	予習：自分の関心のある地域とその課題を1つ以上挙げる。（1時間） 復習：地域の課題からのビジネスのチャンスのリストを充実させる。（1時間）
第5回	技術・資源からのビジネスのチャンス ・大学の技術発の起業例の紹介の上、技術・資源からのチャンスの検討方法を学修する。 ・技術・資源からのビジネスチャンス（小演習）	予習：自分の興味のある研究室のテーマを1つ以上挙げる。（1時間） 復習：技術・資源からのチャンスのリストを充実させる。（1時間）
第6回	ビジネスプランの全体像とアイデアを整理し選択（発散から収束） ・ビジネスプランの全体像の説明。 ・アイデアを出すことの意味。良いアイデアとはどのようなものか。 ・物事を考える上で発散と収束の大切さと、収束の方法としてアイデアの選択と整理の切り口を学修する。 ・ビジネスチャンスのアイデアを整理して機会アイデアを選ぶ（小演習）	予習：第1、2、3、4回の小演習でのアイデアをリストにしておく。（1時間） 復習：ビジネスチャンスのアイデアを追加してみる。（1時間）
第7回	顧客のペルソナを想定 ・顧客はどのような企業や人で、どんな生活をしておりどんな困り事があるか。 ・選択した機会アイデアの顧客のペルソナを考える。（小演習）	予習：第5回で選択した機会アイデアの顧客のペルソナを考えてみる。（1時間） 復習：機会アイデアについて小演習で検討したペルソナとは別なペルソナを考える。（1時間）
第8回	製品・サービスのセグメンテーション、顧客ウオントと競合差別化 ・製品を区分し製品にあう顧客ウオントの企画を学修する。 ・競合を把握して競合へ差別化する。 ・機会アイデアの製品の区分と顧客ウオントと競合差別化する。（小演習）	予習：第5回で選択した機会アイデアの製品・サービスの区分と顧客ウオントと競合差別化を考えて見る。（1時間） 復習：機会アイデアについて小演習で検討した製品の区分、顧客ウオントと競合差別化を考える。（1時間）
第9回	製品・サービスのビジネスモデルを企画 ・製品・サービスの典型的なビジネスモデルを学修する。誰が真の顧客か、どのように対価をもらうのか。 ・機会アイデアのビジネスモデルを作成する。（自社、顧客、雇主、仕入先等）（小演習）	予習：第5回で選択した機会アイデアにはどんな関係者が関わるのかを考えておく。（1時間） 復習：機会アイデアについて小演習で検討したビジネスモデルとは別な案を考える。（1時間）
第10回	ビジネスを広げ製品を作り売するのに必要な資源 ・ビジネスを広げて考えるための潜在顧客と、作って売するために必要な業務と資源について学修する。 ・自分の製品・サービスをアピール・売込み、製造、提供する方法（小演習）	予習：これまで小演習結果をまとめ中間段階の成果物として作成し提出する。 ビジネスのために必要な資源とは何か考えて見る。（3時間） 復習：自分のビジネスに必要な業務と資源を確認する。（1時間）
第11回	ビジネス活動基本—企業を数字で理解 ビジネスの売上高算出 ・ビジネス活動基本として企業を数字で理解することと、2つのビジネスの売上高算出方法を学修する。 ・販売・製造・提供可能な売上を算出する。（小演習）	予習：企業の業績を示す数字を調べてみる。（1時間） 復習：自分の興味のある会社の業績を示す数字を調べてみる。（1時間）

第 12 回	ビジネスの利益とは ・ビジネスの売上、費用と利益とは何かと、基本的な費用と利益の算出方法を学修する。 ・売上高、費用と利益の算出（小演習）	予習：身の回りの製品やサービス（例：ラーメン屋）の費用を考えて見る。（1 時間） 復習：自分のビジネスの費用と利益を精緻に検討してみる。（1 時間）
第 13 回	開業資金の計画と調達 ・ビジネスを進めるために必要な元手として開業費用と運転費用についてと、その確保のために活用する金融機関等の活用方法を学修する。 ・開業資金の計画と調達方法の検討（小演習）	予習：身の回りのビジネス（例：ラーメン屋）を開業するために必要な設備や施設を考えて見る。（1 時間） 復習：自分のビジネスの開業資金を精緻に検討し、どこから提供をうけるかを考える。（1 時間）
第 14 回	ビジネスの差別化と障害の解消 全体の振り返り ・ビジネスの様々な差別化方法（含む特許）と、障害をいかに解消するかを学修する。 ・授業の全体の流れを振り返る。 ・皆さんの今後に向けて学校と企業での活動の違いについて紹介する。	予習：最終レポートとしてビジネスプランを作成する。（3 時間） 復習：授業内容を受けてビジネスプランの充実を図る。（3 時間）
課題等に対するフィードバック	毎回の小演習やアンケート結果については教員が確認し、留意点や回答傾向などの分析結果を全体に対してフィードバックする。中間レポートはフィードバック希望者全員に個別にフィードバックを行う。	
評価方法と基準	最終課題のビジネスプランは、大学主催の「ビジネスプランコンテスト」の一次審査をかね評価。授業としての評価項目は、ビジネスプランの独自性、論理性、実現性（60%）と、各回の小演習とアンケートの提出とその内容（40%）。中間・最終課題のビジネスプランの各項目が論理的に記述され、小演習やアンケートの各項目が適切に記述され十分な提出回数の場合は合格点とする。なおビジネスプランの記述の独自視点や実現性検討が一般的な範囲であったり、小演習やアンケートの記述や提出回数が最低限の参画度合いと判断される場合は C 評価となる。	
テキスト	各回の授業で資料を配布する。 ・ティナ・シーリング著『20 歳のときに知っておきたかったこと』阪急コミュニケーションズ ISBN 978-4-484-10101-9 ・野口吉昭著『ビジネスプラン・シナリオ作成術』かんき出版 ISBN978-4-7612-7122-0 ・川上智子編集『ビジネスプラン＜第 2 版＞』中央経済社 ISBN 978-4-502-14051-8	
科目の位置付け	起業マインドの理解やビジネスプランの作成を通じて、起業ならびに企業やビジネスとはどのようなものか、どのような姿勢や行動が必要なのかを学ぶ。これはディプロマポリシーの「実現力」「適応力」「創造力」のうち、社会の変化を見据え継続的に価値を生み出す「適応力」、新しい価値を生み出す「創造力」とそれを実現するプランを作成する「実現力」に資するものとなる。こうした学びは起業以外の、就職活動、そして就職後の企業でのビジネス活動に役立てることができる。	
履修登録前準備	授業内でノートパソコンを利用するため、インターネットに接続できる PC を持参する事。また、履修登録前だけではなく授業期間中はサポータル・Teams・大学電子メールアドレスなど複数の方法で連絡を行うので、普段からこれらのアクセスを心がけておくこと。	

授業コード		510530		オムニバス			
科目名		環境・エネルギー・SDGs 概論		単位数		2	
配当学年		2		曜日時限		月曜 1 限	
年度学期		2025 年度 春学期		コース			
対象学科		基_機械, 基_電電, 基_電情, 基_応用, 基_環生, 先_ロボ, 先_情報, 先_データ, 建_建築_A コース, 建_建築_L コース		必選の別		選択科目	
科目区分		共通教育科目					
担当者		八木田 浩史					
実務家教員担当授業		八木田浩史は、エネルギー変換技術の環境側面の評価技術に関する研究開発等の実務経験がある。その経験を活かし、エネルギー利用の環境側面に関して実践的なテーマや実例を授業で扱っている。					
教室		2-375					
授業の目的と進め方		エネルギー利用に伴う環境問題の要因と、エネルギー技術の現状を学び、それらの問題解決の考え方と、解決に必要な技術の基礎知識を修得する。SDGs において取り上げられている様々な課題を取り上げ、広く捉えた地球環境問題について学ぶ。 講義を中心とした授業を行う。提出された課題等は内容を確認した上で、次の授業にて補足説明を行います。内容を必ず復習してください。					
達成目標	目標 1	エネルギー利用に伴う環境問題について、事例を挙げて説明できる。【25%】					
	目標 2	エネルギー技術の現状について、エネルギー需要、エネルギー供給などの論点を含めて解説できる。【25%】					
	目標 3	各種の地球環境問題について、論点を挙げて簡単に説明できる。【25%】					
	目標 4	環境とエネルギー問題の解決における SDGs の位置づけについて簡単に説明できる。【25%】					
	目標 5						
	目標 6						
	目標 7						
アクティブ・ラーニング		ディスカッション		ディベート		グループワーク	
		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク	
		その他課題解決型学習					

	授業計画	授業時間外学修（予習及び復習を含む）
第1回	エネルギーと環境問題の概要	エネルギーと環境について調べて予習すること（1時間）。 エネルギーと環境に関わる問題について調査して、その概要について復習すること（1時間）。
第2回	地球環境問題、SDGs の概要	地球環境問題および SDGs について調べて予習すること（1時間）。 さまざまな地球環境問題について調査して、その概要について復習すること（1時間）。
第3回	世界のエネルギーシステムの基本構造	世界のエネルギーシステムについて調べて予習すること（1時間）。 世界のエネルギーシステムについて調査して、その基本構造について復習すること（1時間）。
第4回	化石燃料資源の供給	化石燃料資源の供給について調べて予習すること（1時間）。 世界の化石燃料資源の供給について調査して、その概要について復習すること（1時間）。
第5回	再生可能型エネルギー	再生可能エネルギーについて調べて予習すること（1時間）。 再生可能型エネルギーについて、賦存量、利用技術を調査して、その概要について復習すること（1時間）。
第6回	エネルギー需要の将来推移	エネルギー需給の将来推移について調べて予習すること（1時間）。 エネルギー需要の将来推移について、各種の予測レポートを調査して、その概要について復習すること（1時間）。
第7回	人口・食糧問題	人口と食糧問題について調べて予習すること（1時間）。 人口・食糧問題について状況を調査して、将来の持続可能性について復習すること（1時間）。
第8回	カーボンフットプリント、フードマイレージ	カーボンフットプリント、フードマイレージについて調べて予習すること（1時間）。 カーボンフットプリントについて状況を調査して、現状を整理して復習すること（1時間）。
第9回	持続可能性	持続可能性とはどのようなものか調べて予習すること（1時間）。 持続可能性に関する各種の検討レポートを調査して、その概要について復習すること（1時間）。
第10回	LCA によるエネルギー評価	LCA とはどのようなものか調べて予習すること（1時間）。 LCA によるエネルギーの評価について事例を調査して、論点について復習すること（1時間）。
第11回	リサイクルのエネルギー側面	リサイクルについて調べて予習すること（1時間）。 各種のリサイクルの事例について調査して、エネルギーの側面から整理して復習すること（1時間）。
第12回	エネルギーモデルによるエネルギー評価	エネルギーモデルとはどのようなものか調べて予習すること（1時間）。 エネルギーモデルによるエネルギー評価の事例を調査して、持続可能性の観点について復習すること（1時間）。

第 13 回	エネルギー利用と環境問題	エネルギー利用と環境問題の関係について調べて予習すること（1 時間）。 エネルギー利用に伴う環境問題について再調査して、解決に向けて必要な論点を整理して復習すること（1 時間）。
第 14 回	環境とエネルギー問題の解決に向けた SDGs の役割	環境とエネルギー問題と SDGs の関係について調べて予習すること（1 時間）。 環境問題とエネルギー問題の解決における SDGs の位置づけについて、今後の方向性を含め整理して復習すること（1 時間）。
課題等に対するフィードバック	課題の回答において理解が不十分な部分は、授業内で解説の時間を設ける	
評価方法と基準	毎回の小レポートの結果に基づいて総合得点を求め、60 点以上を合格とする。	
テキスト	テキストは指定しない。毎回プリントを配布する。 {『エネルギー白書』, https://www.enecho.meti.go.jp/about/whitepaper/} {『環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書』, https://www.env.go.jp/policy/hakusyo/}	
科目の位置付け	1 年の「エコ入門」で履修した環境やエネルギーに関する知識に基づき、広義の地球環境問題を含めた環境とエネルギーの関係性、SDGs の位置づけを修得する科目である。	
履修登録前準備	エネルギー・環境問題に関係した新聞記事を読んだりテレビ番組を見るときに、SDGs に関する映像資料をみて、エネルギー・環境・SDGs に関する基礎知識を身に付けておくこと。	

授業コード		510960		オムニバス			
科目名		地域活動演習Ⅰ		単位数		1	
配当学年		2		曜日時限		集中講義	
年度学期		2025 年度 春学期		コース		全コース	
対象学科		基_機械, 基_電電, 基_電情, 基_応用, 基_環生, 先_ロボ, 先_情報, 先_データ, 建_建築_A コース, 建_建築_L コース		必選の別		選択科目	
科目区分		共通教育科目					
担当者		佐々木 誠					
実務家教員担当授業		担当教員の佐々木は、市民活動や行政との協働に関する実践や審査等の実務経験がある。また、建築設計・監理に関する実務経験をもつ。その経験を活かし、建築計画や建築設計に関して、実践的なテーマや実例を授業で扱っている。					
教室							
授業の目的と進め方		地域と連携する具体的なプロジェクトを実施する学科・学年を超えたチームのうち一つに参加し、本人の興味やスキルに応じて何らかの役割をチームの一員として担う。それにより、多分野の専門職が連携してアイデア創出や課題発見、解決のプロセスを実践的に身につける。					
達成目標	目標 1	地域のリアルなニーズや課題を受け止め、具体的なプロジェクトに主体的に実施する役割を担える【30%】					
	目標 2	専門領域を超えたチームにおいて役割分担し、協調してコラボレーションしプロジェクトを運営することができる【40%】					
	目標 3	地域活動に役立つ高度な情報収集や、市民に共感を与えるプレゼンテーションをすることができる【30%】					
	目標 4						
	目標 5						
	目標 6						
	目標 7						
アクティブ・ラーニング		ディスカッション	○	ディベート		グループワーク	○
		プレゼンテーション	○	実習	○	フィールドワーク	○
		その他課題解決型学習					

	授業計画	授業時間外学修（予習及び復習を含む）
第1回	ガイダンス／授業の全体像	授業を振り返る(1時間)
第2回	基礎1：マナー／心構え／交流	予習：事例をレビューする（マナー／心構え／交流）(1時間) ／復習：授業を振り返る(1時間)
第3回	基礎2：GW／WS	予習：事例（GW／WS）をレビューする(1時間) ／復習：授業を振り返る(1時間)
第4回	基礎3：チーム／連携／コラボレーション	予習：事例（チーム／連携／コラボレーション）をレビューする(1時間) ／復習：授業を振り返る(1時間)
第5回	地域活動の実践1	予習：事例（地域活動の実践1）をレビューする(1時間) ／復習：授業を振り返る(1時間)
第6回	地域活動の実践2	予習：事例(地域活動の実践2)をレビューする(1時間) ／復習：授業を振り返る(1時間)
第7回	地域活動の実践3	予習：事例(地域活動の実践3)をレビューする(1時間) ／復習：授業を振り返る(1時間)
第8回	地域活動の実践4	予習：事例(地域活動の実践4)をレビューする(1時間) ／復習：授業を振り返る(1時間)
第9回	中間報告	予習：事例（地域活動の実践）をレビューする(1時間) ／復習：授業を振り返る(1時間)
第10回	地域活動の実践5	予習：事例(地域活動の実践5)をレビューする(1時間) ／復習：授業を振り返る(1時間)
第11回	地域活動の実践6	予習：事例(地域活動の実践6)をレビューする(1時間) ／復習：授業を振り返る(1時間)
第12回	地域活動の実践7	予習：事例(地域活動の実践7)をレビューする(1時間) ／復習：授業を振り返る(1時間)

第 13 回	地域活動の実践 8	予習：事例（地域活動の実践 8）をレビューする（1 時間） ／ 復習：授業を振り返る（1 時間）
第 14 回	成果報告	予習：授業全体を振り返る（1 時間） ／ 復習：授業を振り返る（1 時間）
課題等に対するフィードバック	授業において、講評、コメント、意見交換、ディスカッション等を行う。	
評価方法と基準	プロジェクトや発信サイト運営への参加 発表会への参加と発表 C評価となる基準は、全授業の 2/3 以上出席し、発表会の発表において 50%以上の評価を得たうえで、総合評価 60%を満たすことである。	
テキスト	授業内で適宜紹介する 授業内で適宜紹介する	
科目の位置付け	地域連携センターが監修する授業である。 「地域活動リテラシー」（1 年秋）において学んだ基礎を実践的に演習する科目である。 「地域活動演習Ⅰ」「地域活動演習Ⅱ」「地域活動演習Ⅲ」「地域活動演習Ⅳ」の順に内容を深めていく。 履修は 1 つずつ順番にし、同時履修は不可とする。	
履修登録前準備	「地域活動リテラシー」（1 年秋）を履修していること、あるいは、同時や後からでも履修することが望ましい。 既に履修した「地域活動リテラシー」（1 年秋）を実践活動に活かせるよう、十分にふりかえる。	

授業コード		510961		オムニバス			
科目名		地域活動演習Ⅱ		単位数		1	
配当学年		2		曜日時限		集中講義	
年度学期		2025 年度 春学期		コース		全コース	
対象学科		基_機械, 基_電電, 基_電情, 基_応用, 基_環生, 先_ロボ, 先_情報, 先_データ, 建_建築_A コース, 建_建築_L コース		必選の別		選択科目	
科目区分		共通教育科目					
担当者		佐々木 誠					
実務家教員担当授業		担当教員の佐々木は、市民活動や行政との協働に関する実践や審査等の実務経験がある。また、建築設計・監理に関する実務経験をもつ。その経験を活かし、建築計画や建築設計に関して、実践的なテーマや実例を授業で扱っている。					
教室							
授業の目的と進め方		地域と連携する具体的なプロジェクトを実施する学科・学年を超えたチームのうち一つに参加し、本人の興味やスキルに応じて何らかの役割をチームの一員として担う。それにより、多分野の専門職が連携してアイデア創出や課題発見、解決のプロセスを実践的に身につける。					
達成目標	目標 1	地域のリアルなニーズや課題を受け止め、具体的なプロジェクトに主体的に実施する役割を担える【30%】					
	目標 2	専門領域を超えたチームにおいて役割分担し、協調してコラボレーションしプロジェクトを運営することができる【40%】					
	目標 3	地域活動に役立つ高度な情報収集や、市民に共感をえるプレゼンテーションをすることができる【30%】					
	目標 4						
	目標 5						
	目標 6						
	目標 7						
アクティブ・ラーニング	ディスカッション	○	ディベート		グループワーク	○	
	プレゼンテーション	○	実習	○	フィールドワーク	○	
	その他課題解決型学習						

	授業計画	授業時間外学修（予習及び復習を含む）
第1回	ガイダンス／授業の全体像	授業を振り返る(1時間)
第2回	基礎1：マナー／心構え／交流	予習：事例をレビューする（マナー／心構え／交流）(1時間) ／復習：授業を振り返る(1時間)
第3回	基礎2：GW／WS	予習：事例（GW／WS）をレビューする(1時間) ／復習：授業を振り返る(1時間)
第4回	基礎3：チーム／連携／コラボレーション	予習：事例（チーム／連携／コラボレーション）をレビューする(1時間) ／復習：授業を振り返る(1時間)
第5回	地域活動の実践1	予習：事例（地域活動の実践1）をレビューする(1時間) ／復習：授業を振り返る(1時間)
第6回	地域活動の実践2	予習：事例(地域活動の実践2)をレビューする(1時間) ／復習：授業を振り返る(1時間)
第7回	地域活動の実践3	予習：事例(地域活動の実践3)をレビューする(1時間) ／復習：授業を振り返る(1時間)
第8回	地域活動の実践4	予習：事例(地域活動の実践4)をレビューする(1時間) ／復習：授業を振り返る(1時間)
第9回	中間報告	予習：事例（地域活動の実践）をレビューする(1時間) ／復習：授業を振り返る(1時間)
第10回	地域活動の実践5	予習：事例(地域活動の実践5)をレビューする(1時間) ／復習：授業を振り返る(1時間)
第11回	地域活動の実践6	予習：事例(地域活動の実践6)をレビューする(1時間) ／復習：授業を振り返る(1時間)
第12回	地域活動の実践7	予習：事例(地域活動の実践7)をレビューする(1時間) ／復習：授業を振り返る(1時間)

第 13 回	地域活動の実践 8	予習：事例（地域活動の実践 8）をレビューする（1 時間） ／ 復習：授業を振り返る（1 時間）
第 14 回	成果報告	予習：授業全体を振り返る（1 時間） ／ 復習：授業を振り返る（1 時間）
課題等に対するフィードバック	授業において、講評、コメント、意見交換、ディスカッション等を行う。	
評価方法と基準	プロジェクトや発信サイト運営への参加 発表会への参加と発表 C評価となる基準は、全授業の 2/3 以上出席し、発表会の発表において 50%以上の評価を得たうえで、総合評価 60%を満たすことである。	
テキスト	授業内で適宜紹介する 授業内で適宜紹介する	
科目の位置付け	地域連携センターが監修する授業である。 「地域活動リテラシー」（1 年秋）において学んだ基礎を実践的に演習する科目である。 「地域活動演習Ⅰ」「地域活動演習Ⅱ」「地域活動演習Ⅲ」「地域活動演習Ⅳ」の順に内容を深めていく。 履修は 1 つずつ順番にし、同時履修は不可とする。	
履修登録前準備	「地域活動リテラシー」（1 年秋）を履修していること、あるいは、同時や後からでも履修することが望ましい。 既に履修した「地域活動リテラシー」（1 年秋）を実践活動に活かせるよう、十分にふりかえる。	

授業コード		511032		オムニバス			
科目名		地域活動演習Ⅲ		単位数		1	
配当学年		3		曜日時限		集中講義	
年度学期		2025 年度 春学期		コース		全コース	
対象学科		基_機械, 基_電電, 基_電情, 基_応用, 基_環生, 先_ロボ, 先_情報, 先_データ, 建_建築_A コース, 建_建築_L コース		必選の別		選択科目	
科目区分		共通教育科目					
担当者		佐々木 誠					
実務家教員担当授業		担当教員の佐々木は、市民活動や行政との協働に関する実践や審査等の実務経験がある。また、建築設計・監理に関する実務経験をもつ。その経験を活かし、建築計画や建築設計に関して、実践的なテーマや実例を授業で扱っている。					
教室							
授業の目的と進め方		地域と連携する具体的なプロジェクトを実施する学科・学年を超えたチームのうち一つに参加し、本人の興味やスキルに応じて何らかの役割をチームの一員として担う。それにより、多分野の専門職が連携してアイデア創出や課題発見、解決のプロセスを実践的に身につける。					
達成目標	目標 1	地域のリアルなニーズや課題を受け止め、具体的なプロジェクトに主体的に実施する役割を担える【30%】					
	目標 2	専門領域を超えたチームにおいて役割分担し、協調してコラボレーションしプロジェクトを運営することができる【40%】					
	目標 3	地域活動に役立つ高度な情報収集や、市民に共感を与えるプレゼンテーションをすることができる【30%】					
	目標 4						
	目標 5						
	目標 6						
	目標 7						
アクティブ・ラーニング	ディスカッション	○	ディベート		グループワーク	○	
	プレゼンテーション	○	実習	○	フィールドワーク	○	
	その他課題解決型学習						

	授業計画	授業時間外学修（予習及び復習を含む）
第1回	ガイダンス／授業の全体像	授業を振り返る(1時間)
第2回	基礎1：マナー／心構え／交流	予習：事例をレビューする（マナー／心構え／交流）(1時間) ／復習：授業を振り返る(1時間)
第3回	基礎2：GW／WS	予習：事例（GW／WS）をレビューする(1時間) ／復習：授業を振り返る(1時間)
第4回	基礎3：チーム／連携／コラボレーション	予習：事例（チーム／連携／コラボレーション）をレビューする(1時間) ／復習：授業を振り返る(1時間)
第5回	地域活動の実践1	予習：事例（地域活動の実践1）をレビューする(1時間) ／復習：授業を振り返る(1時間)
第6回	地域活動の実践2	予習：事例(地域活動の実践2)をレビューする(1時間) ／復習：授業を振り返る(1時間)
第7回	地域活動の実践3	予習：事例(地域活動の実践3)をレビューする(1時間) ／復習：授業を振り返る(1時間)
第8回	地域活動の実践4	予習：事例(地域活動の実践4)をレビューする(1時間) ／復習：授業を振り返る(1時間)
第9回	中間報告	予習：事例（地域活動の実践）をレビューする(1時間) ／復習：授業を振り返る(1時間)
第10回	地域活動の実践5	予習：事例(地域活動の実践5)をレビューする(1時間) ／復習：授業を振り返る(1時間)
第11回	地域活動の実践6	予習：事例(地域活動の実践6)をレビューする(1時間) ／復習：授業を振り返る(1時間)
第12回	地域活動の実践7	予習：事例(地域活動の実践7)をレビューする(1時間) ／復習：授業を振り返る(1時間)

第 13 回	地域活動の実践 8	予習：事例（地域活動の実践 8）をレビューする（1 時間） ／ 復習：授業を振り返る（1 時間）
第 14 回	成果報告	予習：授業全体を振り返る（1 時間） ／復習：授業を振り返る（1 時間）
課題等に対するフィードバック	授業において、講評、コメント、意見交換、ディスカッション等を行う。	
評価方法と基準	プロジェクトや発信サイト運営への参加 発表会への参加と発表 C評価となる基準は、全授業の 2/3 以上出席し、発表会の発表において 50%以上の評価を得たうえで、総合評価 60%を満たすことである。	
テキスト	授業内で適宜紹介する 授業内で適宜紹介する	
科目の位置付け	地域連携センターが監修する授業である。 「地域活動リテラシー」（1 年秋）において学んだ基礎を実践的に演習する科目である。 「地域活動演習Ⅰ」「地域活動演習Ⅱ」「地域活動演習Ⅲ」「地域活動演習Ⅳ」の順に内容を深めていく。 履修は 1 つずつ順番にし、同時履修は不可とする。	
履修登録前準備	「地域活動リテラシー」（1 年秋）を履修していること、あるいは、同時や後からでも履修することが望ましい。 既に履修した「地域活動リテラシー」（1 年秋）を実践活動に活かせるよう、十分にふりかえる。	

授業コード		511033		オムニバス			
科目名		地域活動演習Ⅳ		単位数		1	
配当学年		3		曜日時限		集中講義	
年度学期		2025 年度 春学期		コース		全コース	
対象学科		基_機械, 基_電電, 基_電情, 基_応用, 基_環生, 先_ロボ, 先_情報, 先_データ, 建_建築_A コース, 建_建築_L コース		必選の別		選択科目	
科目区分		共通教育科目					
担当者		佐々木 誠					
実務家教員担当授業		担当教員の佐々木は、市民活動や行政との協働に関する実践や審査等の実務経験がある。また、建築設計・監理に関する実務経験をもつ。その経験を活かし、建築計画や建築設計に関して、実践的なテーマや実例を授業で扱っている。					
教室							
授業の目的と進め方		地域と連携する具体的なプロジェクトを実施する学科・学年を超えたチームのうち一つに参加し、本人の興味やスキルに応じて何らかの役割をチームの一員として担う。それにより、多分野の専門職が連携してアイデア創出や課題発見、解決のプロセスを実践的に身につける。					
達成目標	目標 1	地域のリアルなニーズや課題を受け止め、具体的なプロジェクトに主体的に実施する役割を担える【30%】					
	目標 2	専門領域を超えたチームにおいて役割分担し、協調してコラボレーションしプロジェクトを運営することができる【40%】					
	目標 3	地域活動に役立つ高度な情報収集や、市民に共感を与えるプレゼンテーションをすることができる【30%】					
	目標 4						
	目標 5						
	目標 6						
	目標 7						
アクティブ・ラーニング		ディスカッション	○	ディベート		グループワーク	○
		プレゼンテーション	○	実習	○	フィールドワーク	○
		その他課題解決型学習					

	授業計画	授業時間外学修（予習及び復習を含む）
第 1 回	ガイダンス／授業の全体像	授業を振り返る(1 時間)
第 2 回	基礎 1：マナー／心構え／交流	予習：事例をレビューする（マナー／心構え／交流）(1 時間) ／復習：授業を振り返る(1 時間)
第 3 回	基礎 2：GW／WS	予習：事例（GW／WS）をレビューする(1 時間) ／復習：授業を振り返る(1 時間)
第 4 回	基礎 3：チーム／連携／コラボレーション	予習：事例（チーム／連携／コラボレーション）をレビューする(1 時間) ／復習：授業を振り返る(1 時間)
第 5 回	地域活動の実践 1	予習：事例（地域活動の実践 1）をレビューする(1 時間) ／復習：授業を振り返る(1 時間)
第 6 回	地域活動の実践 2	予習：事例(地域活動の実践 2)をレビューする(1 時間) ／復習：授業を振り返る(1 時間)
第 7 回	地域活動の実践 3	予習：事例(地域活動の実践 3)をレビューする(1 時間) ／復習：授業を振り返る(1 時間)
第 8 回	地域活動の実践 4	予習：事例(地域活動の実践 4)をレビューする(1 時間) ／復習：授業を振り返る(1 時間)
第 9 回	中間報告	予習：事例（地域活動の実践）をレビューする(1 時間) ／復習：授業を振り返る(1 時間)
第 10 回	地域活動の実践 5	予習：事例(地域活動の実践 5)をレビューする(1 時間) ／復習：授業を振り返る(1 時間)
第 11 回	地域活動の実践 6	予習：事例(地域活動の実践 6)をレビューする(1 時間) ／復習：授業を振り返る(1 時間)
第 12 回	地域活動の実践 7	予習：事例(地域活動の実践 7)をレビューする(1 時間) ／復習：授業を振り返る(1 時間)

第 13 回	地域活動の実践 8	予習：事例（地域活動の実践 8）をレビューする（1 時間） ／ 復習：授業を振り返る（1 時間）
第 14 回	成果報告	予習：授業全体を振り返る（1 時間） ／復習：授業を振り返る（1 時間）
課題等に対するフィードバック	授業において、講評、コメント、意見交換、ディスカッション等を行う。	
評価方法と基準	プロジェクトや発信サイト運営への参加 発表会への参加と発表 C評価となる基準は、全授業の 2/3 以上出席し、発表会の発表において 50%以上の評価を得たうえで、総合評価 60%を満たすことである。	
テキスト	授業内で適宜紹介する 授業内で適宜紹介する	
科目の位置付け	地域連携センターが監修する授業である。 「地域活動リテラシー」（1 年秋）において学んだ基礎を実践的に演習する科目である。 「地域活動演習Ⅰ」「地域活動演習Ⅱ」「地域活動演習Ⅲ」「地域活動演習Ⅳ」の順に内容を深めていく。 履修は 1 つずつ順番にし、同時履修は不可とする。	
履修登録前準備	「地域活動リテラシー」（1 年秋）を履修していること、あるいは、同時や後からでも履修することが望ましい。 既に履修した「地域活動リテラシー」（1 年秋）を実践活動に活かせるよう、十分にふりかえる。	

授業コード		511056		オムニバス			
科目名		ものづくり基礎実習Ⅰ		単位数		1	
配当学年		1		曜日時限		土曜3限 土曜4限	
年度学期		2025 年度 春学期		コース			
対象学科		基_機械, 基_電電, 基_電情, 基_応用, 基_環生, 先_ロボ, 先_情報, 先_データ, 建_建築_A コース, 建_建築_L コース		必選の別		選択科目	
科目区分		共通教育科目					
担当者		進藤 卓也、配島 雄、峯 敏秀					
実務家教員担当授業		担当教員の進藤は、防災機器メーカーにおいて、電子回路設計とマイコン制御に関する実務経験がある。 その経験を通して、ものづくりに必要な基礎力の育成を授業で扱っている。					
教室		スチューデントラボ 技術室					
授業の目的と進め方		全学科学生を対象とした“ものづくりの基礎”を学ぶ科目である。学科の専門性に特化したものづくりではなく、基本的な道具の取り扱いや手順・安全性を体得したうえで、品質管理や安全確保に必要な姿勢、意欲、技能、知識を修得することを目的とする。 レポートや課題についてのフィードバックは授業内で随時行う。また、実習中に加工や製作を行なったライントレースカーについて講評を行う。					
達成目標	目標 1	ものづくりにおける、安全衛生、KYT について理解することができる。【20%】					
	目標 2	基本的な工具類の取り扱い方法について、木材加工、金属加工の実習を通して学び、実践することができる。【40%】					
	目標 3	基本的な電子回路部品の取り扱い、はんだ付けについて、電子回路基板の製作を通して学び、実践することができる。【40%】					
	目標 4						
	目標 5						
	目標 6						
	目標 7						
アクティブ・ラーニング	ディスカッション	○	ディベート		グループワーク	○	
	プレゼンテーション	○	実習	○	フィールドワーク		
	その他課題解決型学習						

	授業計画	授業時間外学修（予習及び復習を含む）
第1回	ものづくりを学ぶ上で必要となる安全衛生教育・KYT 教育を実施する。	予習として、安全衛生について調べる。(0.5 時間) 復習として、安全衛生教育のレポートをまとめる。(2 時間)
第2回	ラントレースカーの製作を行う上で、電気回路製作グループと機械・木材加工グループに分かれて実施する。電気回路 Gr は、電子部品の取り扱い説明を行う。機械・木材加工 Gr は、材料加工のための工具類の取り扱い説明を行う。	予習として自宅にある工具について、使い方を調べる。(1 時間) 復習として工具や部品の取り扱い方を確認する。(1 時間)
第3回	はんだ付けの基礎理論および取り扱い方について学習し、はんだ付け実習を行う。アルミ材のヤスリがけおよび穴あけ加工を行う。	材料加工方法について予習しておくこと。(1 時間) はんだ付けの基礎をしっかりと復習する。(1 時間)
第4回	ラントレースカーの電子回路基板製作を行う。ボール盤の取り扱い方法、安全な使用方法を学びアルミ材の穴あけ加工を行う。	予習として工作機械について調べる。(1 時間) 安全に工作機械を取り扱う方法について、復習する。(1 時間)
第5回	ラントレースカー基板のはんだ付けを行う。ラントレースカーのボディ成型加工のための木型を製作する。木材のカット、ヤスリがけを行う。	木材の加工方法について予習する。(1 時間) はんだ付けの正確な手法を復習する。(1 時間)
第6回	ラントレースカーを完成させ、動作原理を学ぶ。木材加工した木型を用いて真空成型機を使用して PET 材料のボディ成型を行う。	ラントレースカーの動作原理を予習する。(1 時間) 真空成型機の取り扱いおよび原理を復習する。(1 時間)
第7回	電気回路 Gr と機械・木材加工 Gr が相互に入替えて実施する。電気回路 Gr は、電子部品の取り扱い説明を行う。機械・木材加工 Gr は、材料加工のための工具類の取り扱い説明を行う。	予習として、安全衛生について調べる。(0.5 時間) 復習として、安全衛生教育のレポートをまとめる。(2 時間)
第8回	電気回路 Gr は、電子部品の取り扱い説明を行う。機械・木材加工 Gr は、材料加工のための工具類の取り扱い説明を行う。	予習として自宅にある工具について、使い方を調べる。(1 時間) 復習として工具や部品の取り扱い方を確認する。(1 時間)
第9回	はんだ付けの基礎理論および取り扱い方について学習し、はんだ付け実習を行う。アルミ材のヤスリがけおよび穴あけ加工を行う。	材料加工方法について予習しておくこと。(1 時間) はんだ付けの基礎をしっかりと復習する。(1 時間)
第10回	ラントレースカーの電子回路基板製作を行う。ボール盤の取り扱い方法、安全な使用方法を学びアルミ材の穴あけ加工を行う。	予習として工作機械について調べる。(1 時間) 安全に工作機械を取り扱う方法について、復習する。(1 時間)
第11回	ラントレースカー基板のはんだ付けを行う。ラントレースカーのボディ成型加工のための木型を製作する。木材のカット、ヤスリがけを行う。	木材の加工方法について予習する。(1 時間) はんだ付けの正確な手法を復習する。(1 時間)
第12回	ラントレースカーを完成させ、動作原理を学ぶ。木材加工した木型を用いて真空成型機を使用して PET 材料のボディ成型を行う。	ラントレースの動作原理を予習する。(1 時間) 真空成型機の取り扱いおよび原理を復習する。(1 時間)

第 13 回	ライトレースカーの基板とボディを組み上げる。その後走行テストを行い、タイムトライアルを行う。	予習として、製作した基板とボディの組み立てについて確認しておく。(1 時間) ライトレースカーの製作過程を復習する。(1 時間)
第 14 回	複数グループに編成し、リーダーを選出する。ものづくりを行う上で必要な安全考慮、技術力などについてグループディスカッションを行い、グループリーダーが発表を行う。発表に対し質疑応答を行う。	予習として安全に配慮しながらものづくりの体験をまとめる。(1 時間) ものを作り上げるための手法などについて復習しておくこと。(1 時間)
課題等に対するフィードバック	製作過程で製作物についてのアドバイスをを行うほか、完成した課題に対する講評を行う。	
評価方法と基準	実習への取り組み姿勢を主とし、安全教育レポートおよびグループディスカッションへの取り組み姿勢により評価する。 安全教育レポートが提出され、グループディスカッションを含めて実習に積極的に取り組む姿勢が見られ、ライトレースカーの製作が完成していることを基準に合格とする。	
テキスト	この授業のために作成したテキストを初回に配布する。 必要に応じて追加資料として配布する。	
科目の位置付け	専門に特化しないものづくりを題材としたものづくりリテラシーを身につけ、技量・知識および安全教育・品質管理に関する基礎を学ぶ。	
履修登録前準備	オリエンテーションや説明会などを予定しているので、必ず出席すること。	

授業コード		520288		オムニバス			
科目名		新会社設立と技術経営		単位数		2	
配当学年		3		曜日時限		月曜 3 限	
年度学期		2025 年度 秋学期		コース			
対象学科		基_機械, 基_電電, 基_電情, 基_応用, 基_環生, 先_ロボ, 先_情報, 先_データ, 建_建築_A コース, 建_建築_L コース		必選の別		選択科目	
科目区分		共通教育科目					
担当者		浅見 哲也					
実務家教員担当授業		国内電機メーカーで半導体研究と製品開発に従事。 その後、半導体研究開発型ベンチャー会社を起業。 経営者としての実務経験を踏まえ本講座を担当。 専門職大学院では「技術戦略と技術マネジメント」「技術・社会の展望と企業倫理」等の講座を担当。					
教室		3-325					
授業の目的と進め方		本講座は「ビジネスとは何か?」、ビジネスモデルとビジネスプラン策定の基礎を理解する。 そのうえで、ビジネスプランを具体化するにあたり、「会社とは何か?」の基本を理解する。 マネジメントのあり方、中堅・中小企業の優位性と限界性を踏まえた技術経営の在り方を学ぶ。					
達成目標	目標 1	・ビジネスとは何か?会社とは何か、経営者とは何か?の基本を理解する。 ・ビジネスにおいて、顧客セグメント、差異化の考え方の重要性を理解する。 ・ビジネス戦略を構成する3要素（Who、What、How）を理解する。					
	目標 2	・会社設立・運営のための資金・人材・組織のマネジメントの手法を身に着ける。					
	目標 3	・中堅、中小企業における技術経営の考え方ができるようになる。 ・就職、会社に入った際に経営者目線の企業活動が理解できるようになる。					
	目標 4						
	目標 5						
	目標 6						
	目標 7						
アクティブ・ラーニング		ディスカッション		ディベート		グループワーク	
		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク	
		その他課題解決型学習					

	授業計画	授業時間外学修（予習及び復習を含む）
第1回	ビジネスとは何か？ ・ビジネスの目的を理解する	予習：ビジネスとは何か？を検討しておくこと 復習：ビジネスの目的設定の重要性を理解すること
第2回	ビジネスモデル／ビジネスプランの基本フレーム ・ビジネスプランを構成する要素を理解する	予習：ビジネスモデルとは何か？調べておくこと 復習：ビジネスプランの必要性、構成要素の理解
第3回	ビジネスの差別化と優位性 ・ビジネスにおいて差別化の視点を学ぶ	予習：商品やサービスの差別化を図る必要性 復習：身近な商品やサービスを事例に差別化を確認
第4回	ビジネスの事業収支 ・プランにおける売上・支出額の想定方法を学ぶ	予習：事業収支とはどのような意味を持つのか 復習：身近なビジネスを参考に事業収支試算する
第5回	ビジネスの事業化プロセス ・事業化を進めるプロセスを学ぶ	予習：事業化の課題を事前に検討する 復習：事業化プロセスの再確認
第6回	ビジネスプランを実現する会社組織 ・会社組織の必要を認識する ・個人事業との違いを理解する	予習：会社は何のために存在するか？ 復習：会社設立は目的ではなく手段であることの確認
第7回	ビジネスプランの実現のための会社組織の選択 ・法人組織の形態を理解する ・事業目的などから適切な形態を選択する	予習：いろいろな組織形態の調査 復習：身近な会社組織の形態を調査確認する
第8回	新会社の会社名、ロゴマーク、事業所立地 ・会社名、ロゴマークと経営戦略の関係理解	予習：身近な会社の名前、ロゴマークの確認 復習：自分の新会社の会社名、ロゴマークの検討
第9回	新会社の資金調達（開業資金、運転資金） ・開業資金と運転資金が必要かを算出する ・その資金をどのように確保するかを学ぶ	予習：会社設立に必要な資金額の調査 復習：自身のビジネスに必要な資金、確保方法の確認
第10回	新会社の人材確保・育成 ・新会社運営において必要人材像を明らかにする	予習：会社にはどのような人材が欲しているのか 復習：人材を確保、育成方法の確認
第11回	新会社における技術経営 ・顧客ニーズへの対応 ・それに必要な技術、技能の理解	予習：顧客を満足させる商品・サービス提供する方法 復習：顧客が価値を感じる技術の理解
第12回	新会社における外部の経営資源を活用する技術経営 ・新会社において顧客ニーズを満足させる技術、技能が社内ですぐでない場合、必要とする技術、技能を持つ中小企業等をどのように確保すればよいか	予習：顧客ニーズを満足させるために必要な技術 復習：必要技術、技能の取り込み方

第 13 回	新会社の事業収支とマネジメント ・新会社における商品・サービスなどの価格設定、製造原価等の費用項目の想定方法。事業収支の試算、損益分岐点の算出、利益を高めるための方法検討	予習：利益獲得できるビジネスプランの策定 復習：利益獲得できるビジネスプランの確認
第 14 回	新会社設立のための手続きと書類作成 ・会社設立の申請手続きの理解	予習：株式会社設立の手続き調査 復習：株式会社設立に必要な準備、作業フロー確認
課題等に対するフィードバック	提出課題のフィードバックを授業内で実施する。	
評価方法と基準	成績評価の対象を以下に示す。 ・筆記試験の結果 ・毎回の課題リポートの結果 ・講義への参加姿勢	
テキスト	Teams を通じて、事前に配布する。 適宜紹介する	
科目の位置付け	本講座はビジネスの基本構成を理解することからはじめる。 ビジネスプランをベースにどのように起業し事業マネジメントすべきかを学ぶことを基本とする。 就職した会社で新事業を立ち上げることが任務となった場合、就職した会社から独立・創業する場合、技術者として経営感覚を身に着ける必要が高まった場合に役立つ。	
履修登録前準備	春学期の「起業とビジネスプラン」の授業を履修していない学生も受講可能。	

授業コード		520584		オムニバス			
科目名		ライフサイクルアセスメント概論		単位数		2	
配当学年		2		曜日時限		金曜 1 限	
年度学期		2025 年度 秋学期		コース			
対象学科		基_機械, 基_電電, 基_電情, 基_応用, 基_環生, 先_ロボ, 先_情報, 先_データ, 建_建築_A コース, 建_建築_L コース		必選の別		選択科目	
科目区分		共通教育科目					
担当者		八木田 浩史					
実務家教員担当授業		八木田浩史は、工業製品の環境側面の評価技術に関する研究開発等の実務経験がある。その経験を活かし、工業製品の環境側面の評価に関して実践的なテーマや実例を授業で扱っている。					
教室		1-355					
授業の目的と進め方		LCA（Life Cycle Assessment）の方法と具体例を示し、環境評価を理解すると共に、企業のあり方について考える。LCA の概念と手法を学ぶと共に、更に循環型社会をめざした企業の活動としての LCA 活用事例も学ぶ。 講義を中心とした授業を行う。提出された課題等は内容を確認した上で、次回の授業等で補足説明を行います。内容を必ず復習してください。					
達成目標	目標 1	ライフサイクルアセスメントの概念を簡単に説明できる。【25%】					
	目標 2	製品をライフサイクルアセスメントに基づいて環境評価する際の、機能、機能単位の設定について解説できる。【25%】					
	目標 3	資源消費および環境負荷物質の発生を環境影響に関連づけて評価する手法論を説明できる。【25%】					
	目標 4	異なる製品が提供する同様のサービスを比較評価する際の機能単位の設定について解説できる。【25%】					
	目標 5						
	目標 6						
	目標 7						
アクティブ・ラーニング	ディスカッション		ディベート		グループワーク		
	プレゼンテーション		実習		フィールドワーク		
	その他課題解決型学習						

	授業計画	授業時間外学修（予習及び復習を含む）
第1回	ライフサイクルアセスメント（LCA）の概要	LCA とはどのようなものか調べて予習すること（1時間）。 自分の身の回りあるいは自分の知識の中で、地球温暖化の影響と思われるものを記述し、地球環境問題について復習すること（1時間）。
第2回	LCA の考え方、歴史、ISO（JIS）	LCA の歴史について調べて予習すること（1時間）。 LCA に基づいて評価してみたい製品を挙げて、その理由を記述して、LCA の概要と考え方について復習すること（1時間）。
第3回	LCA の一般的手順、特徴	LCA の一般的手順について調べて予習すること（1時間）。 冷蔵庫の機能を考えてみる。自分の家にある冷蔵庫に付いている機能を整理して、LCA における機能の扱いについて復習すること（1時間）。
第4回	目的と調査範囲の設定の考え方	LCA の目的と調査範囲の設定について調べて予習すること（1時間）。 冷蔵庫を評価する際の、機能単位の設定について、冷蔵庫に付いている様々な機能の扱いを含めて考えを整理して、LCA の機能単位について復習すること（1時間）。
第5回	製品システムとシステム境界	LCA の製品システムについて調べて予習すること（1時間）。 自分が LCA を用いて評価したいと思った製品を評価する際の機能を整理して、着目する機能を選定して、LCA における製品評価における機能の扱いについて復習すること（1時間）。
第6回	機能と機能単位	LCA の機能と機能単位について調べて予習すること（1時間）。 自分が LCA を用いて評価したいと思った製品を評価する際の機能単位を記述し、LCA における機能単位について復習すること（1時間）。
第7回	インベントリ分析の概要	インベントリ分析について調べて予習すること（1時間）。 自分が LCA を用いて評価したいと思った製品の製造プロセスを調べ、LCA 実施の概要フローとして整理し、LCA におけるプロセスの概要フローについて復習すること（1時間）。
第8回	フォアグラウンドデータ	フォアグラウンドデータとはどのようなものか調べて予習すること（1時間）。 自分が LCA を用いて評価したいと思った製品について、LCA 実施のための詳細フローを作成し、LCA におけるプロセスの詳細フローについて復習すること（1時間）。
第9回	バックグラウンドデータ	バックグラウンドデータとはどのようなものか調べて予習すること（1時間）。 自分が LCA を用いて評価したいと思った製品について、LCA 実施に必要なフォアグラウンドデータを整理し、LCA におけるフォアグラウンドデータについて復習すること（1時間）。
第10回	アロケーション（配分）	アロケーションとはどのようなものか調べて予習すること（1時間）。 銅生産のインベントリ分析を例として、プロセスの連鎖に基づき実際にライフサイクル CO2 を計算し、LCA におけるインベントリ分析の方法について復習すること（1時間）。
第11回	リサイクルの評価	リサイクルの評価の方法について調べて予習すること（1時間）。 銅生産において副生物の硫酸と銅について、重量基準、価格基準での CO2 排出量の配分を計算し、LCA における配分の概念について復習すること（1時間）。

第 12 回	ライフサイクル影響評価の概要	ライフサイクル影響評価の方法論について調べて予習すること（1 時間）。 インベントリ分析までの評価と、インパクト評価について、それぞれの利点、欠点を考えて整理し、LCA におけるインパクト評価の概念について復習すること（1 時間）。
第 13 回	正規化、統合化の考え方	LCA における正規化・統合化について調べて予習すること（1 時間）。 バイオマス燃料の環境側面を LCA に基づき評価する際の論点として考えられる項目を調べて、整理し、バイオ燃料のライフサイクル CO2 の考え方について復習すること（1 時間）。
第 14 回	被害算定型環境影響評価手法	被害算定型環境影響評価手法とはどのようなものか調べて予習すること（1 時間）。 バイオプラスチックの環境側面を LCA に基づき評価する際の論点について整理することにより、素材のライフサイクル CO2 評価の考え方について復習すること（1 時間）。
課題等に対するフィードバック	課題の回答において理解が不十分な部分は、授業内で解説の時間を設ける	
評価方法と基準	毎回の小レポートの結果に基づいて総合得点を求め、60 点以上を合格とする。	
テキスト	テキストは指定しない。毎回プリントを配布する。 稲葉敦、青木良輔、『LCA 概論』、産業環境管理協会【ISBN:978-4862400192】	
科目の位置付け	「エコ入門」などで履修した環境およびエネルギーに関する知識に基づき、製品の環境側面を評価する方法論を修得する科目。製品の評価を理解することは、環境に調和したもののづくりを志向する学生にとって、製品設計における基礎知識として役立つものである。	
履修登録前準備	2 年秋学期の科目であるので、前提となる知識は特に要求しない。ただし、講義中に紹介した内容については積極的に自分で調べたりすること。	

授業コード		520881		オムニバス			
科目名		地域活動リテラシー		単位数		2	
配当学年		1		曜日時限		集中講義	
年度学期		2025 年度 秋学期		コース			
対象学科		基_機械, 基_電電, 基_電情, 基_応用, 基_環生, 先_ロボ, 先_情報, 先_データ, 建_建築_A コース, 建_建築_L コース		必選の別		選択科目	
科目区分		共通教育科目					
担当者		佐々木 誠					
実務家教員担当授業		担当教員の佐々木は、市民活動や行政との協働に関する実践や審査等の実務経験がある。また、建築設計・監理に関する実務経験をもつ。その経験を活かし、建築計画や建築設計に関して、実践的なテーマや実例を授業で扱っている。					
教室							
授業の目的と進め方		地域における実践的な活動を通して学ぶ演習科目を受講する前段階に必要な知識や考え方について、基礎知識の講義と実践事例の共有を通じて多面的に学ぶ。それらから、地域活動に求められる、多分野の専門職が連携する課題発見やアイデア創出、解決を実践するための基礎的素養と問題意識を身につける。					
達成目標	目標 1	地域活動に関する基礎知識やマナーを理解し、説明できる（地域活動における基礎）【20%】					
	目標 2	地域活動に関する事例に複数触れ、基礎知識を現場でどのように活かせるかイメージできる【40%】					
	目標 3	地域の実情に柔軟に対応する視野や発想力を獲得する【40%】					
	目標 4						
	目標 5						
	目標 6						
	目標 7						
アクティブ・ラーニング		ディスカッション	○	ディベート		グループワーク	○
		プレゼンテーション	○	実習		フィールドワーク	○
		その他課題解決型学習					

	授業計画	授業時間外学修（予習及び復習を含む）
第1回	概要：人間を中心にしたデザイン思考	復習：授業を振り返る（1時間）
第2回	基礎1：地域とは（人／参加／組織／活動）	予習：事例（人／参加／組織／活動）をレビューする（1時間）／復習：授業を振り返る（1時間）
第3回	基礎2：地域に関わる（マナー／心構え／交流）	予習：事例（マナー／心構え／交流）をレビューする（1時間）／復習：授業を振り返る（1時間）
第4回	具体事例1：地域の方の話を聞く1	予習：事例（地域の方の話に関連する1）をレビューする（1時間）／復習：授業を振り返る（1時間）
第5回	具体事例2：地域の方の話を聞く2	予習：事例（地域の方の話に関連する2）をレビューする（1時間）／復習：授業を振り返る（1時間）
第6回	具体事例3：見学	予習：事例（見学に関連する1）をレビューする（1時間）／復習：授業を振り返る（1時間）
第7回	基礎3：協働（チーム／連携／コラボレーション）	予習：事例（チーム／連携／コラボレーション）をレビューする（1時間）／復習：授業を振り返る（1時間）
第8回	基礎4：協働（GW／WS／事業運営）	予習：事例（GW／WS／事業運営）をレビューする（1時間）／復習：授業を振り返る（1時間）
第9回	具体事例4：実践者の話を聞く1	予習：事例（実践者の話に関連する1）をレビューする（1時間）／復習：授業を振り返る（1時間）
第10回	具体事例5：実践者の話を聞く2	予習：事例（実践者の話に関連する2）をレビューする（1時間）／復習：授業を振り返る（1時間）
第11回	具体事例6：見学	予習：事例（見学に関連する2）をレビューする（1時間）／復習：授業を振り返る（1時間）
第12回	具体事例7：見学	予習：事例（見学に関連する3）をレビューする（1時間）／復習：授業を振り返る（1時間）

第 13 回	具体事例 8 : 地域活動の報告会	予習 : 事例(地域活動の報告会に関連する)をレビューする (1 時間) / 復習 : 授業を振り返る (1 時間)
第 14 回	ふりかえりとディスカッション	予習 : 授業全体を振り返る (1 時間) / 復習 : 授業を振り返る (1 時間)
課題等に対するフィードバック	グループワークのふりかえりやプレゼンテーションの講評を行う。	
評価方法と基準	授業への取り組み【50%】 課題【50%】 出席し、課題が提出したものの、達成目標の到達が不十分である場合は「C」評価となる。	
テキスト	授業内で適宜紹介する 授業内で適宜紹介する	
科目の位置付け	地域連携センターが監修する授業である。 地域活動について実践的に学ぶ「地域活動演習Ⅰ～Ⅳ」(2 年春～3 年秋)を履修する前提としての基礎科目である。	
履修登録前準備	身近な「地域活動」について調べる。 自分はどのような「地域活動」に、どのように関わりたいか、考える。	

授業コード		521047		オムニバス			
科目名		会社の仕組みと経営の仕組み		単位数		2	
配当学年		2		曜日時限		金曜 2 限	
年度学期		2025 年度 秋学期		コース			
対象学科		基_機械, 基_電電, 基_電情, 基_応用, 基_環生, 先_ロボ, 先_情報, 先_データ, 建_建築_A コース, 建_建築_L コース		必選の別		選択科目	
科目区分		共通教育科目					
担当者		筒井 研多					
実務家教員担当授業		授業を担当する筒井は、IT コンサルタントとして 14 年間の起業経験、会社運営経験を持っており、自社だけではなくクライアント企業の改革に対する取り組みを行ってきた。これらの経験を踏まえた豊富な事例を用い、「会社」の実情に即した知識や事例を提供する。					
教室		5-203					
授業の目的と進め方		多くの学生が卒業後に関係する「会社（企業）」とは一体何だろうか？本科目では、「会社（企業）」とはそもそも何か」からスタートし、その目的・ルール・仕組みを学習する。また、会社（企業）を成長・発展させるために必要な、「他社との競争戦略」「ビジネスモデル」「社員のやる気と人材の活用」「マーケティング」「イノベーション」についても学習する。 理系大学としての専門性（技術力）に加え、それを自分に与えられた立場で活かすための視点（経営力・企業家精神）を獲得するための最初の一步を踏み出すことが本講義の目的である。					
達成目標	目標 1	会社とは何か？という、会社の基本的な仕組みについて理解できる。（10%）					
	目標 2	会社が「人材」をどのように活用していくか、基本的な考え方を理解し、人材の活用について学習した専門用語を用いて会話し、自分の考えを他者に伝えることができる。（20%）					
	目標 3	様々な競争戦略についての専門用語を理解し、会社が競争・成長するアイデアについて専門用語を用いながら自分の考えを他者に伝えることができるようになる。（20%）					
	目標 4	マーケティングに関する専門用語を理解し、会社が自社の製品を買ってもらうためのアイデアについて専門用語を用いながら自分の考えを他者に伝えることができるようになる。（20%）					
	目標 5	「イノベーション」「ビジネスモデル」の基本的な概念と類型を理解し、専門用語を用いて会社が「変革する」方法について自分の考えを他者に伝えることができるようになる。（20%）					
	目標 6	達成目標 1～6 の知識を組み合わせ、会社の戦略について大局的に説明することができるようになる。（10%）					
	目標 7						
アクティブ・ラーニング	ディスカッション	○	ディベート		グループワーク	○	
	プレゼンテーション		実習		フィールドワーク		
	その他課題解決型学習						

	授業計画	授業時間外学修（予習及び復習を含む）
第1回	【ガイダンス】 授業の目的・進め方、ルール等を説明し、同時に、本授業がエンジニアの将来にどのように役立つかを説明する。	予習：特になし 復習：「会社はだれのものか？」の問いについての答えを検討する、「株主のもの」「社長のもの」「社員のもの」「顧客のもの」「社会のもの」を順番付け、自分が何故この順番としたかの理由を整理する。この宿題は次回授業の準備も兼ねている。(1時間)
第2回	【会社の仕組み① 会社とは？・会社は誰のもの？】 「会社」が成立する根拠、目的、成り立ち、様々な会社の種類、類似する組織等を理解し、「会社」という仕組みを理解する。	予習：「会社はだれのものか？」の問いについての答えを検討する、「株主のもの」「社長のもの」「社員のもの」「顧客のもの」「社会のもの」を順番付け、自分が何故この順番としたかの理由を整理する。この宿題は次回授業の準備も兼ねている(2時間) 復習：自分の将来像や理想のキャリアについて考察し、なぜそのような生き方が良いと思うのかを整理する(1時間)
第3回	【会社の仕組み② 会社とビジネスの基本】 会社・ビジネスに関する一般的に「知っておいた方が良い」言葉を説明する。さらに、株式会社における「所有と経営の分離」と、株主の権利について説明する。	「任天堂 Switch」「日本工業大学」いずれかのSWOT分析を行う。(次回予習も兼ね3時間)
第4回	【会社の仕組み③ SWOT分析と様々な会社の在り方】 「任天堂」「日本工業大学」を例に、会社の分析の基本であり就職活動などで取り上げられることも多い「SWOT分析」を実際に行ってみる。また、同じゲーム事業であっても任天堂とSONYの事業形態の違いなどから、様々な会社の特徴や活動分野=セグメンテーションについて理解する。	第1回～第4回までの授業内容を復習し、授業で学んだことから選択型の「クイズ」を作成する。作成したクイズのなかで優れたものは、第6回の授業内グループワークとして行う「クイズ大会」の出題に活用する(3時間)
第5回	【ビジネスプラン】 日本工業大学の「ビジネスプランコンテスト」を観覧し、学生が考えるビジネスアイディアに触れる。	ビジネスプランコンテストで発表された8件のビジネスプランについて、自分なりの感想を記述する。また、そのなかから最も感銘を受けた発表を選択し、投票する(2時間)
第6回	【会社の仕組み④ 会社の一生～誕生】 会社を立ち上げるメリットとデメリット、具体的な手続き等について学ぶ。	自分にとって「身近な会社・憧れや興味のある会社」を一社選ぶ。その企業のウェブサイトに掲示されている「企業理念」を確認し、その内容を記入する。この作業は次回授業のグループワークの発表に関する予習も兼ねている。(3時間)
第7回	【会社の仕組み⑤ 会社の一生 成長～中間ゴール～終焉】 会社の成長シナリオ、中間ゴールとしての上場や非公開優良企業の違い、また会社の清算(解散)、倒産、M&A等、会社の終焉について理解する。	「Google」「Amazon」「楽天」「サイバーエージェント」「ローソン」「トヨタ」「サッポロビール」の各企業の「行動規範」をそれぞれのウェブサイトから確認する。その上で「的確で良い行動規範だ」「この規範で働く社員がいる会社は成長しそうだ」「印象的で心に残る行動規範だ」「この会社で働きたい」等、何らかのポジティブな気持ちを感じた会社を3つ選択し、そう感じた理由を整理する。(3時間)
第8回	【経営の仕組み① 経営戦略1】 会社を成長する方法には「正解」がなく、時には正反対の方法を主張する経営理論が存在する。大切なことは色々な経営理論を理解し、頭の引き出しに入れたうえで、適切なタイミングで活用する事である。この回では経済学者・コンサルタントであるポーターの理論を中心に、経営戦略の基礎について学ぶ。	第5回～第8回までの授業内容を復習し、授業で学んだことから選択型の「クイズ」を作成する。作成したクイズのなかで優れたものは、第9回の授業内グループワークとして行う「クイズ大会」の出題に活用する。(3時間)
第9回	【経営の仕組み② 経営戦略2】 前回に引き続き、代表的な経営戦略理論について学ぶ。プロダクトポートフォリオマネジメント(PPM)、パーニーが提唱するリソースベースドビュー、アンゾフが提唱する市場マトリックスや多角化理論について学習し、より多くの選択肢を使いこなせるようにする。	「マクドナルド」「DeNA」「サイバーエージェント」が有する「模倣困難性」について、各企業のウェブサイト进行分析し、パワーポイントに整理する。(3時間)

第 10 回	【経営の仕組み③ 経営戦略のまとめとイノベーション】 前回、前々回で学習した経営理論を振り返り、どのような産業やどのような成長段階で活用すると有効であるかを学習する。更に、今後のエンジニアにとっても重要な「変化を起こす＝イノベーション」について学習する。	性格診断の一種である「16 Personalities」を実際に行い、自分のタイプを確認する。その上で、「16 Personalities」に関する肯定的・否定的な記事の両方を検索し、可能性と危険性について理解する。(3 時間)
第 11 回	【経営の仕組み④ 人やチームを動かす・モチベーションとリーダーシップ】 いかに良いイノベーションのアイデアや成長戦略を考えても、周囲を説得・協力を得ることが出来なければ「絵に描いた餅」となってしまう。この回では、組織論の基礎として、様々な組織のモデルについて学習し、さらに人やチームを動かすためのリーダーシップ論・社員のパフォーマンスを向上させるためのモチベーション論についても学習する。	第 9 回～第 11 回までの授業内容を復習し、授業で学んだことから選択型の「クイズ」を作成する。作成したクイズのなかで優れたものは、第 13 回の授業内グループワークとして行う「クイズ大会」の出題に活用する。(3 時間)
第 12 回	【アントレプレナーシップ】 新しいアイデアやビジネスを通して、社会や自分の周囲を「変えたい」と思い実行するためには、「アントレプレナーシップ(企業家精神)」が重要となる。その一方で「どうやって新しいビジネスアイデアを見つけたらよいかよくわからない」という声も多い。この回では、「世の中に求められている事」「自分の好きな事・出来る事」「自分が大切にしたい想い」を組み合わせさせてビジネスアイデアを見つけ出す方法について学ぶ。同時に同世代の創業ストーリーにより、起業やビジネスをより身近なものにする。	これまでの講義と、第 12 回の「アントレプレナーシップ」の講義を受けたうえで、自分の心の中に何らかの変化が起きたか、「変化を起こしたいもの」や「やってみたい・挑戦してみたい事」が見つかったかを自問自答する。(3 時間)
第 13 回	【マーケティング】 新しい製品やビジネスアイデアを実現しても、これが「売れなければ」ビジネスとして成立しなくなる。この回では、顧客が商品を認知してから購入するまでの流れを理解し、「どのように買ってもらうか」＝マーケティングの基礎について学習する。また、エンジニアにとっても重要な概念である「プロダクトアウト」と「マーケットイン」について理解する。	期末試験の準備も兼ね、これまでの授業内容を自分なりに整理し、これまでの授業の内容を全体整理し A4 の紙に整理する作業に着手する。(3 時間)
第 14 回	【全体のまとめ・振り返り】 授業全体の振り返りを行う	これまでの授業の内容を全体整理し A4 の紙にまとめる (2 時間) 授業評価アンケートに回答する (1 時間)
課題等に対するフィードバック	毎回の課題は WORD ファイル・パワーポイントファイルでの提出、また Microsoft Form 等でのアンケートなど、デジタル形式で提出する。その内容を分析し、参考となる意見については次回授業の中でフィードバックを行う。	
評価方法と基準	レポートなどの取り組みが 35 点、授業参加姿勢を 15 点、期末テストを 50 点として合計 100 点で評価し 60 点以上を合格とする。	
テキスト	授業内にてプリントを都度配布する。 授業内で都度紹介する。	

科目の位置付け	学生の多くが今後のキャリアにおいて向き合う「会社（企業）」が、どのような目的や仕組みで運営されているかを理解することが目的となっている。就職活動し内定した「その先」を見通すための科目となっている。「会社」を含む、社会全体を理解する過程として、「創業の基礎」「現代社会の基礎知識Ⅰ・Ⅱ」「現代社会の諸問題」「起業とビジネスプラン」等との科目と関係が深い。 但し、本授業は単体で完結できる仕組みなので、これらの関係する科目を履修せずとも本授業の履修に問題はない。
履修登録前準備	この授業は「自分なりの考え方をもち、これを伝える」姿勢を重視している。受け身の体勢ではなく積極的な授業への参加（課題への取り組み・発表等）が授業の理解にも、成績評価にも重要となってくる。また、グループワークやディスカッションの機会も多くあるため、学生や教員とのコミュニケーションが必要となることに留意しておくこと。 また、日常から経済ニュースや工学技術に関するニュースに目を通しておくことで授業への参加を行いやすく、また楽しくなるようにデザインしているので、挑戦を楽しむ姿勢で参加してほしい。

実務経験のある教員等による授業科目一覧 基幹工学部 環境生命化学科（専門科目）

授業コード		520282		オムニバス			
科目名		ナノ・バイオデバイス		単位数		2	
配当学年		3		曜日時限		月曜 2 限	
年度学期		2025 年度 秋学期		コース			
対象学科		基_応用, 基_環生		必選の別		選択科目	
科目区分		専門科目					
担当者		伴 雅人					
実務家教員担当授業		担当教員の伴は、ナノ・バイオデバイスの作製やその応用に関する研究開発などの実務経験がある。その経験を活かし、デバイス作製技術などに関して実践的なテーマや実例を授業で扱っている。					
教室		3-321					
授業の目的と進め方		学生は、エンジニアリング（工学）が医療や環境といった分野にどのようなかたちで貢献することができるのか、ということについて意識が芽生え、理解を深めることができる。ナノテクノロジーやナノ・バイオ材料の視点から、さまざまなデバイスの作製方法や応用（医療・環境分野）について学ぶことができる。					
達成目標	目標 1	各種ナノ・バイオデバイスの作製方法や応用について理解し説明ができるようになる。特に、MEMS の一種であるマイクロ流体チップ（μTAS）についてより詳細な知識をつけることができる。【40%】					
	目標 2	マイクロ流体チップの細胞培養や環境分析への応用についてより理解が進み説明ができるようになる。【40%】					
	目標 3	工学が医療や環境分野の課題に対しどのように貢献すべきか、あるいはできるか、についての意識ができるようになる。 【20%】					
	目標 4						
	目標 5						
	目標 6						
	目標 7						
アクティブ・ラーニング		ディスカッション		ディベート		グループワーク	
		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク	
		その他課題解決型学習					

	授業計画	授業時間外学修（予習及び復習を含む）
第1回	ナノ・バイオデバイスの概要	「ナノ材料サイエンス」で学修した内容を復習しておくこと。講義中にわからなかったことは、参考図書などを読み、しっかりと理解して次回の講義に臨むこと。（2時間）
第2回	デバイス作製／材料：基本特性	「ナノ材料サイエンス」で学修した材料にかんする項目を復習しておくこと。講義中にわからなかったことは、参考図書などを読み、しっかりと理解して次回の講義に臨むこと。（2時間）
第3回	デバイス作製／材料：ナノ・バイオマテリアル	ナノマテリアルやバイオマテリアルの概要について調査しておくこと。講義中にわからなかったことは、参考図書などを読み、しっかりと理解して次回の講義に臨むこと。（2時間）
第4回	デバイス作製／作製方法：フォトリソグラフィ・ソフトリソグラフィ	リソグラフィについて半導体の作製方法から調査しておくこと。講義中にわからなかったことは、参考図書などを読み、しっかりと理解して次回の講義に臨むこと。（2時間）
第5回	デバイス作製／作製方法：プラズマの種類と特性	プラズマは物質のどのような状態であるのか調査しておくこと。講義中にわからなかったことは、参考図書などを読み、しっかりと理解して次回の講義に臨むこと。（2時間）
第6回	デバイス作製／作製方法：プラズマプロセッシング（エッチング）	プラズマを用いたエッチングについて調査しておくこと。講義中にわからなかったことは、参考図書などを読み、しっかりと理解して次回の講義に臨むこと。（2時間）
第7回	デバイス作製／作製方法：プラズマプロセッシング（表面処理・成膜）	プラズマを用いた表面処理や成膜について調査しておくこと。講義中にわからなかったことは、参考図書などを読み、しっかりと理解して次回の講義に臨むこと。（2時間）
第8回	デバイス応用／MEMS・NEMS：概要	マイクロマシンについて調査しておくこと。講義中にわからなかったことは、参考図書などを読み、しっかりと理解して次回の講義に臨むこと。（2時間）
第9回	デバイス応用／MEMS・NEMS：バイオ MEMS	バイオ MEMS とはどのような技術であるか下調べをしておくこと。講義中にわからなかったことは、参考図書などを読み、しっかりと理解して次回の講義に臨むこと。（2時間）
第10回	デバイス応用／マイクロ流体チップ：原理・特長	マイクロ流体チップ（ μ TAS）はどのようなデバイスであるのか下調べをしておくこと。講義中にわからなかったことは、参考図書などを読み、しっかりと理解して次回の講義に臨むこと。（2時間）
第11回	デバイス応用／マイクロ流体チップ：環境分析への応用	マイクロ流体チップを用いどのような環境分析ができるのか考えておくこと。講義中にわからなかったことは、参考図書などを読み、しっかりと理解して次回の講義に臨むこと。（2時間）
第12回	デバイス応用／マイクロ流体チップ：細胞培養への応用	マイクロ流体チップを用いた細胞培養技術について調査しておくこと。講義中にわからなかったことは、参考図書などを読み、しっかりと理解して次回の講義に臨むこと。（2時間）

第 13 回	デバイス応用／オルガンオンチップ	オルガンオンチップとはどのような概念なのか調査しておくこと。講義中にわからなかったことは、参考図書などを読み、しっかりと理解して次回の講義に臨むこと。(2 時間)
第 14 回	整理とまとめ	これまで学修した内容について自分なりに整理しておくこと。講義中にわからなかったことは、参考図書などを読み、しっかりと理解して次回の講義に臨むこと。(2 時間)
課題等に対するフィードバック	毎回の小テストの復習を次の回の冒頭にて行う。	
評価方法と基準	期末試験 60%＋小テスト 40% (C 評価基準：左記 60 点) 試験問題について講義にて配布した資料にて復習すること。	
テキスト	資料を配布する。 日本表面科学会編「ナノテクのための化学・材料入門」共立出版 【ISBN4-621-07471-7】 北森武彦ら編「マイクロ化学チップの技術と応用」(2004) 丸善 【ISBN4-621-07471-7】 日本セラミックス協会「生体材料」日刊工業新聞社 【ISBN4-526-06152-3】 菅井秀郎「プラズマエレクトロニクス」オーム社 【ISBN4-274-13210-0】	
科目の位置付け	「機器分析化学」「ナノ材料サイエンス」「ナノ材料プロセッシング」などの科目で学修した(ナノ)材料に関する基礎的事項をより細分化した専門分野に発展させ、ナノ・バイオ材料の応用という観点から、特に医療・環境評価デバイスについての詳細を学ぶことができる科目である。	
履修登録前準備	「ナノ材料サイエンス」「材料評価技術」「ナノ材料プロセッシング」の内容をよく復習しておくこと。	

授業コード		520185		オムニバス			
科目名		ナノ材料サイエンス		単位数		2	
配当学年		2		曜日時限		水曜 2 限	
年度学期		2025 年度 秋学期		コース			
対象学科		基_応用		必選の別		選択科目	
科目区分		専門科目					
担当者		伴 雅人					
実務家教員担当授業		担当教員の伴は、さまざまなナノ材料に関する研究開発などの実務経験がある。その経験を活かし、ナノ材料やさらに幅広くナノテクノロジーに関して実践的なテーマや実例を授業で扱っている。					
教室		3-227					
授業の目的と進め方		学生は、化学工学におけるナノ材料の重要度を理解するために、ナノテクノロジーの根幹となるナノ材料の作製や応用に使われる加工技術や測定技術を学び、これらの工学技術の学修を通してナノ材料に関わるサイエンスを同時に体得することができる。					
達成目標	目標 1	ナノ材料の物性を支配する化学・物理法則について、一定の理解が得られるようになる。【40%】					
	目標 2	ナノ材料の作製方法に関する加工技術や装置について理解し、説明ができるようになる。【30%】					
	目標 3	ナノ材料の構造解析や、力学・光学・電気物性の測定技術について理解し、説明ができるようになる。【30%】					
	目標 4						
	目標 5						
	目標 6						
	目標 7						
アクティブ・ラーニング		ディスカッション		ディベート		グループワーク	
		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク	
		その他課題解決型学習					

	授業計画	授業時間外学修（予習及び復習を含む）
第1回	ナノ材料に関わるサイエンス	スマートフォンにはどのようなナノ材料が使用されていて、それぞれどのような機能をもっているか、について調べてくる。(2時間)
第2回	基礎装置工学(1): 機械工学	【予習】 テキストの[chapter1]を読み、機械材料、工作機械、設計について学修しておくこと。(1時間) 【復習】 講義中にわからなかったことは、テキストの再読や講義にて配布・紹介された資料を読むなどにて、確実に理解した上で次の講義に臨むこと。(1時間)
第3回	基礎装置工学(2): レーザ装置とその応用	【予習】 テキストの[chapter3]を読み、レーザの発振原理、種類、応用について学修しておくこと。(1時間) 【復習】 講義中にわからなかったことは、テキストの再読や講義にて配布・紹介された資料を読むなどにて、確実に理解した上で次の講義に臨むこと。(1時間)
第4回	基礎装置工学(3): 真空工学	【予習】 テキストの[chapter4]を読み、真空の基礎、真空排気・測定技術、真空部品・装置などについて学修しておくこと。(1時間) 【復習】 講義中にわからなかったことは、テキストの再読や講義にて配布・紹介された資料を読むなどにて、確実に理解した上で次の講義に臨むこと。(1時間)
第5回	トピックス(1): 抗菌・抗ウィルスのためのナノ表面	【予習】 細菌やウィルスの増殖を防ぐための表面処理にはどのようなものがあるか調べておくこと。(1時間) 【復習】 講義中にわからなかったことは、講義にて配布・紹介された資料を読むなどにて、確実に理解した上で次の講義に臨むこと。(1時間)
第6回	試料作製技術(1): マイクロマシニング・ナノマシニング	【予習】 テキストの[chapter5]を読み、MEMS/NEMSの作製技術、種類などについて学修しておくこと。(1時間) 【復習】 講義中にわからなかったことは、テキストの再読や講義にて配布・紹介された資料を読むなどにて、確実に理解した上で次の講義に臨むこと。(1時間)
第7回	試料作製技術(2): トップダウンリソグラフィによるナノ加工	【予習】 テキストの[chapter6]を読み、さまざまなリソグラフィ技術について学修しておくこと。(1時間) 【復習】 講義中にわからなかったことは、テキストの再読や講義にて配布・紹介された資料を読むなどにて、確実に理解した上で次の講義に臨むこと。(1時間)
第8回	試料作製技術(3): 表面工学と自己組織化技術	【予習】 テキストの[chapter7]を読み、自己組織化、またこれを利用したナノ構造の形成方法について学修しておくこと。(1時間) 【復習】 講義中にわからなかったことは、テキストの再読や講義にて配布・紹介された資料を読むなどにて、確実に理解した上で次の講義に臨むこと。(1時間)
第9回	トピックス(2): マイクロ・ナノプラスチックの環境・健康影響	【予習】 プラスチックごみの海洋汚染や、それが砕かれてできたマイクロプラスチックが生物にどのような影響を及ぼしているか調査しておくこと。(1時間) 【復習】 講義中にわからなかったことは、講義にて配布・紹介された資料を読むなどにて、確実に理解した上で次の講義に臨むこと。(1時間)
第10回	物性測定技術(1): ナノオーダの極薄膜の構造解析	【予習】 テキストの[chapter8]を読み、表面のさまざまな分析手法とその特徴について学修しておくこと。(1時間) 【復習】 講義中にわからなかったことは、テキストの再読や講義にて配布・紹介された資料を読むなどにて、確実に理解した上で次の講義に臨むこと。(1時間)

第 11 回	物性測定技術 (2) : 力学・光学物性の測定	【予習】 別途配布する資料およびテキストの[chapter10]を読み、機械特性評価の基本および走査型近接場光学顕微鏡の原理と機能について学修しておくこと。(1 時間) 【復習】 講義中にわからなかったことは、テキストの再読や講義にて配布・紹介された資料を読むなどにて、確実に理解した上で次回の講義に臨むこと。(1 時間)
第 12 回	物性測定技術 (3) : 電気物性の測定	【予習】 別途配布する資料を読み、走査プローブ顕微鏡の概略について学修しておくこと。(1 時間) 【復習】 講義中にわからなかったことは、テキストの再読や講義にて配布・紹介された資料を読むなどにて、確実に理解した上で次回の講義に臨むこと。(1 時間)
第 13 回	トピックス (3) : 環境化学物質について考える	【予習】 人体に影響を及ぼす環境化学物質にはどのようなものがあるか調査しておくこと。(1 時間) 【復習】 講義中にわからなかったことは、テキストの再読や講義にて配布・紹介された資料を読むなどにて、確実に理解した上で次回の講義に臨むこと。(1 時間)
第 14 回	まとめ	これまでの講義で作成したノートを読み、わからなかったことや曖昧なところにチェックを入れるなどして整理しておくこと。(2 時間)
課題等に対するフィードバック	毎回の小テストの復習を次の回の冒頭にて行う。	
評価方法と基準	期末試験 60%+小テスト 40% (C 評価基準 : 左記 60 点) 試験問題について講義にて配布した資料にて復習すること。	
テキスト	資料を配布する。 日本表面科学会編『ナノテクのための工学入門』共立出版 (2007 年) [ISBN978-4-320-07173-5] 日本表面科学会編『ナノテクのための化学・材料入門』共立出版 (2007 年) [ISBN978-4-320-07171-1] 横山浩編著『ナノ材料科学』(2004 年) [ISBN4-274-19730-1] その他、必要に応じ、授業にて紹介する。	
科目の位置付け	2 年生春学期まで個別に学修してきた化学や物理学を、ナノ材料という面で切り取り、包括的な視点で学ぶことができる科目であり、3 年生から始まる細分化した科目群の橋渡しとなる。	
履修登録前準備	ナノテクノロジーは、化学、物理学、生物学などの学問的な垣根を越え、ナノメートルサイズの大きさの物質を制御する技術であり、ナノ材料はその根幹となる。従って、その物性を支配するサイエンスを理解するためには、化学、物理、生物の基礎を身につけておく必要があり、2 年生春学期までに学んだこれらの基礎科目を十分に復習しておくこと。	

授業コード		510212		オムニバス		○	
科目名		応用化学実験Ⅰ		単位数		2	
配当学年		2		曜日時限		金曜 3 限 金曜 4 限	
年度学期		2025 年度 春学期		コース			
対象学科		基_応用		必選の別		必修科目	
科目区分		専門科目					
担当者		白木 將、伴 雅人、池添 泰弘、大澤 正久					
実務家教員担当授業		大澤と伴は、物質作製と分析、評価に関する研究開発の実務経験がある。その経験を活かし、実践的な技術を授業で扱っている。					
教室							
授業の目的と進め方		学生が主体的に化学反応実験や構造解析ができるようになるために、企業の商品開発や研究の現場で実際に使用する実験技術や装置の使い方を修得する。					
達成目標	目標 1	安全性に配慮し、主体的に実験に取り組むことができる【50%】					
	目標 2	実験で取り扱う反応について理論的に説明できる【25%】					
	目標 3	実験で使用する装置の原理について説明できる【25%】					
	目標 4						
	目標 5						
	目標 6						
	目標 7						
アクティブ・ラーニング		ディスカッション	○	ディベート		グループワーク	○
		プレゼンテーション		実習	○	フィールドワーク	
		その他課題解決型学習					

	授業計画	授業時間外学修（予習及び復習を含む）
第1回	ガイダンス：授業の進め方と安全教育、廃液処理【大澤、白木、池添、伴】	【予習】1学年の実験テキストの注意事項、レポートの書き方を服しておくこと。(1.5時間)
第2回	セラミックスの電気測定1：試料作製【白木】	【予習】セラミックスの試料作製手順について予習しておくこと。(1時間)【復習】セラミックス試料について復習しておくこと。(1時間)
第3回	セラミックスの電気測定2：電気測定（ZnO 試料）【白木】	【予習】セラミックスの電気測定手順について予習しておくこと。(1時間)【復習】セラミックスの電気測定結果について復習しておくこと。(1時間)
第4回	セラミックスの電気測定3：電気測定（Al をドーブした ZnO 試料）【白木】	【予習】セラミックスの電気測定手順について予習しておくこと。(1時間)【復習】セラミックスの電気測定結果について復習しておくこと。(1時間)
第5回	表面張力実験1【池添】	【予習】表面張力や表面エネルギーについて予習・復習しておくこと。(1時間)【復習】実験テキストの表面張力測定原理を理解しておくこと。(1時間)
第6回	表面張力実験2【池添】	【予習】臨界ミセル濃度について予習・復習しておくこと。(1時間)【復習】実験テキストの臨界ミセル濃度の項目を理解しておくこと。(1時間)
第7回	表面張力実験3【池添】	【予習】表面張力測定実験の結果を整理し、結果の解析と設問について予習をしておくこと。(1時間) 【復習】講義後はレポートを作成し提出すること。(1時間)
第8回	物質の合成と化学構造決定 I：酸化反応【大澤】	【予習】一年次の化学実験 I「酸化還元反応」で学修した過マンガン酸カリウムを用いた酸化反応の例を調べておくこと(1時間)。【復習】酸化剤の種類と用途を復習しておくこと(1時間)。
第9回	物質の合成と化学構造決定 II：環化反応, NMR の原理【大澤】	【予習】有機化学の教科書第 13 章 P446～を参考に NMR とは？ NMR で何が分かるか？を予習しておくこと(0.5 時間)。【復習】NMR スペクトルの読み方を復習すること(1.5 時間)。
第10回	物質の合成と化学構造決定 III: NMR と IR スペクトル 課題：未知物質の NMR と IR スペクトル【大澤】	【予習】有機化学の教科書第 13 章 P439～を参考に IR (赤外スペクトル) で何が分かるか？を予習しておくこと(0.5 時間)。【復習】測定した NMR と IR スペクトルから未知物質の構造を推測する(1.5 時間)。
第11回	光触媒反応 1【伴】	【予習】光触媒反応の原理、またその代表材料である酸化チタンの結晶構造および応用例について調べ、理解しておくこと。(2 時間)【復習】結晶構造の解析方法についての授業中の説明で理解できなかったことを調べしっかり身につけておくこと。(1.5 時間)
第12回	光触媒反応 2【伴】	【予習】光触媒反応の評価方法としてどのようなものがあるか調べ、それぞれの概要を理解してくること。(2 時間)【復習】メチレンブルー分解試験についての授業中の説明で理解できなかったことを調べしっかり身につけておくこと。(1.5 時間)

第 13 回	光触媒反応 3【伴】	【予習】これまでの実験で得られたデータを再度見直し、疑問点を抽出しておくこと。(1 時間)【復習】授業中の説明にのっとりレポートを作成・完成させ、期限までに提出すること。(3 時間)
第 14 回	実験全体のまとめとレポート講評【大澤、白木、池添、伴】	【予習】事前準備として、授業内で行った実験課題について演習問題を含めた復習を行うこと。(1 時間)【復習】実験で得た知識が、これまでの他の授業テキストのどの部分に関連するかを確認すること。(1 時間)
課題等に対するフィードバック	第 8～10 回の課題：合格点に満たない学生については個別に連絡する。	
評価方法と基準	各実験課題への積極的取り組み、及び各テーマで出される演習問題と課題レポートにより総合的に評価する。4 つのテーマをそれぞれ 100 点満点で採点し、その平均点が 60～69 点を「C 評価」とする。ただし全てのテーマにおいて 60 点以上が必要である。毎週出席することは当然であり、さらに、授業中に指示されたようにレポートをまとめ、期限までに提出しなければならない。	
テキスト	当学科発行の実験テキスト 各担当教員の指示に従うこと	
科目の位置付け	化学実験Ⅰ、化学実験Ⅱで習得した実験スキルと、化学Ⅰ、化学Ⅱ、有機化学、物理化学の知識をもとに、実践に近い技術を修得する。	
履修登録前準備	化学実験Ⅰと化学実験Ⅱのテキストの実験にあたっての箇所を読み直しておくこと。そして 1 学年の実験を振り返り、器具や試薬の取扱を思い出しておくこと。	

授業コード		520269		オムニバス		○	
科目名		応用化学実験Ⅱ		単位数		2	
配当学年		2		曜日時限		金曜 3 限 金曜 4 限	
年度学期		2025 年度 秋学期		コース			
対象学科		基_応用		必選の別		必修科目	
科目区分		専門科目					
担当者		内田 祐一、新倉 謙一、白木 將、小池 隆司					
実務家教員担当授業		担当教員の内田は、企業の研究所において X 線を利用した構造解析の実務経験がある。その経験を活かし、卒業研究や社会人として応用できる実験機器の使用実例を扱う。					
教室							
授業の目的と進め方		「化学実験Ⅰ、Ⅱ」で学んだ化学実験の基礎知識と技術、ならびに「応用化学実験Ⅰ」で学んだ高度な知識と技術を駆使して、さらに発展的な知識と実験技術を修得できるようになる。 講義で課した課題については、講義時間内もしくはレポート返却時に解説する。					
達成目標	目標 1	X 線を用いた材料分析で使用する装置の原理について説明できる【内田】【25%】					
	目標 2	二分子膜をもつベシクル作製を通じて、脂質分子の特性を説明できるようになる。【新倉】【25%】					
	目標 3	ダニエル電池の原理を理解し、電池の起電力測定を行えるようになる。【白木】【25%】					
	目標 4	光学実験に必要な機器の取り扱い方やデータの解析方法を修得できる。【小池】【25%】					
	目標 5						
	目標 6						
	目標 7						
アクティブ・ラーニング		ディスカッション		ディベート		グループワーク	
		プレゼンテーション		実習	○	フィールドワーク	
		その他課題解決型学習					

	授業計画	授業時間外学修（予習及び復習を含む）
第1回	ガイダンス；実験履修およびレポート作成上の諸注意【内田、新倉、白木、小池】	【予習】テクニカル・ライティングに関して調べてくること。（1時間） 【復習】実験テキスト内の「実験レポート作成のてびき」を熟読すること。（1時間）
第2回	X線を用いた材料分析Ⅰ：X線回折法【内田】	【予習】X線回折法の原理と、それによって得られる情報について事前に学修すること（1時間） 【復習】X線回折装置の原理について復習すること（1時間）
第3回	X線を用いた材料分析Ⅱ：蛍光X線分析【内田】	【予習】蛍光X線分析の原理と、それによって得られる情報について事前に学修すること（1時間） 【復習】蛍光X線分析装置の原理を復習すること（1時間）
第4回	X線を用いた材料分析Ⅲ：X線光電子分光法【内田】	【予習】X線照射により光電子が生じるメカニズムについて事前に学修すること（1時間） 【復習】X線光電子分光装置の原理を復習すること（1時間）
第5回	コロイド化学：金ナノ粒子合成【新倉】	【予習】コロイドについて予習しておくこと。（1時間） 【復習】酸化還元反応について復習しておくこと。（1時間）
第6回	コロイド化学：金ナノ粒子の凝集実験【新倉】	【予習】指示した物質の化学構造式をまとめること（1時間） 【復習】コロイドが凝集する条件についてまとめること（1時間）
第7回	コロイド化学：蛍光分子内包ベシクルの作製【新倉】	【予習】生体膜について予習しておくこと。（1時間） 【復習】蛍光について復習し、レポートを期限までに提出すること（1時間）
第8回	電気化学Ⅰ：ダニエル電池の作製【白木】	【予習】ダニエル電池について予習しておくこと。（1時間） 【復習】ダニエル電池について復習しておくこと。（1時間）
第9回	電気化学Ⅱ：起電力の水溶液濃度依存性【白木】	【予習】ネルンストの式について予習しておくこと。（1時間） 【復習】ネルンストの式について復習しておくこと。（1時間）
第10回	電気化学Ⅲ：起電力の温度依存性【白木】	【予習】エンタルピー変化、エントロピー変化について予習しておくこと。（1時間） 【復習】講義後はレポートを作成し提出すること。（1時間）
第11回	光回折；幾何学模様試料【小池】	【予習】テキストの光の回折に関する部分を熟読し、設問について予習をしておくこと。（1時間） 【復習】実験時に行った解析を別データについて行うこと（1時間）
第12回	光回折；粒子集合体試料【小池】	【予習】光の干渉と規則構造について予習しておくこと。（1時間） 【復習】実験時に行った解析を別データについて行うこと（1時間）

第 13 回	光回折；実験結果解析【小池】	【予習】環状回折パターンの成り立ちについて予習をしておくこと。(1 時間) 【復習】講義後はレポートを作成し提出すること。(1 時間)
第 14 回	総合的レポート指導 【内田、新倉、白木、小池】	【予習】テキストを再度、読み直すとともに、測定したデータを整理しておくこと。(1 時間) 【復習】データの整理の仕方や表現の仕方について復習すること。(1 時間)
課題等に対するフィードバック	提出されたレポートを確認し、理解不足の部分について指導し、再提出してもらうことで各テーマに対する十分な理解を図る。	
評価方法と基準	平常点、及び各テーマで課される課題レポートにより総合的に評価する。4 つのテーマをそれぞれ 100 点満点で採点し、その平均点が 60～69 点を「C 評価」とする。ただし全てのテーマにおいて 60 点以上が必要である。毎週出席することは当然であり、さらに、授業中に指示されたようにレポートをまとめ、期限までに提出しなければならない。	
テキスト	当学科発行の実験テキスト 各実験の態様に応じ、専門性の高いテキスト、書籍、研究論文等を適宜紹介する。	
科目の位置付け	化学実験Ⅰ、Ⅱおよび応用化学実験Ⅰなど、これまでに学んだ専門科目の知識を元に、実践で使うことのできる応用化学の実験技術をさらにスキルアップして身に付けることができる。	
履修登録前準備	化学実験Ⅰ、Ⅱおよび応用化学実験Ⅰの内容を良く復習しておくこと。	

授業コード		510461		オムニバス		○	
科目名		応用生物工学実験		単位数		2	
配当学年		3		曜日時限		火曜 1 限 火曜 2 限	
年度学期		2025 年度 春学期		コース			
対象学科		基_応用		必選の別		選択科目	
科目区分		専門科目					
担当者		佐野 健一、芳賀 健					
実務家教員担当授業		担当教員の佐野は、生物工学に関する研究開発等の実務経験がある。その経験を活かし、遺伝子組換え実験、タンパク質工学実験に関して実践的なテーマや実例を授業で扱っている。					
教室							
授業の目的と進め方		本科目では、生物工学に関する実際の手法を、高度な装置・器具の取り扱い、データ処理を通して修得するとともに、得られた結果をしっかりとレポートにまとめる方法を身に着けることを目的としている。					
達成目標	目標 1	基本的な遺伝子組換え実験から、遺伝子組換え実験のノウハウを修得する【20%】。					
	目標 2	基本的なタンパク質工学実験から、タンパク質の操作法を修得する【20%】。					
	目標 3	植物の培養方法と光に対する影響の解析方法を修得する【20%】。					
	目標 4	分子マーカーを利用した品種識別方法を修得する【20%】。					
	目標 5	各実験を通して、実験結果をまとめる方法を修得する【20%】。					
	目標 6						
	目標 7						
アクティブ・ラーニング	ディスカッション	○	ディベート		グループワーク	○	
	プレゼンテーション	○	実習	○	フィールドワーク		
	その他課題解決型学習						

	授業計画	授業時間外学修（予習及び復習を含む）
第1回	実験をはじめる前に実験の注意点、実験の心構えなどについて、過去の他大学での事故事例を含め学修する。また、実験の基本的な流れ、準備、実験、後片付け、データ処理、レポート作成について学修し、次週からの実際の実験に備える。【佐野・芳賀】	実験をはじめる前に必要な準備事項について、よく確認しておくこと。実験とデータの取扱について理解しておくこと（3時間）。
第2回	遺伝子組換え実験（1）DNAの調製、連結反応、形質転換について学修する。【佐野】	実験の注意点や心構えを良く復習すること（1時間）。テキストの当該部分についてよく予習しておくこと（2時間）。
第3回	遺伝子組換え実験（2）陽性クローンのスクリーニングについて学修する。【佐野】	テキストの当該部分についてよく予習しておくこと（2時間）。得られた結果をまとめレポートを作成すること（2時間）。
第4回	遺伝子組換え実験（3）プラスミドの精製を学修する。【佐野】	テキストの当該部分についてよく予習しておくこと（2時間）。前回提出したレポートについて、教員のコメントに従って修正し、期限までに完成させておくこと（2時間）。
第5回	タンパク質工学実験（1）組換えタンパク質の発現を学修する。【佐野】	テキストの当該部分についてよく予習しておくこと（2時間）。得られた結果をまとめレポートを作成すること（2時間）。
第6回	タンパク質工学実験（2）SDS-PAGEを学修する。【佐野】	テキストの当該部分についてよく予習しておくこと（2時間）。得られた結果をまとめレポートを作成すること（2時間）。
第7回	タンパク質工学実験（3）タンパク質工学実験で得られた結果を用いて、レポートの作成方法を学修する。【佐野】	前回提出したレポートについて、教員のコメントに従って修正し、期限までに完成させておくこと（2時間）。
第8回	植物生産工学実験（1）培地の作成方法と植物の培養方法について学修する。【芳賀】	「生物工学実験基礎」で用いたテキストなどを参考にして、植物の培養方法について調べておくこと（2時間）。今回用いた培養方法についてまとめ、レポートを作成すること（2時間）。
第9回	植物生産工学実験（2）植物の成長に対する光の影響について学修する。【芳賀】	植物の成長と光の関係について調べておくこと（2時間）。得られた結果をまとめレポートを作成すること（2時間）。
第10回	植物生産工学実験（3）植物生産工学実験で得られた結果を用いて、レポートの作成方法を学修する。【芳賀】	提出したレポートについて教員のコメントを参考にして修正し、期限までに完成させ提出すること（2時間）。
第11回	分子遺伝学実験（1）植物からのDNA抽出、PCRによるDNA増幅方法を学修する。【芳賀】	植物からDNAを抽出・精製する方法とPCR法の仕組みについて調べておくこと（2時間）。今回用いた実験方法をまとめ、レポートを作成すること（2時間）。
第12回	分子遺伝学実験（2）分子マーカーによる品種識別方法を学修する。【芳賀】	分子マーカーと電気泳動法について調べておくこと（2時間）。得られた結果をまとめレポートを作成すること（2時間）。

第 13 回	分子遺伝学実験(3) 分子遺伝学実験で得られた結果を用いて、レポートの作成方法を学修する。【芳賀】	提出したレポートについて教員のコメントを参考にして修正し、期限までに完成させ提出すること(2時間)。
第 14 回	演習およびまとめ：第 2-13 回までの内容を中心に、データ処理法などについての演習とよりよいレポート作成法について学修する。【佐野・芳賀】	第 2-13 回までの実験内容を確認し、疑問点などを予めまとめておくこと(2時間)。未完成のレポートがあれば完成させること(2時間)。
課題等に対するフィードバック	レポートは、コメント、修正指示を併せて返却する。	
評価方法と基準	実験報告書 80%、積極的な実験参加 20%。科目合格の基準は、すべての実験に出席し、期日までにレポートを提出、担当教員が指示する再提出期限までに、指示された加筆修正を済ませたレポートを再提出すること。それらの評価により、60 点以上で合格とする。	
テキスト	担当教員が準備する 『応用生物工学実験』オリジナルテキスト ・デイヴィッド・サダヴァ(著)、丸山 敬(翻訳)、石崎 泰樹(翻訳)『カラー図解 アメリカ版 新大学生生物学の教科書 第1巻 細胞生物学』講談社(2021年)【ISBN:978-4-06-513743-7】 ・デイヴィッド・サダヴァ(著)、丸山 敬(翻訳)、石崎 泰樹(翻訳)『カラー図解 アメリカ版 新大学生生物学の教科書 第2巻 分子遺伝学』講談社(2021年)【ISBN:978-4-06-513744-4】	
科目の位置付け	応用化学科における生物工学系の応用実験科目である。「生物工学実験基礎」で学んだ基本的な実験方法、装置・器具類の取り扱い方法、データのまとめ方、レポートの作成方法を展開し、より実践的なテーマに取り組むものであり、生物工学系の卒業研究に役立つ科目である。また、学科専門科目である「分子生物学」や「生化学」「生体分子工学」で扱う内容も含んでおり、実験を通してその理解を促す。	
履修登録前準備	参考図書などを読み、生命科学の分野で使用される専門用語の意味を調べておくこと。	

授業コード		510479		オムニバス			
科目名		化学生物情報処理演習		単位数		2	
配当学年		3		曜日時限		金曜 1 限 金曜 2 限	
年度学期		2025 年度 春学期		コース			
対象学科		基_応用, 基_環生		必選の別		必修科目	
科目区分		専門科目					
担当者		佐野 健一、大澤 正久、小池 隆司					
実務家教員担当授業		担当教員の大澤、佐野は、研究機関における科学研究開発等の実務経験がある。その経験を活かし、実践的なテーマや実例を授業で扱っている。					
教室		1-355 1-353					
授業の目的と進め方		化学・生物を学ぶにあたりコンピュータの役割はますます増えつつある。分子構造作図ソフトの使い方、及びインターネットを活用した情報収集の方法を身に付けるためには必須の授業である。各種ソフトを使ってグラフ、レポートや論文の作成、及びプレゼンテーション資料の作成と実施が行えるようになることを目標とする					
達成目標	目標 1	ChemDraw 及び Chem3D を用い、分子の化学構造を正確に描写することができる。【25%】					
	目標 2	NCBI や PDB などのデータベースにアクセスし、必要なデータを取得・解析できるようになる 【25%】					
	目標 3	ChemDraw 及び Chem3D を用いて作成した構造をプレゼンテーション資料に取り込み、わかりやすいプレゼンテーションができる。【25%】					
	目標 4	検索サイトやオンラインジャーナルを活用して、必要な文献を検索する方法を身に付ける。【25%】					
	目標 5						
	目標 6						
	目標 7						
アクティブ・ラーニング	ディスカッション			ディベート		グループワーク	
	プレゼンテーション	○		実習	○	フィールドワーク	
	その他課題解決型学習			○			

	授業計画	授業時間外学修（予習及び復習を含む）
第1回	ガイダンス：授業の進め方	【予習】「情報リテラシー」「フレッシュマンゼミ」他、実験科目で学んだPCの使い方を復習してくること。（4時間）
第2回	ソフトのセットアップとPCのtips	【予習】「情報リテラシー」「フレッシュマンゼミ」他、実験科目で学んだPCの使い方を復習してくること。（1時間） 【復習】PCのデスクトップ、HD、ドライブの構成。ダウンロードのファイルへのアクセス方法等について復習しておくこと。（1時間）
第3回	ChemDraw：便利な機能	【予習】1学年のFゼミで使用した「ChemDrawの使い方」を読んでおくこと。（1時間）【復習】授業内で行った課題および発展課題の内容を復習しておくこと。（1時間）
第4回	ChemDraw：officeソフトとの連携	【予習】前回学習したフォーマットの種類を確認しておくこと。（1時間）【復習】授業内で行った課題および発展課題の内容を復習しておくこと。（1時間）
第5回	Chem3D：ソフトの使い方	【予習】インストール済のChem3D内のフォーマットの種類を確認しておく。（1時間）【復習】目的別に種々のフォーマットを確認しておく。（1時間）
第6回	NCBIの使い方：遺伝子情報の収集	【予習】ポータルサイトで指示するサイトにアクセスし、テキストに書かれていることを一通り確認しておくこと。（1時間）【復習】授業内で行った課題を復習し、発展課題を期限までに提出すること。（1時間）
第7回	NCBIの使い方：オミックス情報の収集	【予習】ゲノミクス、トランスクリプトーム、プロテオーム、メタゲノムとはなにか調べてくること。（1時間）【復習】授業内で行った課題を復習し、発展課題を期限までに提出すること。（1時間）
第8回	NCBIの使い方：PubChemの使い方	【予習】ポータルサイトで指示するサイトにアクセスし、テキストに書かれていることを一通り確認しておくこと。（1時間）【復習】授業内で行った課題を復習し、発展課題を期限までに提出すること。（1時間）
第9回	NCBIの使い方：PubMedによる文献検索	【予習】ポータルサイトで指示するサイトにアクセスし、テキストに書かれていることを一通り確認しておくこと。（1時間）【復習】授業内で検索した文献のうち指定された文献についてアブストラクトを訳してくること。（1時間）
第10回	卒業論文と雑誌論文	【予習】分子構造、生体分子構造を扱っている研究で興味のある分野を絞っておくこと。またLCセンターのデータベースや雑誌へアクセスできることを確認すること。（1時間） 【復習】興味のある研究内容の文献を調査すること。（1時間）
第11回	雑誌の抄録を作成	【予習】興味のある研究分野の英文雑誌を見つけ、精読すること。（1時間）【復習】授業内で終わらなかった文献購読、資料作成を進める。（1時間）
第12回	プレゼンテーションファイルの製作	【予習】各グループでの役割分担や資料作成分担を確認すること。（1時間）【復習】授業内で行った内容を復習し、課題に取り組むこと。（1時間）

第 13 回	模擬プレゼンテーション	【予習】これまでの授業での知識を確認し、プレゼンテーション資料を作成しておくこと。(1 時間)【復習】自分のプレゼンテーション資料に改善すべき点がないかみなおすこと。(1 時間)
第 14 回	まとめ	第 2-13 回までの内容を確認し、疑問点などを予めまとめておくこと (2 時間)。未完成、生提出を求められた課題について完成させること (2 時間)。
課題等に対するフィードバック	第 2～5 回の通常課題が合格点に満たない学生へは個別に連絡する。また発展課題については提出した学生のみそれぞれの評価 (加点) を伝える。 第 6～9 回の課題については、teams を通してコメントを添えて返却する。 第 10～13 回では teams を通して毎回課題を提出する。teams と次の講義の冒頭で課題に関してコメントをする。	
評価方法と基準	平常点、及び演習問題と課題レポートにより総合的に評価する。各教員 (3 名) がそれぞれ 100 点満点で採点し、その平均点が 60～69 点を「C 評価」とする。ただし、それぞれの評価で 60 点以上が必要である。毎週出席することは当然であり、授業中に指示された課題は期限までに提出しなければならない。	
テキスト	特になし。 参考 web サイトなどは授業内で適宜紹介する。	
科目の位置付け	応用化学科のカリキュラムの特徴として「ゼミ・卒業研究を通して、先端研究に取り組むことで、より実践的な技術と経験、企画力、問題発見能力と解決能力、さらにプレゼンテーション能力を養うとともに、倫理観や自己研鑽への意識を高める。」ことを掲げている。化学生物情報処理演習はプレゼンテーション能力を高めるために必須の授業である。	
履修登録前準備	・ソフトの更新、再インストールについては、授業内で説明するので特に事前準備は必要ない。 ・毎回必ず充電済み PC を持参すること。(学内 LAN に接続できることを確認しておくこと。) ・サポータルから配布する「化学生物情報処理演習を履修する前に」を予習しておくこと。	

授業コード		510215		オムニバス			
科目名		機器分析化学		単位数		2	
配当学年		2		曜日時限		水曜 4 限	
年度学期		2025 年度 春学期		コース			
対象学科		基_応用, 基_環生		必選の別		必修科目	
科目区分		専門科目					
担当者		伴 雅人					
実務家教員担当授業		担当教員の伴は、さまざまな分析機器を使用した研究開発などの実務経験がある。その経験を活かし、種々の分析に関して実践的なテーマや実例を授業で扱っている。					
教室		3-226					
授業の目的と進め方		物質の構造を見極めることは材料化学の分野では大変重要である。これら構造を決定するために開発された種々の精巧な分析機器のなかでも、分光分析法を中心にその原理を理解し説明できる知識を身につける。					
達成目標	目標 1	無機・有機材料を対象とする様々な分析法の原理を説明できる。【60%】					
	目標 2	分析に用いる光や電子などの性質を理解して、回折・散乱・吸収などの物理現象を説明できる。【40%】					
	目標 3						
	目標 4						
	目標 5						
	目標 6						
	目標 7						
アクティブ・ラーニング		ディスカッション		ディベート		グループワーク	
		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク	
		その他課題解決型学習					

	授業計画	授業時間外学修（予習及び復習を含む）
第1回	分析化学の基礎（1）単位と物理量	【予習】化学式と分子量、モルと濃度について調べておくこと（1時間） 【復習】講義後は確認テストを解答し、期日までに提出すること（1時間）
第2回	分析化学の基礎（2）電磁波の性質	【予習】身の回りの電磁波の種類とその波長について調べておくこと（1時間） 【復習】講義後は確認テストを解答し、期日までに提出すること（1時間）
第3回	分子分光分析（1）光の性質とスペクトロメトリー	【予習】光の回折現象のことを調べておくこと。（1時間） 【復習】講義後は確認テストを解答し、期日までに提出すること（1時間）
第4回	分子分光分析（2）赤外分光	【予習】分子の振動について調べておくこと。（1時間） 【復習】講義後は確認テストを解答し、期日までに提出すること（1時間）
第5回	分子分光分析（3）ラマン分光	【予習】物質に光を当てると、分子の振動に起因して散乱光が生じる現象について調べ整理しておくこと（1時間） 【復習】講義後は確認テストを解答し、期日までに提出すること（1時間）
第6回	分子分光分析（4）紫外・可視分光	【予習】分子内電子のエネルギー順位について調べ整理しておくこと（1時間） 【復習】講義後は確認テストを解答し、期日までに提出すること（1時間）
第7回	原子分光分析（1）光の吸収・発光	【予習】花火はなぜいろいろな色に光るのかを調べ整理しておくこと（1時間） 【復習】講義後は確認テストを解答し、期日までに提出すること（1時間）
第8回	原子分光分析（2）原子吸光	【予習】物質を急激に加熱すると含まれている原子がガス化する過程を調べ整理しておくこと（1時間） 【復習】講義後は確認テストを解答し、期日までに提出すること（1時間）
第9回	原子分光分析（3）ICP 発光分光	【予習】ガスがプラズマという状態になる過程について調べ整理しておくこと（1時間） 【復習】講義後は確認テストを解答し、期日までに提出すること（1時間）
第10回	質量分析（ICP-MS）	【予習】各種の質量分析器について調べ整理しておくこと（1時間） 【復習】講義後は確認テストを解答し、期日までに提出すること（1時間）
第11回	電子スピン共鳴	【予習】原子の軌道において不対電子と呼ぶ状態を調べ整理しておくこと（1時間） 【復習】講義後は確認テストを解答し、期日までに提出すること（1時間）
第12回	核磁気共鳴（1）スペクトル・化学シフト	【予習】小さな磁石を磁場の中に入れるとコマのような運動をする歳差運動について調べ整理しておくこと（1時間） 【復習】講義後は確認テストを解答し、期日までに提出すること（1時間）

第 13 回	核磁気共鳴（2）スピнкаップリング	【予習】質量数 13 の炭素の原子核について調べ整理しておくこと（1 時間） 【復習】講義後は確認テストを解答し、期日までに提出すること（1 時間）
第 14 回	クロマトグラフィー	【予習】植物の抽出液を目の細かいカラムに通すと着色成分が分離できることを調べ整理しておくこと（1 時間） 【復習】講義後は確認テストを解答し、期日までに提出すること（1 時間）
課題等に対するフィードバック	毎時間実施する「確認テスト」を次の講義時に返却し、テストの模範解答を含む解説を行う。	
評価方法と基準	毎時間に実施する確認テストの回答状況（30%）+ 期末試験（70%）により評価し、60 点以上を合格とする。	
テキスト	『基礎からわかる機器分析』（物質工学入門シリーズ）加藤正直・内山一美・鈴木秋弘・著 森北出版（2010） [ISBN 978-4-627-245617] 『図解入門 よくわかる 最新分析化学の基本と仕組み』津村ゆかり・著 秀和システム（2025）[ISBN 978-4-7980-22451]	
科目の位置付け	応用化学科に設置している専門科目を理解するうえで必要となる物質をいろいろな視点から評価する方法を学ぶ科目です。そのため、学科に在籍する学生たち全員が習得しなくてはならない内容の科目であることから必修科目としています。	
履修登録前準備	必修科目ですので、Q 科目である「化学Ⅰ・Ⅱ」に加え、学科で教育する基礎的領域の科目である各種の実験科目ならびに「有機化学」、「物理化学」、「分子生物学」および「無機化学」は必ず履修すること。	

授業コード		510468		オムニバス			
科目名		資源循環工学		単位数		2	
配当学年		3		曜日時限		月曜 3 限	
年度学期		2025 年度 春学期		コース			
対象学科		基_応用		必選の別		選択科目	
科目区分		専門科目					
担当者		内田 祐一					
実務家教員担当授業		担当教員の内田は、企業において資源リサイクルの操業に関する実務経験がある。その経験を活かし、卒業研究や社会活動に応用できるリサイクルの実践的なテーマや実例を授業で扱っている。					
教室		3-227					
授業の目的と進め方		工業材料やエネルギーの製造と循環利用に関する科学技術とその技術革新を理解できるようになる。さらに、素材・エネルギー原料としての各種資源の現状を地球規模および環境負荷の視点から概観し、資源循環の必要性や課題を実践的に理解できるようになる。 講義および演習形式で行う。講義で課された課題については講義時間内に解説を受ける。 なお、環境コミュニケーションについては参加者との協議により開催回の変更があり得る。					
達成目標	目標 1	・ 各種工業材料の特性や資源生産に始まるプロセスフローを説明できる。【40%】					
	目標 2	・ 材料製造における生産技術および資源再利用技術に関する環境負荷低減の取り組みを説明できる。【30%】					
	目標 3	・ 各種材料のリサイクルのケーススタディーを通じて、資源循環の必要性や課題を提示できる。【30%】					
	目標 4						
	目標 5						
	目標 6						
	目標 7						
アクティブ・ラーニング		ディスカッション	○	ディベート		グループワーク	
		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク	
		その他課題解決型学習					

	授業計画	授業時間外学修（予習及び復習を含む）
第1回	循環型社会における資源と環境	予習として、自分の関心のある資源の埋蔵量について、および地球温暖化対策を取り巻く現況について調べておく（1時間）。復習として、資源と環境に関する配布資料を再読する（1時間）。
第2回	プラスチックの資源とリサイクル	予習として、ポリプロピレンなど、プラスチック材料の製法と資源について調べておく（1時間）。復習として、プラスチック材料の製法とリサイクルに関する配布資料を再読する（1時間）。
第3回	バイオマスの資源とリサイクル	予習として、木質系素材の製法と資源について調べておく（1時間）。復習として、木質系素材の製法とリサイクルに関する配布資料を再読する（1時間）。
第4回	鉄鋼材料の資源とリサイクル	予習として、炭素鋼の製法と資源について調べておく（1時間）。復習として、炭素鋼の製法とリサイクルに関する配布資料を再読する（1時間）。
第5回	非鉄金属の資源とリサイクル	予習として、銅、アルミニウムの製法と資源について調べておく（1時間）。復習として、非鉄金属の製法とリサイクルに関する配布資料を再読する（1時間）。
第6回	リスク資源のリサイクル	予習として、生命活動に必須のリンの製法と資源について調べておく（1時間）。復習として、リスク資源のリサイクルに関する配布資料を再読する（1時間）。
第7回	水素エネルギーの有効利用技術	予習として、水素の製造方法や利用技術について調べておく（1時間）。復習として、水素の製造方法や利用技術に関する配布資料を再読する（1時間）。
第8回	熱エネルギーの有効利用技術	予習として、蓄熱や熱電変換などの熱エネルギーの利用技術について調べておく（1時間）。復習として、熱エネルギーの利用技術に関する配布資料を再読する（1時間）。
第9回	カーボンニュートラルに向けた技術的取り組み	予習として、炭素循環社会の実現に向けた取り組みの現況について調べておく（1時間）。復習として、炭素循環社会に向けた取り組みに関する配布資料を再読する（1時間）。
第10回	循環型社会を支える静脈産業	予習として、産業規模のリサイクルの実例について調べておく（1時間）。復習として、循環型社会を支える静脈産業に関する配布資料を再読する（1時間）。
第11回	建築土木材料の資源とリサイクル	予習として、建築土木分野で使用されている材料の製法と資源について調べておく（1時間）。復習として、建築土木材料のリサイクルに関する配布資料を再読する（1時間）。
第12回	循環型社会のための法体系の基本	予習として、廃棄物に関する法体制について調べておくこと。（1時間）。復習として、廃棄物の法体制に関する配布資料を再読する（1時間）。

第 13 回	環境コミュニケーション	予習として、講師の提供する事前配布資料を読んで理解しておくこと（1 時間）。復習として、今回の環境コミュニケーションで習得できたことをまとめ、提出する。（1 時間）
第 14 回	電力の資源とリサイクル	予習として、電力事業における各種発電方法と原燃料について調べておく（1 時間）。復習として、電力事業におけるリサイクルに関する配布資料を再読する（1 時間）。
課題等に対するフィードバック	授業中に課す小テストは、授業中に解説を行い、その場での理解を促す。	
評価方法と基準	各講義回での事前課題、平常点および小テスト形式の演習（60%）とレポート課題（40%）による評価を行い、60-69 点を C 評価とする。小テスト形式の演習は別途解説するので内容を復習すること。	
テキスト	特に指定せず、参考資料や論文を配布する。	
科目の位置付け	環境系科目や専門科目等の講義を通じて身につけてきた知識を、資源製造や回収といった工業的実例に繋げてさらに深く理解する。	
履修登録前準備	種々の機関が発表している素材リサイクルに関する統計に目を通しておくこと。	

授業コード		520198		オムニバス			
科目名		生化学		単位数		2	
配当学年		2		曜日時限		火曜 1 限	
年度学期		2025 年度 秋学期		コース			
対象学科		基_応用, 基_環生		必選の別		選択科目	
科目区分		専門科目					
担当者		佐野 健一					
実務家教員担当授業		担当教員の佐野は、生化学分野における研究開発等の実務経験がある。その経験を活かし、この生化学で学ぶさまざまなテーマに関して実践的なテーマや実例を授業で扱っている。					
教室		3-321					
授業の目的と進め方		Biochemistry 生化学は、 Biological Chemistry の略であり、化学の一分野である。この講義では、生物を構成する分子に着目し、それらの相互作用や化学反応の理解を元に、生命現象を理解することを目指すものである。授業は、教科書に沿って進める。					
達成目標	目標 1	物理的原理が生物におけるエネルギー変換の基盤であることが理解できるようになる。【25%】					
	目標 2	酵素反応を理解できるようになる。【20%】					
	目標 3	生体分子の代謝について、その概要を理解できるようになる。【55%】					
	目標 4						
	目標 5						
	目標 6						
	目標 7						
アクティブ・ラーニング		ディスカッション	○	ディベート	○	グループワーク	
		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク	
		その他課題解決型学習					

	授業計画	授業時間外学修（予習及び復習を含む）
第1回	生物におけるエネルギー変換の基盤	【予習】教科書の13-29 page をよく読み、「生物学1」「生物学2」「分子生物学」で学んだ内容を復習してくること。(2時間) 【復習】授業で理解の足りなかったところについて復習しておくこと。(2時間)
第2回	ATP と生化学的エネルギー論	【予習】教科書の29-36 page をよく読んでくること。(1時間) 【復習】授業で理解の足りなかったところについて復習しておくこと。(2時間)
第3回	酵素とその反応	【予習】教科書の36-46page をよく読んでくること。(1時間) 【復習】授業で理解の足りなかったところについて復習しておくこと。(2時間)
第4回	酵素活性の化学的基盤	【予習】教科書の46-76 page をよく読んでくること。(1時間) 【復習】課題に取り組むとともに授業で理解の足りなかったところについてよく読み、復習しておくこと。76-79 page の学んだことを応用してみようを解いてくること。(4時間)
第5回	化学エネルギーの獲得経路1 酸化還元	【予習】教科書の80-90 page をよく読んでくること。(1時間) 【復習】課題に取り組むとともに授業で理解の足りなかったところについて復習しておくこと。(2時間)
第6回	化学エネルギーの獲得経路2 グルコースの酸化による化学エネルギーの獲得	【予習】教科書の92-116 page をよく読んでくること。(1時間) 【復習】授業中で出てくる代謝経路を覚えておくこと。授業で理解の足りなかったところについてよく復習しておくこと。(2時間)
第7回	化学エネルギーの獲得経路3 発酵	【予習】教科書の116-123 page をよく読んでくること。(1時間) 【復習】課題に取り組むとともに授業で理解の足りなかったところについて復習しておくこと。(2時間)
第8回	化学エネルギーの獲得経路4 代謝経路の制御	【予習】教科書の123-133 page をよく読んでくること。(1時間) 【復習】授業で理解の足りなかったところについてよく読み、復習しておくこと。135-138 page の学んだことを応用してみようを解いてくること。(4時間)
第9回	化学エネルギーの獲得経路5 応用	【予習】第5回から8回までの講義で学んだ内容について、代謝経路を中心によく復習しておくこと。(2時間) 【復習】課題に取り組むこと。(2時間)
第10回	光合成1 概略	【予習】教科書の139-149 page をよく読んでくること。(1時間) 【復習】授業で理解の足りなかったところについて復習しておくこと。(1時間)
第11回	光合成2 光エネルギーの化学エネルギーへの変換	【予習】教科書の149-164 page をよく読んでくること。(1時間) 【復習】授業で理解の足りなかったところについて復習しておくこと。(1時間)
第12回	光合成3 カルビンサイクル	【予習】教科書の164-175 page をよく読んでくること。(1時間) 【復習】授業で理解の足りなかったところについて復習しておくこと。(1時間)

第 13 回	光合成 4 糖代謝との比較	【予習】第 6 回および、第 9 回から 11 回までの講義で学んだ内容について、代謝経路を中心によく復習しておくこと。(2 時間) 【復習】課題に取り組むこと。(2 時間)
第 14 回	光合成 5 植物の環境適応	【予習】教科書の 175-190 page をよく読んでくること。(1 時間) 【復習】授業で理解の足りなかったところについてよく読み、復習しておくこと。191-192 page の学んだことを応用してみようを解いてくること。(4 時間)
課題等に対するフィードバック	課題については、次回の講義で総評したのち、特に良かったものを紹介する。	
評価方法と基準	課題(全 4 回)で最大評価 20 点、小テスト(全 12 回)で最大評価 30 点、授業内容の振り返りプリントで最大評価 20 点、期末テストを 30 点満点に換算し、これらの合計点が 60 点の学生の場合は C 評価となる。	
テキスト	デイヴィッド・サダヴァ『カラー図解 アメリカ版 新大学生物学の教科書 第 3 巻 生化学・分子生物学』講談社(2021) ISBN:978-4065137451 物足りない人は、 前野正夫, 磯川桂太郎『はじめの一步の生化学・分子生物学 第3版』羊土社(2016) ISBN 978-4-7581-2072-2 をお勧めします。 「生物学 1」「生物学 2」「分子生物学」で使った教科書も参考図書として重要です。	
科目の位置付け	応用化学科の生物工学系科目として、「生物学 1」「生物学 2」「分子生物学」から続く、専門科目であり、応用化学科の学生にとって、生命科学と化学をつなぐ、キーとなる科目である。この科目での理解は、応用化学科生物工学系の 3 年生以降の学びにおいて、その中心となるものである。	
履修登録前準備	「生物学 1」「生物学 2」「分子生物学」の内容をよく復習しておくこと。	

授業コード		510343		オムニバス			
科目名		生体分子工学		単位数		2	
配当学年		3		曜日時限		月曜 2 限	
年度学期		2025 年度 春学期		コース			
対象学科		基_応用		必選の別		選択科目	
科目区分		専門科目					
担当者		佐野 健一					
実務家教員担当授業		担当教員の佐野は、生体分子工学分野に関する研究開発等の実務経験がある。その経験を活かし、遺伝子工学、タンパク質工学、細胞生物学、がんなどに関して実践的なテーマや実例を授業で扱っている。					
教室		3-224					
授業の目的と進め方		生物工学の大きな潮流のひとつに、タンパク質工学や遺伝子工学、細胞工学を融合した生体分子工学がある。この授業では、生体分子の機能を細胞生物学・分子生物学の視点から捉え、「生体分子工学」技術をゲノムに代表される網羅的解析、最先端のバイオテクノロジーなどを実践的に学修することで、バイオ系研究室における「卒業研究」のための基礎知識を得ると同時に、将来、バイオ関係の技術者として必要な力を養うことを目的とします。					
達成目標	目標 1	ゲノム解析技術を広く学び、ゲノム応用技術や解析の一端が理解できるようになる。【35%】					
	目標 2	遺伝子そのものの理解を見直し、遺伝子多型、変異と表現型の関係を深く考察できるようになる。また併せて、遺伝子を基盤とする生命倫理について考えることができるようになる。【25%】					
	目標 3	組換え DNA 技術を理解し、実際に実験を組み立てることができるようになる。【30%】					
	目標 4	免疫のメカニズムを学修し、自然免疫～適応免疫のメカニズムの基本を捉えることができるようになる。【10%】					
	目標 5						
	目標 6						
	目標 7						
アクティブ・ラーニング	ディスカッション	○	ディベート	○	グループワーク	○	
	プレゼンテーション	○	実習		フィールドワーク	○	
	その他課題解決型学習						

	授業計画	授業時間外学修（予習及び復習を含む）
第1回	ゲノム1：ゲノム解析技術	【予習】2 学年秋学期 「生化学」の内容 をもう一度見直してから講義を受けること。テキストの p193-202 を熟読し、理解してくること。(4 時間) 【復習】講義の内容を整理すること。(1 時間)
第2回	ゲノム2：ゲノム配列から得られる情報	【予習】テキストの p202-207 を予め予習し、わからない用語や分子について調べてくること。(2 時間) 【復習】講義の内容を整理すること。(1 時間)
第3回	ゲノム3：原核生物のゲノム	【予習】テキストの p207-216 を予め予習し、わからない 用語や分子について調べてくること。(2 時間) 【復習】講義の内容を整理すること。テキスト p216-220 について、授業中に課すレポートを期限までに提出すること。(6 時間)
第4回	ゲノム4：真核生物のゲノム	【予習】テキストの p220-229 を予め予習し、わからない用語や分子について調べてくること。必要に応じて「生化学」で学んだ内容を復習しておくこと。(2 時間) 【復習】講義の内容を整理すること。(1 時間)
第5回	ゲノム5：遺伝子ファミリーと反復配列	【予習】テキストの p229-237 を予め予習し、わからない用語や分子について調べてくること。必要に応じて「生化学」で学んだ内容を復習しておくこと。(2 時間) 【復習】講義の内容を整理すること。(1 時間)
第6回	ゲノム6：ゲノムからわかるヒトの生物学的特徴	【予習】テキストの p237-245 を予め予習し、わからない 用語や分子について調べてくること。(2 時間) 【復習】講義の内容を整理すること。(1 時間)
第7回	ゲノム7：総合演習・プレゼンテーション	【予習】テキストの p246-254 を予め予習し、わからない用語や分子について調べてくること。(2 時間) 【復習】課題のプレゼンテーションを期日までに完成させ、提出すること。(10 時間)
第8回	組換え DNA1：組換え DNA の基本～ツールと方法	【予習】テキストの p255-270 を予め予習し、わからない用語や分子について調べてくること。「生化学」・「生物工学実験基礎」・「応用生物工学実験」で学んだ当該箇所は必ず復習しておくこと。(2 時間) 【復習】講義の内容を整理すること。(1 時間)
第9回	組換え DNA2：レポーターアッセイ	【予習】テキストの p270-281 を予め予習し、わからない 用語や分子について調べてくること。(2 時間) 【復習】講義の内容を整理すること。(1 時間)
第10回	組換え DNA 実験3：CRISPER-Cas9 と RNAi	【予習】テキストの p281-288 を予め予習し、わからない用語や分子について調べてくること。(2 時間) 【復習】講義の内容を整理すること。(1 時間)
第11回	組換え DNA4：応用技術	【予習】テキスト下巻の p289-309 を予め予習し、わからない用語や分子について調べてくること。(2 時間) 【復習】講義の内容を整理すること。授業中に課された課題について、プレゼンテーションを準備してくること。(10 時間)
第12回	免疫	【予習】配布資料に目を通しておくこと。(2 時間) 【復習】講義の内容を整理すること。(1 時間)

第 13 回	最終プレゼンテーション 1	【予習】第 7 回、10 回に課すプレゼンテーションの準備。 (10 時間) 【復習】自分の最終プレゼンテーションについて、他の学生のものと比較し、適宜修正すること。(2 時間)
第 14 回	最終プレゼンテーション 2	【予習】第 7 回、10 回に課すプレゼンテーションの準備。 (10 時間) 【復習】自分の最終プレゼンテーションについて、他の学生のものと比較し、適宜修正すること。(2 時間)
課題等に対するフィードバック	課題については、次回の講義で総評したのち、特に良かったものを紹介する。最終プレゼンテーションは、公開し、教員からだけでなく同じ受講生からのフィードバックを受ける。	
評価方法と基準	各回の小テスト（全 11 回）最大評価 30 点、全 3 回の課題で最大評価 20 点、最終課題のプレゼンテーションで最大評価 50 点、これらの合計点が 60 点の学生の場合は C 評価となる。なお期末テストはおこなわない。科目合格には、すべての課題を期限までに提出し、最終プレゼンテーションを行うことが最低限必須である。	
テキスト	デイヴィッド・サダヴァ『カラー図解 アメリカ版 新大学生物学の教科書 第 3 巻 生化学・分子生物学』講談社 (2021) ISBN:978-4065137451 物足りない人は、 アルパート他『細胞の分子生物学（第 6 版）』羊土社 (2016) ISBN 978-4315520620 をお勧めします。 「生物学 1」「生物学 2」「分子生物学」で使った教科書も参考図書として重要です。	
科目の位置付け	応用化学科 生物工学系に関する専門科目の一つ。1 年春学期「生物学 1」から続く、生物系専門科目で習得したバイオ領域の知識をこの科目では、より深く踏み込み、ゲノム・遺伝子工学を細胞生物学・分子生物学の視点から学修することで、最先端の分子生物工学を修得することができる。	
履修登録前準備	「生物学 1」「生物学 2」「分子生物学」「生化学」の内容を復習しておくこと。	

授業コード		510239		オムニバス			
科目名		無機化学		単位数		2	
配当学年		2		曜日時限		火曜 2 限	
年度学期		2025 年度 春学期		コース			
対象学科		基_応用, 基_環生		必選の別		必修科目	
科目区分		専門科目					
担当者		内田 祐一					
実務家教員担当授業		担当教員の内田は、企業の研究所において無機化合物の製造開発に関する実務経験がある。その経験を活かし、卒業研究や社会活動に応用できる各種無機材料に関する実例を授業で扱っている。					
教室		3-227					
授業の目的と進め方		学生が化学反応の仕組みや危険性を判断できるようになるために、元素とその結合メカニズムについて理解し、無機化合物の構造と性質、そして反応特性について習得する。 講義形式で行われる。講義中に課題に取り組み、解説を受ける。提出および返却方法は課題ごとに説明される。					
達成目標	目標 1	原子構造と元素について理解し、元素の性質について説明することができる【50%】					
	目標 2	結合と結晶構造の種類と特徴について説明することができる【25%】					
	目標 3	無機化合物の反応（特に酸化還元反応）について説明することができる【25%】					
	目標 4						
	目標 5						
	目標 6						
	目標 7						
アクティブ・ラーニング		ディスカッション		ディベート		グループワーク	
		プレゼンテーション		実習	○	フィールドワーク	
		その他課題解決型学習					

	授業計画	授業時間外学修（予習及び復習を含む）
第1回	基礎化学Ⅰ（原子と電子）	【予習】テキストのP1~P27を事前に読んでおくこと（1時間） 【復習】講義で学んだテキストの該当する部分や小テストの内容をしっかりと理解しておくこと（1時間）
第2回	基礎化学Ⅰ（化学結合）	【予習】テキストのP30~P49を事前に読んでおくこと（1時間） 【復習】講義で学んだテキストの該当する部分や小テストの内容をしっかりと理解しておくこと（1時間）
第3回	無機溶液の化学Ⅰ（酸と塩基、錯体の化学）	【予習】テキストのP52~P67およびP78~P85を事前に読んでおくこと（1時間） 【復習】講義で学んだテキストの該当する部分と小テストの内容をしっかりと理解しておくこと（1時間）
第4回	無機溶液の化学Ⅰ（酸化還元と電気化学）	【予習】テキストのP68~P77を事前に読んでおくこと（1時間） 【復習】講義で学んだテキストの該当する部分や小テストの内容をしっかりと理解しておくこと（1時間）
第5回	典型元素の性質と反応Ⅰ（s-ブロックおよびp-ブロック元素とその化合物）（1）	【予習】テキストのP118~P135を事前に読んでおくこと（1時間） 【復習】講義で学んだテキストの該当する部分や小テストの内容をしっかりと理解しておくこと（1時間）
第6回	典型元素の性質と反応Ⅰ（s-ブロックおよびp-ブロック元素とその化合物）（2）	【予習】テキストのP136~P157を事前に読んでおくこと（1時間） 【復習】講義で学んだテキストの該当する部分や小テストの内容をしっかりと理解しておくこと（1時間）
第7回	中間総合演習	【予習】これまでに学んだテキストの該当部分を再度読んでおくこと（2時間） 【復習】講義中に解説された中間総合演習の内容をしっかりと理解しておくこと（1時間）
第8回	遷移元素の性質と反応Ⅰ（d-ブロックおよびf-ブロック元素とその化合物）（1）	【予習】テキストのP160~P175を読んでおくこと（1時間） 【復習】講義で学んだテキストの該当する部分や小テストの内容をしっかりと理解しておくこと（1時間）
第9回	遷移元素の性質と反応Ⅰ（d-ブロックおよびf-ブロック元素とその化合物）（2）	【予習】テキストのP176~P191を事前に読んでおくこと（1時間） 【復習】講義で学んだテキストの該当する部分や小テストの内容をしっかりと理解しておくこと（1時間）
第10回	遷移元素の性質と反応Ⅰ（d-ブロックおよびf-ブロック元素とその化合物）（3）	【予習】事前配布資料を読んでおくこと（1時間） 【復習】講義で学んだテキストの該当する部分や小テストの内容をしっかりと理解しておくこと（1時間）
第11回	無機固体の化学Ⅰ（固体の構造）（1）	【予習】テキストのP90~P101を事前に読んでおくこと（1時間） 【復習】講義で学んだテキストの該当する部分や小テストの内容をしっかりと理解しておくこと（1時間）
第12回	無機固体の化学Ⅰ（固体の構造）（2）	【予習】テキストのP102 ~P113までを事前に読んでおくこと（1時間） 【復習】講義で学んだテキストの該当する部分や小テストの内容をしっかりと理解しておくこと（1時間）

第 13 回	ポテンシャル図	【予習】事前配布資料を読んでおくこと（1 時間） 【復習】講義で学んだテキストの該当する部分や小テストの内容をしっかりと理解しておくこと（1 時間）
第 14 回	無機化学の応用	【予習】事前配布資料を読んでおくこと（1 時間） 【復習】講義で学んだテキストの該当する部分や小テストの内容をしっかりと理解しておくこと（1 時間）
課題等に対するフィードバック	授業中に課す小テストおよび中間総合演習は、授業中に解説を行い、その場での理解を促す。	
評価方法と基準	期末試験 40%、中間総合演習 40%、授業時間内での小テストや課題 20% の配分を基本とし、授業態度、出席状況等の平常点を適宜加味し、60-69 点を C 評価とする。	
テキスト	・橋本和明ら、『工学のための無機化学（新訂版）』、サイエンス社【ISBN：978-4-7819-1370-4】 ・必要に応じ、講義時に配布する資料を使用する。 荻野博，岡崎雅明，飛田博実『基本無機化学第 2 版』東京化学同人【ISBN-13：978-4807906253】	
科目の位置付け	1 学年で学習した内容をもとに、さらに元素や化合物の構造と特性に関する知識を深め、2 年次の応用化学実験Ⅰ、Ⅱと同期した学び、および各種専門科目での理解につなげる。	
履修登録前準備	1 年時の化学Ⅰ、化学Ⅱ、物理化学の内容を復習しておくこと	

授業コード		510909		オムニバス			
科目名		有機化学 2		単位数		2	
配当学年		2		曜日時限		月曜 2 限	
年度学期		2025 年度 春学期		コース			
対象学科		基_応用, 基_環生		必選の別		選択科目	
科目区分		専門科目					
担当者		大澤 正久					
実務家教員担当授業		担当教員の大澤は、有機発光材料の開発経験の実務経験がある。その経験を活かし、本授業では有機合成の基礎から応用例を幅広く取り扱う。					
教室		3-321					
授業の目的と進め方		医学、生物学あるいはエレクトロニクスといった分野においても有機化学の知識は不可欠である。この授業は、「有機化学 1」の基礎知識をベースに一歩進んだ「有機分子をどうやって創るか？」を自分の力で想像できるようになるために必須である。合成法を学修する上で必要な有機分子の「反応性」は医学、生物学でも必ず役立つはずである。毎回行う小テスト（次回返却）で知識を確認しながらゆっくり進めて行く。					
達成目標	目標 1	有機化学の基礎を体系的に身に付ける。【25%】					
	目標 2	化学結合論の基礎（電気陰性度、共鳴など）を説明できる。【25%】					
	目標 3	有機反応に伴う電子の流れを図示することができる。【25%】					
	目標 4	有機化合物の基本的な反応機構を説明できる。【25%】					
	目標 5						
	目標 6						
	目標 7						
アクティブ・ラーニング	ディスカッション		ディベート		グループワーク		
	プレゼンテーション		実習		フィールドワーク		
	その他課題解決型学習						

	授業計画	授業時間外学修（予習及び復習を含む）
第1回	ガイダンス：授業の進め方、基礎知識の確認	「有機化学Ⅰ」で学修した基礎知識（電気陰性度、共鳴構造、結合）について整理しておくこと（1.5時間）。小テストの内容をよく復習し、理解しておくこと（1.5時間）。
第2回	有機分子：ルイス構造式	ルイス構造式（価電子を点で表す表記）の書き方を復習しておくこと（0.5時間）。ルイス構造式と結合の極性、基本的な反応をよく復習すること（1.5時間）。
第3回	有機分子：有機反応をルイス式で表現する	ルイス構造式の書き方を復習しておくこと（0.5時間）。ルイス構造式の例外となる化合物についてよく復習し、式の書き方を復習しておくこと（1.5時間）。
第4回	酸、塩基：反応性	ブレンスレッド、ルイス、それぞれの酸塩基の定義を復習しておく（0.5時間）。ブレンスレッドとルイス、それぞれの反応の違いをよく復習しておくこと（1.5時間）。
第5回	アルデヒドとケトン：性質	教科書第9章 P291～296 までをよく読み、命名法、合成法を予習しておくこと（1時間）。アルデヒドとケトンの合成を中心としてよく復習しておくこと（1.5時間）。
第6回	アルデヒドとケトン：反応性	教科書第9章 P296～307 までをよく読み、反応性について予習しておくこと（1時間）。求核付加反応を中心によく復習しておくこと（1.5時間）。
第7回	カルボン酸とその誘導体：性質	教科書第10章 pp. 322～328 でよく読み、カルボン酸とその誘導体の構造・性質・命名法を調べておくこと（1時間）。カルボン酸とその誘導体の合成法と反応性をよく復習しておくこと（2時間）。
第8回	カルボン酸とその誘導体：反応性	教科書第10章 P332～337 までをよく読み、カルボン酸の反応性を調べておくこと（1時間）。求核アシル反応を中心によく復習しておくこと（2時間）。
第9回	芳香族化合物：性質	教科書第5章 P151～156、芳香族化合物の命名法を中心に習しておくこと（0.5時間）。電子の動きを中心に求電子置換反応を説明出来るように復習すること（2時間）。
第10回	芳香族化合物：反応	教科書第5章 P156～164、芳香族化合物の置換反応を予習しておくこと（0.5時間）。電子の動きを中心に求電子置換反応を説明出来るように復習すること（2時間）。
第11回	ハロゲン化アルキル：性質	教科書第7章 P217～221、命名法、製法をよく読んで予習しておくこと（0.5時間）。ハロゲン化アルキルの製法について復習しておくこと（2時間）。
第12回	ハロゲン化アルキル：反応性	教科書第7章 P221～225、ハロゲン化アルキルの反応の部分をよく読んで予習しておくこと（0.5時間）。グリニャール試薬を中心に復習しておくこと（1.5時間）。

第 13 回	ハロゲン化アルキル：置換と脱離反応	教科書第 7 章 P225～235、ハロゲン化アルキルの SN1 と SN2 反応の部分をよく読んでおくこと (0.5 時間)。置換反応を中心に復習すること (1.5 時間)。
第 14 回	まとめ：基礎有機反応の総括	前回まで行った小テストについてよく復習しておくこと (1 時間)。期末テストに向けて授業内で取り上げた練習問題をよく復習しておくこと (2 時間)。
課題等に対するフィードバック	毎回の課題はコメントを添え次回返却する。	
評価方法と基準	授業内で行う小テスト (25%)、学期末テスト (40%)、及び平常点 (35%) で評価をおこなう。以上を 100 点満点で採点し、60～69 点の獲得で「C 評価」とする。授業への取り組み（プロセス評価）により加点することがある。	
テキスト	マクマリー有機化学概説（第 7 版），John McMurry 著 東京化学同人 [ISBN 978-4-8079-0927-8] 授業は章ごとに進めるわけではない。 特に無し。	
科目の位置付け	本講義では、最先端の科学研究を行う上で必要とされる有機化学反応の基礎を身に付けることを目的としている。この科目で学修する内容は卒業研究へとつながり、ディプロマポリシーの「実践的技術力」を養う上で役に立つ。	
履修登録前準備	履修条件：「有機化学 1」に合格していること。 有機化学 1 の内容を復習しておくこと。	

授業コード		511002		オムニバス			
科目名		有機反応論		単位数		2	
配当学年		3		曜日時限		木曜 1 限	
年度学期		2025 年度 春学期		コース			
対象学科		基_応用, 基_環生		必選の別		選択科目	
科目区分		専門科目					
担当者		大澤 正久					
実務家教員担当授業		担当教員の大澤は、有機材料開発の実務経験がある。その経験を活かし、本授業では有機反応の基礎から 応用例を幅広く取り扱う。					
教室		3-227					
授業の目的と進め方		我々の身近にある有機化合物は化学反応によって“合成された”物質である。この合成反応の基礎となる「官 能基の種類とその反応性」について学修し、有機化合物の合成ルートを説明できることを目標とする。					
達成目標	目標 1	応用化学科の学生として必要な有機化学の基礎を体系的に身に付ける。【25%】					
	目標 2	有機化合物の化学修飾法を官能基別に説明出来る。【25%】					
	目標 3	有機反応を電子の流れで説明出来る。【25%】					
	目標 4	有機化合物の合成ルートを説明出来る。【25%】					
	目標 5						
	目標 6						
	目標 7						
アクティブ・ラーニング		ディスカッション		ディベート		グループワーク	
		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク	
		その他課題解決型学習					

	授業計画	授業時間外学修（予習及び復習を含む）
第1回	ガイダンス「授業の進め方と評価方法」	「有機化学2」で学修した内容を整理しておくこと（1時間）。配布プリント、ノートの整理を行うこと（1時間）。
第2回	エノラートイオン：(1)生成プロセス	教科書第6章(pp. 185~207)をよく読んで立体化学の復習をしておくこと（1時間）。授業内で行った練習問題を復習しておくこと（1時間）。
第3回	エノラートイオン：(2)反応性	教科書第11章(pp. 382~389)をよく読んで縮合反応について調べておくこと（1時間）。授業内で行った練習問題を復習しておくこと（1時間）。
第4回	糖質：(1) 立体化学の復習	教科書第6章(pp. 185~207)をよく読んで立体化学の復習をしておくこと（1時間）。授業内で行った練習問題を復習しておくこと（1時間）。
第5回	糖質：(2) 単糖類	教科書第14章(pp. 471~487)をよく読んで単糖類の構造を予習しておくこと（1時間）。Fischerの投影式を中心に復習しておくこと（1時間）。
第6回	糖質：(3) 単糖類から多糖類	教科書第14章(pp. 488~493)をよく読んで多糖類の種類を調べておくこと（1時間）。授業で行った練習問題を復習しておくこと（1時間）。
第7回	アミン：(1) 構造と性質	教科書第12章(pp. 404~409)をよく読んでアミンの構造、性質を予習しておくこと（1時間）。アミンの塩基性を中心に復習しておくこと（1時間）。
第8回	アミン：(2) 合成と反応	教科書第12章(pp. 410~417)をよく読んでアミンの反応性について予習しておくこと（1時間）。授業で行った練習問題を復習しておくこと（1時間）。
第9回	まとめ：アルコール、エーテル、アミンの反応性	教科書第8章(pp. 253~255)をよく読んでアルコール、フェノールの性質を調べておくこと（1時間）。授業内で行った練習問題を復習しておくこと（1時間）。
第10回	脂質：構造と性質	教科書第16章(pp. 539~542)をよく読み脂質について予習しておくこと（1時間）。授業で行った練習問題をよく復習しておくこと（1時間）。
第11回	有機化合物の構造決定：(1) 質量分析、赤外分光、紫外分光法	教科書第13章(pp. 435~445)をよく読んで各分析方法を調べておくこと（1時間）。授業内で行った練習問題を復習しておくこと（1時間）。
第12回	有機化合物の構造決定：(2) 核磁気共鳴分光法	教科書第13章(pp. 446~458)をよく読んでNMRの原理を調べておくこと（1時間）。授業内で行った練習問題を復習しておくこと（1時間）。

第 13 回	官能基別反応の総括：(2) カルボニル基を中心とした反応	「有機化学 2」で学修した内容（第 5～6 回）を復習しておくこと(1 時間)。授業内で行った練習問題をよく復習しておくこと(1 時間)。
第 14 回	官能基別反応の総括：(2) カルボニル基以外の反応	第 2～13 回までのまとめのプリントをよく読んでおくこと(1 時間)。授業内で行った重要ポイントを期末テストに向けて復習しておくこと(1 時間)。
課題等に対するフィードバック	毎回の小テストはコメントを添え次回返却する。	
評価方法と基準	授業内で行う小テスト(25%)、学期末テスト(40%)、及び平常点(35%)で評価をおこなう。以上を 100 点満点で採点し、60～69 点の獲得で「C 評価」とする。授業への取り組み（プロセス評価）により加点することがある。	
テキスト	マクマリー有機化学概説（第 7 版）、John McMurry 著 東京化学同人 [ISBN 978-4-8079-0927-8] 特に無し	
科目の位置付け	この科目は教養としての有機反応論という位置付けであり、研究室の研究内容やテーマに特化した内容ではない。有機化学と量子化学、有機化学と生物化学といったつながりを意識した構成となっている。この科目で学修する内容はディプロマポリシーの「実践的技術力」を養う上で役に立つ。	
履修登録前準備	受講の条件として「有機化学 1」と「有機化学 2」の単位を取得していること。	

授業コード		511126		オムニバス			
科目名		基礎化学実験Ⅰ		単位数		2	
配当学年		1		曜日時限		木曜1限 木曜2限	
年度学期		2025 年度 春学期		コース			
対象学科		基_環生		必選の別		必修科目	
科目区分		専門科目					
担当者		新倉 謙一、内田 祐一、小池 隆司					
実務家教員担当授業		内田は、材料化学に関する研究開発等の実務経験がある。その経験を活かし、実験時の注意点など実践的な内容を授業で扱っている。					
教室							
授業の目的と進め方		自然科学を学ぶ上で実際に観察や実験を行うことは重要である。本授業では、専門的な化学実験への基礎編として、実験に対する基本的作法を身につけると同時に、装置、器具、薬品に関する正しい知識と取扱い、注意深い観察力、判断力を養うことを目標とする。各テーマの最終週に行う演習問題を通して実験の背景を確認する。					
達成目標	目標1	安全のための知識（実験に適した服装、廃液処理、非常時の対応）を身につけ、実験を安全に遂行できる【25%】					
	目標2	薬品に関する知識（名称、分子式、可燃性、劇・毒物）を身につけ、薬品の取扱いができる【25%】					
	目標3	実験に使用する器具に関する知識（ガラス器具の名称・使用法）を身につけ、実験を的確にできる【25%】					
	目標4	データ処理に関する知識（モル数計算、pHの計算、収率の計算など）を身につけ、正確なデータ整理をできる【25%】					
	目標5						
	目標6						
	目標7						
アクティブ・ラーニング	ディスカッション		ディベート		グループワーク	○	
	プレゼンテーション		実習	○	フィールドワーク		
	その他課題解決型学習						

	授業計画	授業時間外学修（予習及び復習を含む）
第1回	ガイダンス：授業の進め方と安全教育 【内田、新倉、小池】	事前準備として、シラバス及びテキストを熟読し、各実験課題の目的と意義を理解しておくこと（1時間）。
第2回	中和滴定Ⅰ：基本的なガラス器具の使い方の修得とExcelを使ったグラフ作成 【小池】	【予習】テキストを熟読し、ガラス器具の名前を確認、周期表の原子量から分子量を求める（1時間）。 【復習】Excelを使ったグラフ作成方法（30分）。
第3回	中和滴定Ⅱ：中和反応とそれに基づいた溶液濃度の決定 【小池】	【予習】モル濃度の計算、モルの考え方を予習（1時間）。 【復習】中和滴定からのモル濃度決定方法（30分）。
第4回	中和滴定Ⅲ：レポート作成と課題の説明、分子構造の描画、構造最適化 【小池】	【予習】単結合、二重結合や共役系に関して予習（1時間）。 【復習】分子モデリングソフトを使った分子の描画（1時間）。
第5回	中和滴定Ⅳ：レポート作成と提出 【小池】	【予習】レポート作成に必要なデータの確認（1時間）。 【復習】Wordを使ったレポート作成方法（1時間）。
第6回	酸化還元反応Ⅰ：酸化還元滴定 【内田】	【予習】酸化還元反応の定義と意味、および身の回りの酸化還元反応について調べる（1時間）。 【復習】電子の移動授受を含めた酸化還元反応式が半反応式から導けることについて復習すること（1時間）
第7回	酸化還元反応Ⅱ：酸化還元反応を利用したCODの測定 【内田】	【予習】水質の指標となるCOD（化学的酸素要求量）の定義とその求め方について調べる（1時間）。 【復習】酸化還元滴定の結果からCOD値を計算する方法を復習すること（1時間）。
第8回	酸化還元反応Ⅲ：酸化還元電位の測定 【内田】	【予習】酸化還元反応における電位について調べる（1時間）。 【復習】酸化還元電位の成り立ちを復習すること（1時間）。
第9回	酸化還元反応Ⅳ：実験結果の解析 【内田】	【予習】これまでの実験データを整理しておくこと（1時間）。 【復習】講義後にレポートを作成し提出すること（1時間）。
第10回	アセチル化反応Ⅰ：アセトアニリドの合成 【新倉】	テキストを熟読し、アニリンと酢酸、無水酢酸の構造式の違いについて予習してから実験を行うこと（1時間）。合成実験で使用した試薬の名称及び構造式を復習すること（1時間）。
第11回	アセチル化反応Ⅱ：アスピリンの合成 【新倉】	サリチル酸の化学構造式および実験に使う試薬のモル数について調べておくこと。復習課題として、アセチル化の反応式、及び合成反応における収率の計算方法を確認すること（1時間）。
第12回	薄層クロマトグラフィー(TLC)による化合物の解析 【新倉】	薄層クロマトグラフィーの原理についてテキストを読んで予習すること。ChemDrawの基礎的な扱いについて復習すること。

第 13 回	アセチル化反応：レポート回収と実験解説 【新倉】	レポートを提出すること。実験データを整理すると共に、レポート執筆の基本について解説する。
第 14 回	実験全体のまとめとレポート講評 【内田・新倉・小池】	授業で行った三つの実験課題について、演習問題を交えながら復習を行う（1 時間）。実験レポートの執筆やグラフ作成における重要なポイントを再確認する。
課題等に対するフィードバック	レポートへのコメント、実験時の議論などを通じてフィードバックしていく。	
評価方法と基準	各実験課題への積極的取り組み、及び各テーマの最終週に行う演習問題と課題レポートにより総合的に評価する。3 つのテーマをそれぞれ 100 点満点で採点し、その平均点が 60～69 点を「C 評価」とする。ただし全てのテーマにおいて 60 点以上が必要である。毎週出席することは当然であり、さらに、授業中に指示されたようにレポートをまとめ、期限までに提出しなければならない。	
テキスト	テキストの購入に関しては担当教員の指示に従うこと 化学Ⅰ・Ⅱのテキスト 井上 正之（著）『理工系のための 化学入門』裳華房（2013 年）[ISBN-13: 9784785330958]	
科目の位置付け	環境生命化学科の目指す「確かな化学の知識と経験に裏づけられた幅広い視野と、産業や技術の変化に対応できる柔軟な適応能力」を獲得するためには、「知識」と「技術」をバランスよく修得する必要がある。本授業は主として「技術」を修得するための科目と位置づけている。	
履修登録前準備	白衣と保護メガネを準備すること。テキストの最初にある「実験の注意点」をよく読み、安全に関する意識を高めること。	

授業コード		511127		オムニバス			
科目名		生命科学 1		単位数		2	
配当学年		1		曜日時限		月曜 3 限	
年度学期		2025 年度 春学期		コース			
対象学科		基_環生		必選の別		必修科目	
科目区分		専門科目					
担当者		佐野 健一					
実務家教員担当授業		担当教員の佐野は、様々な生物学の分野における研究開発等の実務経験がある。その経験を活かし、この「生命科学 1」で学ぶ細胞生物学、細胞骨格、細胞運動、輸送などに関して実践的なテーマや実例を授業で扱っている。					
教室		3-225					
授業の目的と進め方		生命の基本単位となる細胞について理解を深め、生命活動の根幹をなす細胞の働きを理解できるようになるのが本科目の目標である。応用化学を学ぶものにとって必要不可欠な生物に関する基本的な知識を養うだけでなく、1 年秋以降の生命科学系科目のベースとなる。授業は、教科書の解説を中心に講義し、学んだ知識をもとに、グループワーク、ペアワーク、プレゼンテーションによって理解を深めていく。					
達成目標	目標 1	細胞の構造、細胞内小器官の役割を理解し、生命の基本単位である細胞について全体像を把握できるようになる。(20%)					
	目標 2	生物を構成する低分子がわかるようになる。(20%)					
	目標 3	生物を構成する DNA、タンパク質、脂質、糖などの高分子がどのようなものか理解できるようになる。(20%)					
	目標 4	生物を学ぶことの重要性を理解できるようになる。(20%)					
	目標 5	グループワーク、プレゼンテーションなどを通して、他人の意見を聞き、自分の意見に取り入れ、表現できるようになる。(20%)					
	目標 6						
	目標 7						
アクティブ・ラーニング		ディスカッション	○	ディベート	○	グループワーク	○
		プレゼンテーション	○	実習		フィールドワーク	
		その他課題解決型学習					

	授業計画	授業時間外学修（予習及び復習を含む）
第1回	生命を学ぶ～生物は共通の特性と起源を持つ	予習:生物とは何か? あらかじめ考えてくること。教科書 p13～42 までをよく読んでくること。(2 時間) 復習:図 1-10 をよく復習し、整理 しておくこと。(1 時間)
第2回	生命を学ぶ～生物学の研究法となぜ生物を学ぶのか	予習:教科書 p42～66 までをよく読んでくること。(2 時間) 復習:p67～ 学んだことを応用してみように取り組み、教科書第1章で学んだ内容を整理 しておくこと。(2 時間)
第3回	生物を作る元素、低分子	予習:教科書 p104～122 までをよく読んでくること。(2 時間) 復習:水の特徴と水の中で起こる化学反応について、整理し、理解すること。(2 時間)
第4回	水と水の中で起こる化学反応	予習:教科書 p104～122 までをよく読んでくること。(2 時間) 復習:水の特徴と水の中で起こる化学反応について、整理し、理解すること。(2 時間)
第5回	タンパク質	予習:教科書 p124～162 までをよく読んでくること。(2 時間) 復習:図 3-1 をよく復習し覚えること。タンパク質の構造と機能の関係を理解すること。(2 時間)
第6回	糖質と脂質	予習:教科書 p163～187 までをよく読んでくること。(2 時間) 復習:糖質、脂質の定義を整理しておくこと。(1 時間)
第7回	核酸の構造	予習:教科書 p190～201 までをよく読んでくること。可能な限り、核酸の構造を覚えてくること(2 時間) 復習:DNA、RNA の構造を理解すること。また DNA、RNA の構造の違いを整理すること(2 時間)
第8回	生命情報としての核酸	予習:教科書 p201～206 までをよく読んでくること。(1 時間) 復習:セントラルドグマをよく整理しておくこと。ATP、GTP、cAMP などのヌクレオチドについてその構造、機能を調べ、整理しておくこと(2 時間)
第9回	生命の起源と核酸	予習:教科書 p207～234 までをよく読んでくること。(2 時間) 復習:p235～236 学んだことを応用してみように取り組み、第4章で学んだことを整理しておくこと。(2 時間)
第10回	生命の基本単位～細胞	予習:教科書 p237～250 までをよく読んでくること。(1 時間) 復習:図 5-3 を中心によく復習し、各種顕微鏡で細胞や細胞の中をどのように観察できるかについて整理しておくこと。(2 時間)
第11回	原核細胞と真核細胞	予習:教科書 p251～262 までをよく読んでくること。オリジナル自主学習テキストの当該部分を予めよく読んでくること。(2 時間) 復習:図 5-4、5-7 を整理し、原核細胞と真核細胞の構造を把握する。(2 時間)
第12回	細胞内小器官の構造と機能	予習:教科書 p262～282 までをよく読んでくること。オリジナル自主学習テキストの当該部分を予めよく読んでくること。(2 時間) 復習:細胞小器官の構造と機能を整理しておくこと。(2 時間)

第 13 回	細胞骨格の構造と機能	予習:教科書 p282～296 までをよく読んでくること。オリジナル自主学習テキストの当該部分を予めよく読んでくること。(2 時間) 復習:3 種類の細胞骨格の構造と機能を整理しておくこと。p296～299 を読んで、p299 の質問に自分の考えを導き出すこと。(2 時間)
第 14 回	細胞外構造、進化	予習:教科書 p300～310 までをよく読んでくること。(1 時間) 復習: p310～の学んだことを応用してみように取り組み、第 5 章全体の理解を確認すること。(2 時間)
課題等に対するフィードバック	課題については、次回の講義で総評したのち、特に良かったものを紹介する。	
評価方法と基準	課題(全 5 回)で最大評価 20 点、グループワーク・ワークシート(全 7 回)で最大評価 20 点、小テスト(全 13 回)で最大評価 30 点、期末テストを 30 点満点に換算し、これらの合計点が 60 点の学生の場合は 0 評価となる。	
テキスト	デイヴィッド・サダヴァ『カラー図解 アメリカ版 新大学生物学の教科書 第 1 巻 細胞生物学』講談社(2021) ISBN:978-4065137437 適宜、オリジナルの補助教材を配布する。	
科目の位置付け	環境生命化学科で最初に学ぶ専門科目である。共通教育系科目である「化学 I」「化学 II」「物理 I」と並行して学修 することで、自然科学全般に関する知識、理解を深めることができる。1 学年秋学期以降に開講される「生命科学 2」「分子生物学」「生化学」へと続く、生物工学系科目の導入科目としての位置付けでもあり、この科目での理解は、環境生命化学科生命化学系の学びにおいて、その土台となるものである。	
履修登録前準備	身近な生物に注目してみてください。また、高校で生物を学んだ学生は、その内容を復習しておいてください。	

授業コード		521108		オムニバス			
科目名		基礎化学実験Ⅱ		単位数		2	
配当学年		1		曜日時限		木曜 1 限 木曜 2 限	
年度学期		2025 年度 秋学期		コース			
対象学科		基_環生		必選の別		必修科目	
科目区分		専門科目					
担当者		大澤 正久、飯塚 完司、伴 雅人、内田 祐一					
実務家教員担当授業		担当教員の大澤、伴、内田は、研究所等において科学研究開発の実務経験がある。その経験を活かし、卒業研究の場で応用できる実験器具・装置の使用実例を扱う。					
教室							
授業の目的と進め方		自然科学を学ぶ上で実際に観察や実験を行うことは重要である。本授業では、専門的化学実験への導入編として、実験に対する基本的作法を身につけると同時に、装置、器具、薬品に関する正しい知識と取扱い、 注意深い観察力、判断力を養うことを目標にする。各テーマの最終日に行う演習問題を通して実験の背景を 確認する。計 4 つのテーマで構成されており、3 週ずつ全てのテーマを受講する。					
達成目標	目標 1	専門的化学実験を行うために必要な基礎知識を身に付け、実践できるようになる。【20%】					
	目標 2	安全のための知識を修得する。： 実験を行う服装、廃液処理、非常時の対応 【20%】					
	目標 3	薬品に関する知識を修得する。： 名称、分子式、可燃性、劇・毒物 【20%】					
	目標 4	使用する装置に関する知識を修得する。： 紫外可視分光光度計及び pH メーターの原理・使用法 【20%】					
	目標 5	データ処理に関する知識を修得する。： モル数の計算、モル吸光係数の計算 【20%】					
	目標 6						
	目標 7						
アクティブ・ラーニング	ディスカッション	○	ディベート		グループワーク	◎	
	プレゼンテーション		実習	◎	フィールドワーク		
	その他課題解決型学習						

	授業計画	授業時間外学修（予習及び復習を含む）
第1回	ガイダンス：授業の進め方と安全教育 【大澤、伴、内田、飯塚】	事前準備として、シラバス及びテキストを熟読し、各実験課題の目的と意義を理解しておくこと（1.5時間）。自分の所属グループ及び、各実験課題の実施場所を把握すること。安全のための知識を復習し、次週から始まるテーマのテキストをよく読んでおくこと（2時間）。
第2回	光と色Ⅰ：光と色の関係、色の三原色と光の三原色、紫外可視分光光度計の使用法 【飯塚】	事前準備として、光の三原色、色の三原色について調べておくこと（1時間）。課題として、授業内で扱った光の波長と色の関係を復習すること（1時間）。
第3回	光と色Ⅱ：スペクトルの補正【飯塚】	事前準備として、エクセルを用いて自在にグラフを書けるように練習しておくこと（1時間）。課題として、授業で測定した各スペクトルを用いて、補正ができるように復習しておくこと（1時間）。
第4回	光と色Ⅲ：透過率スペクトルと吸光度スペクトルの測定【飯塚】	事前準備として、過去2週に行った実験データを整理すると共に、紫外可視分光光度計の原理と使い方をまとめておくこと（1時間）。課題として、3週分の実験内容をレポートにして提出すること（3時間）。また、次週からの実験課題についてテキストを読んでおくこと（1.5時間）。
第5回	水溶液中の鉄の定量Ⅰ：標準溶液の調製と検量線の作成【内田】	事前準備として、紫外可視分光光度計の原理・使用法、並びにモル吸光係数の計算方法について復習しておくこと（2時間）。課題として、キレート化合物（配位化合物）およびその構造的特徴について復習すること（1.5時間）。
第6回	水溶液中の鉄の定量Ⅱ：濃度未知溶液の定量実験【内田】	事前準備として、溶液の濃度と吸光度の関係、及び検量線について調べておくこと（1.5時間）。課題として、エクセル上で行う線形近似について復習すること（2時間）。
第7回	水溶液中の鉄の定量Ⅲ：原理の説明とレポート作成【内田】	事前準備として、過去2週に行った実験データを整理すると共に、金属を含むキレート化合物の特徴、並びに分析化学におけるキレート化合物の役割について調べておくこと、（2時間）。課題として、次週からの実験課題についてテキストを読んでおくこと（1.5時間）。
第8回	金属イオンの定性分析Ⅰ：金属陽イオンの種類と性質【大澤】	事前準備として、塩素イオンによって塩化物として沈殿する陽イオン、硫化物イオンによって沈殿する陽イオンについて調べて置くこと（1.5時間）。実験で使用した試薬の名称及び分子式を復習すること（2時間）。
第9回	金属イオンの定性分析Ⅱ：未知の試料の分析【大澤】	事前準備として、前回行った実験操作を復習し、テキストの系統分析の手順をよく読んでおくこと（1.5時間）。課題として、未知の試料分析で行った操作手順をノートにまとめておくこと（2時間）。
第10回	金属イオンの定性分析Ⅲ：背景の説明とレポート作成【大澤】	事前準備として、過去2週に行った実験データを整理し、未知試料中の陽イオンの決定方法を整理しておくこと（2時間）。課題として、未知試料の分析の結果を自己評価し、また次週からの実験課題についてテキストを読むこと（1.5時間）。
第11回	緩衝溶液Ⅰ：緩衝溶液とは？【伴】	事前準備として、化学実験Ⅰで行った「中和滴定」の復習を行い、緩衝溶液とは何か？、について調べておくこと（2時間）。課題として、ルシャトリエの原理を利用し緩衝溶液を説明出来るよう復習すること（1.5時間）。

第 12 回	緩衝溶液Ⅱ:緩衝溶液の製作 【伴】	事前準備として、緩衝溶液の仕組みが使われている? 体内の反応について調べておく (2 時間)。課題として、実験で使った pH メーターの原理・使?法を復 習すること (1.5 時間)。
第 13 回	緩衝溶液Ⅲ:背景の説明とレポート作成 【伴】	事前準備として、過去 2 回に行った実験データを整理 すると共に、化学Ⅰ・Ⅱのテキストの『理工系のため の化学入門』の第 10 章 3「水素イオン濃度と pH」、 5「中和滴定」を読んでおくこと (2 時間)。課題と して、次週からの実験課題についてテキストを読むこ と (1.5 時間)。
第 14 回	実験全体のまとめとレポート講評	事前準備として、授業内で行った四つの実験課題につ いて演習問題を含めた復習を行う (2 時間)。課題と して、実験を通して獲得した知識を座学 (化学Ⅰ・ Ⅱ) の学修に活かせるよう対応する教科書の章を確認 すること (1.5 時間)。
課題等に対するフィードバック	提出されたレポートは、授業中に説明する要求事項(必要事項)が全て書かれているかを細かくチェックし、不備がある場合には、授業中に説明するような方法で返却するので、全て修正の後、定められた期限までに再提出すること。合格したレポートは返却しません。	
評価方法と基準	平常点、及び各テーマの最終日に行う演習問題と課題レポートにより総合的に評価する。4 つのテーマをそれぞれ 100 点満点で採点し、その平均点が 60~69 点を「C 評価」とする。ただし全てのテーマにおいて 60 点以上が必要である。毎週出席することは当然であり、さらに、授業中に指示されたようにレポートをまとめ、期限までに提出しなければならない。	
テキスト	テキストの購入方法に関しては担当教員の指示に従うこと。 クオータ科目【化学Ⅰ・Ⅱ】のテキスト、井上 正之 (著)『理工系のための化学入門』裳華房 (2013 年) [ISBN-13: 978-4785330958]	
科目の位置付け	環境生命化学科が指す「確かな化学の知識と経験に裏づけられた幅広い視野と、産業や技術の変化に対応できる柔軟な適応能力」を獲得するためには、「知識」と「技術」をバランスよく習得する必要がある。本授業は主として「技術」を習得するための科目と位置づけている。デュプロマポリシーの「実践的技術力」に対応する。	
履修登録前準備	シラバスをよく読み、各課題の予習・復習を行うこと。また、実験テキスト及び化学Ⅰ・Ⅱのテキストを利用し関連箇所を事前学修しておくこと。	

授業コード		521109		オムニバス			
科目名		生命工学実験基礎		単位数		2	
配当学年		1		曜日時限		月曜 3 限 月曜 4 限	
年度学期		2025 年度 秋学期		コース			
対象学科		基_環生		必選の別		必修科目	
科目区分		専門科目					
担当者		佐野 健一、芳賀 健、植木 雅志					
実務家教員担当授業		担当教員の佐野・植木は、生物工学に関する研究開発等の実務経験がある。その経験を活かし、特に微生物学実験・細胞生物学実験・分子生物学実験などに関して実践的なテーマや実例を授業で扱っている。					
教室							
授業の目的と進め方		本科目では、生物を材料として使われる基本的な実験方法、装置・器具の取り扱い方、データの処理方法を習得するとともに、得られた結果を分かりやすくレポートにまとめる方法を身に着けることを目的としている。					
達成目標	目標 1	微生物実験で用いられるグラム染色や顕微鏡観察の方法を修得する【20%】。					
	目標 2	植物化学実験で使用される植物に対する化学物質の影響を調べるためのバイオアッセイ方法を修得する【20%】。					
	目標 3	分子生物学実験で使用される DNA や RNA の抽出方法および制限酵素処理の方法を修得する【20%】。					
	目標 4	細胞生物学実験で用いられる染色体の観察方法を修得する【20%】。					
	目標 5	各実験を通して、実験結果をまとめる方法を修得する【20%】。					
	目標 6						
	目標 7						
アクティブ・ラーニング	ディスカッション	○	ディベート		グループワーク	○	
	プレゼンテーション	○	実習	○	フィールドワーク		
	その他課題解決型学習						

	授業計画	授業時間外学修（予習及び復習を含む）
第1回	実験をはじめる前に実験の注意点、実験の心構えなどについて、過去の他大学での事故事例を含め学修する。また、実験の基本的な流れ、準備、実験、後片付け、データ処理、レポート作成について学修し、次週からの実際の実験に備える。	実験をはじめる前に必要な準備事項について、よく確認しておくこと。実験とデータの取扱について理解しておくこと（3時間）。
第2回	微生物実験（1）基本操作とアルコール発酵について学修する。	実験の注意点や心構えを良く復習すること（2時間）。身の回りで用いられているアルコール発酵について調べておくこと（2時間）。
第3回	微生物実験（2）グラム染色と顕微鏡観察について学修する。	微生物実験の基本操作を復習すること（2時間）。グラム染色の仕組みと顕微鏡の操作方法を調べておくこと（2時間）。
第4回	微生物実験（3）微生物実験で得られた結果を使って、レポートの作成方法を学修する。	グラム染色と顕微鏡の使用方法について復習すること（2時間）。微生物実験で得られた結果をまとめておくこと（2時間）。
第5回	植物化学実験（1）培地作成と播種方法について学修する。	微生物実験のレポートについて、教員やTAのコメントに従って修正し、期限までに完成させておくこと（2時間）。植物に用いられる培地の組成を調べておくこと（2時間）。
第6回	植物化学実験（2）バイオアッセイ方法を学修する。	植物の培地作成と播種方法について復習すること（2時間）。生物に対する化学物質の効果を調べる方法を調べておくこと（2時間）。
第7回	植物化学実験（3）植物化学実験で得られた結果を用いて、図の作成方法を学修する。	バイオアッセイ方法を復習すること（2時間）。植物化学実験で得られた結果をまとめておくこと（2時間）。
第8回	分子生物学実験（1）DNAの抽出方法と定量方法について学修する。	植物化学実験のレポートについて、教員・TAのコメントに従って修正し、期限までに完成させておくこと（2時間）。DNAの抽出方法と定量方法を調べておくこと（2時間）。
第9回	分子生物学実験（2）DNAの制限酵素処理と電気泳動について学修する。	DNAおよびRNAの抽出方法と定量方法を復習すること（2時間）。DNAの制限酵素と電気泳動の仕組みを調べておくこと（2時間）。
第10回	分子生物学実験（3）分子生物学実験で得られた結果を用いて、レポートの作成方法を学修する。	DNAの制限酵素処理と電気泳動について復習すること（2時間）。分子生物学実験で得られた結果をまとめておくこと（2時間）。
第11回	細胞生物学実験（1）植物細胞を用いて、細胞と原形質流動の観察方法を学修する。	分子生物学実験のレポートについて、教員・TAのコメントに従って修正し、期限までに完成させておくこと（2時間）。植物を用いた細胞の観察方法と原形質流動について調べておくこと（2時間）。
第12回	細胞生物学実験（2）染色体の観察方法を学修する。	細胞の観察方法と原形質流動について復習すること（2時間）。細胞の核に存在する染色体の観察方法について調べておくこと（2時間）。

第 13 回	細胞生物学実験(3)細胞生物学実験で得られた結果を用いて、レポートの作成方法を学修する。	染色体の観察方法を復習すること(2時間)。細胞生物学実験で得られた結果をまとめておくこと(2時間)。
第 14 回	演習およびまとめ：第 2-13 回までの内容を中心に、データ処理法などについての演習とよりよいレポート作成法について学修する。	細胞生物学実験のレポートについて、教員・TA のコメントに従って修正し、期限までに完成させておくこと(2時間)。第 2-13 回までの実験内容を確認しておくこと。疑問点などを予めまとめておくこと。未完成のレポートがあれば完成させること。(2時間)
課題等に対するフィードバック	レポートは、コメント、修正指示を併せて返却する。	
評価方法と基準	実験報告書 100%。科目合格の基準は、すべての実験テーマを受講し、期日までにレポートを提出、担当教員が指示する再提出期限までに、指示された加筆修正を済ませたレポートを再提出すること。それらの評価により、60 点以上で合格とする。	
テキスト	生命工学実験基礎担当教員が準備する 『生命工学実験基礎』オリジナルテキスト ・デイヴィッド・サダヴァ(著)、丸山 敬(翻訳)、石崎 泰樹(翻訳)『カラー図解 アメリカ版 新大学生生物学の教科書 第 1 巻 細胞生物学』講談社(2021 年)【ISBN:978-4-06-513743-7】 ・デイヴィッド・サダヴァ(著)、丸山 敬(翻訳)、石崎 泰樹(翻訳)『カラー図解 アメリカ版 新大学生生物学の教科書 第 2 巻 分子遺伝学』講談社(2021 年)【ISBN:978-4-06-513744-4】	
科目の位置付け	環境生命化学科におけるライフサイエンス系の最初の実験科目である。生物系の実験で用いられる基礎的な実験方法、装置・器具類の取り扱い方法、データのまとめ方、レポートの作成方法を学ぶので、3 学年秋学期の「応用生物工学実験」やライフサイエンス系の卒業研究に役立つ科目である。また、生物系の学科専門科目で扱う内容も含んでおり、実験を通してその理解を促す。	
履修登録前準備	参考図書などを読み、生命科学の分野で使用される専門用語の意味を調べておくこと。	

授業コード		520134		オムニバス			
科目名		Science Grit I		単位数		1	
配当学年		1		曜日時限		集中講義	
年度学期		2025 年度 秋学期		コース			
対象学科		基_応用, 基_環生		必選の別		選択科目	
科目区分		カレッジマイスタープログラム					
担当者		佐野 健一、池添 泰弘、芳賀 健、大澤 正久、新倉 謙一、小池 隆司					
実務家教員担当授業		担当教員の大澤、佐野は、研究機関における科学研究開発等の実務経験がある。その経験を活かし、OJTでの学びに関して実践的なテーマや実例を授業で扱っている。					
教室							
授業の目的と進め方		本科目は2年半かけて、学生が「自らの力で考え、先行研究を調べ、テーマを設定し、実験をおこない、考察し、まとめ、プレゼンテーションする」ことができるようになるためのカレッジマイスター科目の導入教育科目である。自然科学全般における Scientific な考え方、研究スタイル、実験手法について、その基本を実験・演習を交えながら学修し、学生に自然科学への興味や好奇心、新しいことに挑戦する意欲を涵養する。					
達成目標	目標 1	身の回りにある様々な科学に興味を持って、自分で考え、調べ、理解することができるようになる。(30%)					
	目標 2	科学的な考え方、論理を積み上げていくことができるようになる。(40%)					
	目標 3	各分野におけるいわゆる”お作法”を理解し、科学者への第一歩を踏み出す。(30%)					
	目標 4						
	目標 5						
	目標 6						
	目標 7						
アクティブ・ラーニング		ディスカッション	◎	ディベート	◎	グループワーク	◎
		プレゼンテーション	◎	実習	◎	フィールドワーク	
		その他課題解決型学習					

	授業計画	授業時間外学修（予習及び復習を含む）
第1回	講義：科学の世界へようこそ 2年半続く、このカレッジマイスター科目の進め方、取り組む姿勢、そして最終目標であるサイエンスインカレ出場や学会発表とはどのようなものかを学ぶ。 またグループ分けと OJT を行う研究室を決める。	春学期の講義科目「化学Ⅰ」「化学Ⅱ」「物理Ⅰ」「生命科学Ⅰ」をよく復習しておくこと。(8時間)
第2回	OJT:化学 「化学実験1」	担当教員から示される実験に関する注意事項をよく確認しておくこと。(1時間) 実験後、課せられた課題に取り組むこと。(2時間)
第3回	OJT:化学 「化学実験2」	担当教員から示される実験に関する注意事項をよく確認しておくこと。(1時間) 実験後、課せられた課題に取り組むこと。また、この実験はどのようなことに展開できるのか、調べ、考えること。(6時間)
第4回	OJT: 「物理化学実験1」	担当教員から示される実験に関する注意事項をよく確認しておくこと。(1時間) 実験後、課せられた課題に取り組むこと。(2時間)
第5回	OJT: 「物理化学実験2」	担当教員から示される実験に関する注意事項をよく確認しておくこと。(1時間) 実験後、課せられた課題に取り組むこと。また、この実験はどのようなことに展開できるのか、調べ、考えること。(4時間)
第6回	OJT 報告会1	【予習】OJT の内容を他のチームに伝えるように発表準備をしてくること。(4時間) 【復習】他のチームの発表内容で理解できなかったところを調べておくこと。(2時間)
第7回	OJT: 「細胞生物学実験1」	担当教員から示される実験に関する注意事項をよく確認しておくこと。(1時間) 実験後、課せられた課題に取り組むこと。(2時間)
第8回	OJT: 「細胞生物学実験2」	担当教員から示される実験に関する注意事項をよく確認しておくこと。(1時間) 実験後、課せられた課題に取り組むこと。また、この実験はどのようなことに展開できるのか、調べ、考えること。(4時間)
第9回	OJT: 「植物学実験1」	担当教員から示される実験に関する注意事項をよく確認しておくこと。(1時間) 実験後、課せられた課題に取り組むこと。(2時間)
第10回	OJT: 「植物学実験2」	担当教員から示される実験に関する注意事項をよく確認しておくこと。(1時間) 実験後、課せられた課題に取り組むこと。また、この実験はどのようなことに展開できるのか、調べ、考えること。(4時間)
第11回	先端研究を学ぶ:学外から講師を招き、最先端の科学研究を学ぶ	講演要旨、参考文献をあらかじめ読んで、理解してくること。(2時間) 講演を聞いた後は、関連する一連の研究背景について調べてくこと。(4時間)
第12回	OJT:「分野横断研究・実験1」	担当教員から示される実験に関する注意事項をよく確認しておくこと。(1時間) 実験後、課せられた課題に取り組むこと。(2時間)

第 13 回	OJT: 「分野横断研究・実験 2」	担当教員から示される実験に関する注意事項をよく確認しておくこと。(1 時間) 実験後、課せられた課題に取り組むこと。また、この実験はどのようなことに展開できるのか、調べ、考えること。(4 時間)
第 14 回	OJT 報告会 2	【予習】OJT の内容を他のチームに伝えるように発表準備をしてくること。(4 時間) 【復習】他のチームの発表内容で理解できなかったところを調べておくこと。(2 時間)
課題等に対するフィードバック	プレゼンテーション、発表会の後、担当教員よりコメントする。	
評価方法と基準	各回の積極的な取り組みに最大評価 70 点、プレゼンテーション、発表会での発表および積極的な発言で最大評価 30 点、これらの合計点が 60 点の学生の場合 C 評価となる。	
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。 適宜担当教員が示す。	
科目の位置付け	将来、最先端の研究・技術開発の分野で活躍できる人材育成を目的としたカレッジマイスター科目の導入科目である。化学だけでなく、物理、生物を含む、自然科学全般に広く関心を持って、主体的に取り組むことができるようになるための基本を学ぶ。この科目を受講した後は、2 年春学期に開講される「Science Grit II」において、いわゆる学生実験から科学研究に深化した学びへと進む。	
履修登録前準備	研究は、総合力です。これまでに学んだありとあらゆることを思い出し、いつでも引き出せるようにしておいてください。	

授業コード		510323		オムニバス			
科目名		Science Grit II		単位数		1	
配当学年		2		曜日時限		集中講義	
年度学期		2025 年度 春学期		コース			
対象学科		基_応用, 基_環生		必選の別		選択科目	
科目区分		カレッジマイスタープログラム					
担当者		佐野 健一、池添 泰弘、芳賀 健、大澤 正久、新倉 謙一、小池 隆司					
実務家教員担当授業		担当教員の大澤、佐野は、研究機関における科学研究開発等の実務経験がある。その経験を活かし、OJT での学びに関して実践的なテーマや実例を授業で扱っている。					
教室							
授業の目的と進め方		本科目は2年半かけて、学生が「自らの力で考え、先行研究を調べ、テーマを設定し、実験をおこない、考察し、まとめ、プレゼンテーションする」ことができるようになるためのカレッジマイスター科目の導入教育科目である。自然科学全般における Scientific な考え方、研究スタイル、実験手法について、その基礎を実験・演習を交えながら学修し、学生に自然科学への興味や好奇心、新しいことに挑戦する意欲を涵養する。					
達成目標	目標 1	担当教員の取り組む研究分野に関連する科学に興味を持って、自分で考え、調べ、理解することができるようになる。(25%)					
	目標 2	科学的な考え方、論理を積み上げていくことができるようになる。(25%)					
	目標 3	科学研究をする上で、現在の自分に足りない t 部分を理解し、それを補う努力をすることができるようになる。(50%)					
	目標 4						
	目標 5						
	目標 6						
	目標 7						
アクティブ・ラーニング		ディスカッション	◎	ディベート	◎	グループワーク	◎
		プレゼンテーション	◎	実習	◎	フィールドワーク	
		その他課題解決型学習					

	授業計画	授業時間外学修（予習及び復習を含む）
第1回	講義：科学の世界に進む 1年秋から続くこのカレッジマイスター科目の進め方、取り組む姿勢、そして最終目標であるサイエンスインカレ出場や学会発表とはどのようなものを学ぶ。またOJTを行う研究室を決める。	【予習】「Science Grit I」で学んだことをよく復習しておくこと。(8時間)
第2回	以下に述べるのは、1例であり、実際には、各研究分野、テーマによって進め方は適宜変わる。 OJT1: 研究計画1	【予習】担当教員から示される注意事項をよく確認しておくこと。(1時間) 【復習】担当教員から示された研究計画に関する調査、課題に取り組むこと。(2時間)
第3回	OJT2: 研究計画2 実際に自分で計画を立てる	【予習】担当教員から示される実験に関する注意事項をよく確認しておくこと。(1時間) 【復習】担当教員から指示された通り、研究計画に修正を加えること。また、この計画が上手いかなかったときは、次にどうするのか、調べ、考えること。(6時間)
第4回	OJT3: 研究準備 必要な試薬の調製、機器の操作法などの事前学習	【予習】担当教員から示される実験に関する注意事項をよく確認しておくこと。(1時間) 【復習】担当教員から示された課題に取り組むこと。(2時間)
第5回	OJT4: 実験1 実際の実験を開始する	【予習】担当教員から示される実験に関する注意事項をよく確認しておくこと。(1時間) 【復習】実験後、課せられた課題に取り組むこと。また、この実験はどのようなことに展開できるのか、調べ、考えること。(4時間)
第6回	OJT 報告会1	【予習】OJTの内容を他のチームに伝えるように発表準備をしてくること。(4時間) 【復習】他のチームの発表内容で理解できなかったところを調べておくこと。(2時間)
第7回	OJT5: 実験2 OJT 報告会での発表・質疑応答を踏まえ実験を続ける。	【予習】担当教員から示される実験に関する注意事項をよく確認しておくこと。(1時間) 【復習】実験後、課せられた課題に取り組むこと。また、この実験はどのようなことに展開できるのか、調べ、考えること。(4時間)
第8回	OJT6: 実験3 一通りの実験を終える	【予習】担当教員から示される実験に関する注意事項をよく確認しておくこと。(1時間) 【復習】実験後、課せられた課題に取り組むこと。また、この実験はどのようなことに展開できるのか、調べ、考えること。(4時間)
第9回	OJT7: グループディスカッション 担当教員を交え、実験結果について深く考察する。	【予習】これまでの実験データをまとめ、プレゼンテーションを用意するとともに、深い考察を加える。(6時間) 【復習】ディスカッションを踏まえ、次の実験計画を考え、実験前に担当教員に相談する。(4時間)
第10回	OJT8: 実験4 追加実験をおこなう。	【予習】担当教員から示される実験に関する注意事項をよく確認しておくこと。(1時間) 【復習】実験後、課せられた課題に取り組むこと。また、この実験はどのようなことに展開できるのか、調べ、考えること。(4時間)
第11回	先端研究を学ぶ: 学外から講師を招き、最先端の科学研究を学ぶ	【予習】講演要旨、参考文献をあらかじめ読んで、理解してくること。(2時間) 【復習】講演を聞いた後は、関連する一連の研究背景について調べてくること。(4時間)
第12回	OJT9: 実験5 追加実験を終わらせる。	【予習】担当教員から示される実験に関する注意事項をよく確認しておくこと。(1時間) 【復習】実験後、課せられた課題に取り組むこと。また、この実験はどのようなことに展開できるのか、調べ、考えること。(4時間)

第 13 回	OJT10:まとめ OJT で行った研究についてまとめる。	【予習】これまでの OJT の内容をまとめておくこと。(1 時間) 【復習】Science Grit Ⅲに向け、必要な知識、技術などを整理しておく。(4 時間)
第 14 回	OJT 報告会 2	【予習】OJT の内容を他のチームに伝えるように発表準備をしてくること。(4 時間) 【復習】他のチームの発表内容で理解できなかったところを調べておくこと。(2 時間)
課題等に対するフィードバック	プレゼンテーション、発表会の後、担当教員よりコメントする。	
評価方法と基準	各回の積極的な取り組みに最大評価 70 点、プレゼンテーション、発表会での発表および積極的な発言で最大評価 30 点、これらの合計点が 60 点の学生の場合 C 評価となる。	
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。 適宜担当教員が示す。	
科目の位置付け	将来、最先端の研究・技術開発の分野で活躍できる人材育成を目的としたカレッジマイスター科目の導入科目である。化学だけでなく、物理、生物を含む、自然科学全般に広く関心を持って、主体的に取り組むことができるようになるための基本を学ぶ。この科目を受講した後は、2 年秋学期に開講される「Science Grit Ⅲ」において、いわゆる学生実験から科学研究に深化した学びへと進む。	
履修登録前準備	研究は、総合力です。これまでに学んだありとあらゆることを思い出し、いつでも引き出せるようにしておいてください。	

授業コード		520392		オムニバス			
科目名		Science Grit Ⅲ		単位数		1	
配当学年		2		曜日時限		集中講義	
年度学期		2025 年度 秋学期		コース			
対象学科		基_応用, 基_環生		必選の別		選択科目	
科目区分		カレッジマイスタープログラム					
担当者		佐野 健一、池添 泰弘、芳賀 健、大澤 正久、新倉 謙一、小池 隆司					
実務家教員担当授業		担当教員の大澤、佐野は、研究機関における科学研究開発等の実務経験がある。その経験を活かし、OJT での学びに関して実践的なテーマや実例を授業で扱っている。					
教室							
授業の目的と進め方		Science Grit は、2 年半かけて、学生が「自らの力で考え、先行研究を調べ、テーマを設定し、実験をおこない、考察し、まとめ、サイエンスインカレや学会でプレゼンテーションする」ことを目指すものである。Science Grit Ⅲでは、研究テーマを決定し、実験を開始する。					
達成目標	目標 1	自分の取り組む研究分野に関連する科学に興味を持って、自分で考え、調べ、理解することができるようになる。(25%)					
	目標 2	科学的な考え方、論理を高いレベルで積み上げていくことができるようになる。(25%)					
	目標 3	科学研究をする上で、現在の自分に足りない部分を理解し、それを補う努力をすることができるようになる。(50%)					
	目標 4						
	目標 5						
	目標 6						
	目標 7						
アクティブ・ラーニング		ディスカッション	◎	ディベート	◎	グループワーク	◎
		プレゼンテーション	◎	実習	◎	フィールドワーク	
		その他課題解決型学習					

	授業計画	授業時間外学修（予習及び復習を含む）
第1回	講義：テーマの設定 1 年秋から続くこのカレッジマイスター科目の進め方、取り組む姿勢、そして最終目標であるサイエンスインカレ出場や学会発表とはどのようなものを学び、テーマを設定する。 またアドバイザー教員、コアドバイザー教員を決める。	【予習】「Science Grit I・II」で学んだことをよく復習しておくこと。(8 時間)
第2回	以下に述べるのは、1 例であり、実際には、各研究分野、テーマによって進め方は適宜変わる。 研究計画 1 研究対象の検討	【予習】担当教員から示される注意事項をよく確認しておくこと。(1 時間) 【復習】担当教員から示された研究計画に関する調査、課題に取り組むこと。(2 時間)
第3回	研究計画 2 実際に自分で計画を立てる	【予習】担当教員から示される実験に関する注意事項をよく確認しておくこと。(1 時間) 【復習】担当教員から指示された通り、研究計画に修正を加えること。また、この計画が上手いかなかったときは、次にどうするのか、調べ、考えること。(6 時間)
第4回	研究準備 1 必要な試薬の調製、機器の操作法などの事前学習	【予習】担当教員から示される実験に関する注意事項をよく確認しておくこと。(1 時間) 【復習】担当教員から示された課題に取り組むこと。(2 時間)
第5回	研究準備 2 適切な実験に向けた文献調査	【予習】担当教員から示される実験に関する注意事項をよく確認しておくこと。(1 時間) 【復習】担当教員から示された課題に取り組むこと。(2 時間)
第6回	報告会 1	【予習】研究計画を他のチーム、教員に伝えるように発表準備をしてくること。(4 時間) 【復習】他のチームの発表内容で理解できなかったところを調べておくこと。また他のチーム、教員からの指摘を元に、研究計画を再考する。(2 時間)
第7回	実験 1 実際に実験をおこなう。	【予習】担当教員から示される実験に関する注意事項をよく確認しておくこと。(1 時間) 【復習】実験後、課せられた課題に取り組むこと。また、この実験はどのようなことに展開できるのか、調べ、考えること。(4 時間)
第8回	実験 2 実験を続ける	【予習】担当教員から示される実験に関する注意事項をよく確認しておくこと。(1 時間) 【復習】実験後、課せられた課題に取り組むこと。また、この実験はどのようなことに展開できるのか、調べ、考えること。(4 時間)
第9回	実験 3 実験 1、2 のデータを解析し、次の実験内容を検討し、実験を続ける。	【予習】これまでの実験データをまとめ、深い考察を加える。(6 時間) 【復習】実験後、課せられた課題に取り組むこと。また、この実験はどのようなことに展開できるのか、調べ、考えること。(4 時間)
第10回	実験 4 さらに実験をおこなう。	【予習】担当教員から示される実験に関する注意事項をよく確認しておくこと。(1 時間) 【復習】実験後、課せられた課題に取り組むこと。また、この実験はどのようなことに展開できるのか、調べ、考えること。(4 時間)
第11回	先端研究を学ぶ: 学外から講師を招き、最先端の科学研究を学ぶ	【予習】講演要旨、参考文献をあらかじめ読んで、理解してくること。(2 時間) 【復習】講演を聞いた後は、関連する一連の研究背景について調べてくること。(4 時間)

第 12 回	実験 5 実験 3, 4 のデータを解析し、次の実験内容を検討し、実験を続ける。	【予習】これまでの実験データをまとめ、深い考察を加える。(6 時間) 【復習】実験後、課せられた課題に取り組むこと。また、この実験はどのようなことに展開できるのか、調べ、考えること。(4 時間)
第 13 回	実験データのまとめ ここまでの研究についてまとめる。	【予習】これまでの実験データをまとめ、深い考察を加える。(6 時間) 【復習】実験後、課せられた課題に取り組むこと Science Grit Ⅲに向け、必要な知識、技術などを整理しておく。(8 時間)
第 14 回	中間報告	【予習】研究内容を他のチームに伝えるように発表準備をしていくこと。(4 時間) 【復習】他のチームの発表内容で理解できなかったところを調べておくこと。(2 時間)
課題等に対するフィードバック	プレゼンテーション、発表会の後、担当教員よりコメントする。	
評価方法と基準	各回の積極的な取り組みに最大評価 70 点、プレゼンテーション、発表会での発表および積極的な発言で最大評価 30 点、これらの合計点が 60 点の学生の場合 C 評価となる。	
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。 適宜担当教員が示す。	
科目の位置付け	将来、最先端の研究・技術開発の分野で活躍できる人材育成を目的としたカレッジマイスター科目の発展科目である。化学だけでなく、物理、生物を含む、自然科学全般に広く関心を持って、主体的に研究に取り組む。この科目を受講した後は、3 年春学期に開講される「Science Grit Ⅳ」において、さらに研究内容を深めていく。	
履修登録前準備	研究は、総合力です。これまでに学んだありとあらゆることを思い出し、いつでも引き出せるようにしておいてください。	

授業コード		510546		オムニバス			
科目名		Science Grit IV		単位数		1	
配当学年		3		曜日時限		集中講義	
年度学期		2025 年度 春学期		コース			
対象学科		基_応用, 基_環生		必選の別		選択科目	
科目区分		カレッジマイスタープログラム					
担当者		佐野 健一、池添 泰弘、芳賀 健、大澤 正久、新倉 謙一、小池 隆司					
実務家教員担当授業		担当教員の大澤、佐野は、研究機関における科学研究開発等の実務経験がある。その経験を活かし、OJT での学びに関して実践的なテーマや実例を授業で扱っている。					
教室							
授業の目的と進め方		Science Grit は、2 年半かけて、学生が「自らの力で考え、先行研究を調べ、テーマを設定し、実験をおこない、考察し、まとめ、サイエンスインカレや学会でプレゼンテーションする」ことを目指すものである。Science Grit IVでは、Science Grit IIIで決定したテーマの下、実験を進める。					
達成目標	目標 1	自分の取り組む研究分野に関連する科学に興味を持って、自分で考え、調べ、理解することができるようになる。(25%)					
	目標 2	科学的な考え方、論理を高いレベルで積み上げていくことができるようになる。(25%)					
	目標 3	科学研究をする上で、現在の自分に足りない部分を理解し、それを補う努力をすることができるようになる。(50%)					
	目標 4						
	目標 5						
	目標 6						
	目標 7						
アクティブ・ラーニング		ディスカッション	◎	ディベート	◎	グループワーク	◎
		プレゼンテーション	◎	実習	◎	フィールドワーク	
		その他課題解決型学習					

	授業計画	授業時間外学修（予習及び復習を含む）
第1回	講義：テーマの確認 1 年秋から続くこのカレッジマイスター科目の進め方、取り組む姿勢、そして最終目標であるサイエンスインカレ出場や学会発表とはどのようなものかを学び、Science Grit Ⅲで設定したテーマを確認する。 またアドバイザー教員、コアドバイザー教員を決める。	【予習】「Science Grit I・Ⅱ・Ⅲ」で学んだことをよく復習しておくこと。(8 時間)
第2回	以下に述べるのは、1 例であり、実際には、各研究分野、テーマによって進め方は適宜変わる。 研究計画 1 Science Grit Ⅲの成果を踏まえ計画を立てる	【予習】担当教員から示される注意事項をよく確認しておくこと。(1 時間) 【復習】担当教員から示された研究計画に関する調査、課題に取り組むこと。(2 時間)
第3回	実験 1 実際に実験をおこなう。	【予習】担当教員から示される実験に関する注意事項をよく確認しておくこと。(1 時間) 【復習】実験後、課せられた課題に取り組むこと。また、この実験はどのようなことに展開できるのか、調べ、考えること。(4 時間)
第4回	実験 2 実験を続ける	【予習】担当教員から示される実験に関する注意事項をよく確認しておくこと。(1 時間) 【復習】実験後、課せられた課題に取り組むこと。また、この実験はどのようなことに展開できるのか、調べ、考えること。(4 時間)
第5回	実験 3 実験 1、2 のデータを解析し、次の実験内容を検討し、実験を続ける。	【予習】これまでの実験データをまとめ、深い考察を加える。(6 時間) 【復習】実験後、課せられた課題に取り組むこと。また、この実験はどのようなことに展開できるのか、調べ、考えること。(4 時間)
第6回	報告会 1	【予習】研究計画を他のチーム、教員に伝えるように発表準備をしてくること。(4 時間) 【復習】他のチームの発表内容で理解できなかったところを調べておくこと。また他のチーム、教員からの指摘を元に、研究計画を再考する。(2 時間)
第7回	実験 4 さらに実験をおこなう。	【予習】担当教員から示される実験に関する注意事項をよく確認しておくこと。(1 時間) 【復習】実験後、課せられた課題に取り組むこと。また、この実験はどのようなことに展開できるのか、調べ、考えること。(4 時間)
第8回	実験 5 実験を続ける	【予習】担当教員から示される実験に関する注意事項をよく確認しておくこと。(1 時間) 【復習】実験後、課せられた課題に取り組むこと。また、この実験はどのようなことに展開できるのか、調べ、考えること。(4 時間)
第9回	実験 6 これまでの実験データを解析し、次の実験内容を検討し、実験を続ける。	【予習】これまでの実験データをまとめ、深い考察を加える。(6 時間) 【復習】実験後、課せられた課題に取り組むこと。また、この実験はどのようなことに展開できるのか、調べ、考えること。(4 時間)
第10回	実験 7 さらに実験をおこなう。	【予習】担当教員から示される実験に関する注意事項をよく確認しておくこと。(1 時間) 【復習】実験後、課せられた課題に取り組むこと。また、この実験はどのようなことに展開できるのか、調べ、考えること。(4 時間)
第11回	先端研究を学ぶ: 学外から講師を招き、最先端の科学研究を学ぶ	【予習】講演要旨、参考文献をあらかじめ読んで、理解してくること。(2 時間) 【復習】講演を聞いた後は、関連する一連の研究背景について調べてくること。(4 時間)
第12回	実験 8 実験データを解析し、次の実験内容を検討し、実験を続ける。	【予習】これまでの実験データをまとめ、深い考察を加える。(6 時間) 【復習】実験後、課せられた課題に取り組むこと。また、この実験はどのようなことに展開できるのか、調べ、考えること。(4 時間)

第 13 回	実験データのまとめ ここまでの研究についてまとめる。	【予習】これまでの実験データをまとめ、深い考察を加える。(6 時間) 【復習】実験後、課せられた課題に取り組むこと Science Grit Ⅲに向け、必要な知識、技術などを整理しておく。(8 時間)
第 14 回	中間報告	【予習】研究内容を他のチームに伝えるように発表準備をしてくること。(4 時間) 【復習】他のチームの発表内容で理解できなかったところを調べておくこと。(2 時間)
課題等に対するフィードバック	プレゼンテーション、発表会の後、担当教員よりコメントする。	
評価方法と基準	各回の積極的な取り組みに最大評価 70 点、プレゼンテーション、発表会での発表および積極的な発言で最大評価 30 点、これらの合計点が 60 点の学生の場合 C 評価となる。	
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。 適宜担当教員が示す。	
科目の位置付け	将来、最先端の研究・技術開発の分野で活躍できる人材育成を目的としたカレッジマイスター科目の発展科目である。化学だけでなく、物理、生物を含む、自然科学全般に広く関心を持って、主体的に研究に取り組む。この科目を受講した後は、3 年秋学期に開講される「Science Grit V」において、最終目標であるサイエンスインカレ、学会発表に向けて、さらに研究内容を深めていく。	
履修登録前準備	研究は、総合力です。これまでに学んだありとあらゆることを思い出し、いつでも引き出せるようにしておいてください。	

授業コード		520601		オムニバス			
科目名		Science Grit V		単位数		1	
配当学年		3		曜日時限		集中講義	
年度学期		2025 年度 秋学期		コース			
対象学科		基_応用, 基_環生		必選の別		選択科目	
科目区分		カレッジマイスタープログラム					
担当者		佐野 健一、池添 泰弘、芳賀 健、大澤 正久、新倉 謙一、小池 隆司					
実務家教員担当授業		担当教員の大澤、佐野は、研究機関における科学研究開発等の実務経験がある。その経験を活かし、OJT での学びに関して実践的なテーマや実例を授業で扱っている。					
教室							
授業の目的と進め方		Science Grit は、2 年半かけて、学生が「自らの力で考え、先行研究を調べ、テーマを設定し、実験をおこない、考察し、まとめ、サイエンスインカレや学会でプレゼンテーションする」ことを目指すものである。Science Grit V は、これまで続けてきた研究成果発表のため要旨作成、演題登録し、サイエンスインカレや学会で発表する。					
達成目標	目標 1	自分の取り組む研究分野に関連する科学に興味を持って、自分で考え、調べ、理解することができるようになる。(25%)					
	目標 2	科学的な考え方、論理を高いレベルで積み上げていくことができるようになる。(25%)					
	目標 3	科学研究をする上で、現在の自分に足りない部分を理解し、それを補う努力をすることができるようになる。(50%)					
	目標 4						
	目標 5						
	目標 6						
	目標 7						
アクティブ・ラーニング		ディスカッション	◎	ディベート	◎	グループワーク	◎
		プレゼンテーション	◎	実習	◎	フィールドワーク	
		その他課題解決型学習					

	授業計画	授業時間外学修（予習及び復習を含む）
第1回	講義：目標設定 最終目標であるサイエンスインカレ出場や学会発表に向け、研究の目標設定をする。	【予習】「Science Grit I・II・III・IV」で学んだことをよく復習しておくこと。(8時間)
第2回	以下に述べるのは、1例であり、実際には、各研究分野、テーマによって進め方は適宜変わる。 実験1 実際に実験をおこなう。	【予習】担当教員から示される実験に関する注意事項をよく確認しておくこと。(1時間) 【復習】実験後、課せられた課題に取り組むこと。また、この実験はどのようなことに展開できるのか、調べ、考えること。(4時間)
第3回	実験2 実験を続ける。	【予習】担当教員から示される実験に関する注意事項をよく確認しておくこと。(1時間) 【復習】実験後、課せられた課題に取り組むこと。また、この実験はどのようなことに展開できるのか、調べ、考えること。(4時間)
第4回	実験3 実験を続ける	【予習】担当教員から示される実験に関する注意事項をよく確認しておくこと。(1時間) 【復習】実験後、課せられた課題に取り組むこと。また、この実験はどのようなことに展開できるのか、調べ、考えること。(4時間)
第5回	実験4 これまでのデータを解析し、発表に向けて足りない部分を検討し、実験を続ける。	【予習】これまでの実験データをまとめ、深い考察を加える。(6時間) 【復習】実験後、課せられた課題に取り組むこと。また、この実験はどのようなことに展開できるのか、調べ、考えること。(4時間)
第6回	報告会1	【予習】研究計画を他のチーム、教員に伝えるように発表準備をしていくこと。(4時間) 【復習】他のチームの発表内容で理解できなかったところを調べておくこと。また他のチーム、教員からの指摘を元に、研究計画を再考する。(2時間)
第7回	実験5 さらに実験をおこなう。	【予習】担当教員から示される実験に関する注意事項をよく確認しておくこと。(1時間) 【復習】実験後、課せられた課題に取り組むこと。また、この実験はどのようなことに展開できるのか、調べ、考えること。(4時間)
第8回	実験6 実験を続ける	【予習】担当教員から示される実験に関する注意事項をよく確認しておくこと。(1時間) 【復習】実験後、課せられた課題に取り組むこと。また、この実験はどのようなことに展開できるのか、調べ、考えること。(4時間)
第9回	実験8 これまでの実験データを解析し、研究発表に欠けている部分を検討し、実験を続ける。	【予習】これまでの実験データをまとめ、深い考察を加える。(6時間) 【復習】実験後、課せられた課題に取り組むこと。また、この実験はどのようなことに展開できるのか、調べ、考えること。(4時間)
第10回	実験9 さらに実験をおこなう。	【予習】担当教員から示される実験に関する注意事項をよく確認しておくこと。(1時間) 【復習】実験後、課せられた課題に取り組むこと。また、この実験はどのようなことに展開できるのか、調べ、考えること。(4時間)
第11回	先端研究を学ぶ:学外から講師を招き、最先端の科学研究を学ぶ	【予習】講演要旨、参考文献をあらかじめ読んで、理解しておくこと。(2時間) 【復習】講演を聞いた後は、関連する一連の研究背景について調べていくこと。(4時間)
第12回	講演要旨の作成	【予習】これまでの実験データをまとめ、深い考察を加え、要旨の初稿を書き上げる。(6時間) 【復習】締め切りまでに演題登録を終わらせること。(4時間)

第 13 回	プレゼンテーション資料の作成	【予習】発表形式に応じて、パワーポイント資料またはポスターを作成すること。(6 時間) 【復習】発表資料を完成させ、発表練習を繰り返すこと。(8 時間)
第 14 回	サイエンスインカレ・学会発表	【予習】研究内容を聴衆に伝えるように発表準備をすること。(4 時間) 【復習】他の講演者の発表内容で興味のある内容について深く調べておくこと。自分の発表の振り返りをしておくこと (2 時間)
課題等に対するフィードバック	プレゼンテーション、発表会の後、担当教員よりコメントする。	
評価方法と基準	各回の積極的な取り組みに最大評価 70 点、プレゼンテーション、発表会での発表および積極的な発言で最大評価 30 点、これらの合計点が 60 点の学生の場合 C 評価となる。	
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。 適宜担当教員が示す。	
科目の位置付け	将来、最先端の研究・技術開発の分野で活躍できる人材育成を目的としたカレッジマイスター科目の集大成である。化学だけでなく、物理、生物を含む、自然科学全般に広く関心を持って、主体的に研究に取り組む。	
履修登録前準備	研究は、総合力です。これまでに学んだありとあらゆることを思い出し、いつでも引き出せるようにしておいてください。	

授業コード		520897		オムニバス			
科目名		SDGs for Engineers Prep		単位数		1	
配当学年		1		曜日時限		集中講義	
年度学期		2025 年度 秋学期		コース			
対象学科		基_応用, 基_環生		必選の別		選択科目	
科目区分		カレッジマイスタープログラム					
担当者		内田 祐一、伴 雅人					
実務家教員担当授業		担当教員の内田と伴は、企業においてリサイクルや省エネルギーに関する実務経験がある。その経験を活かし、卒業研究や社会活動に応用できる実践的なテーマや実例を授業で扱っている。-					
教室							
授業の目的と進め方		本プログラムでは、工学技術者（Engineers）の卵である学生達が、SDGs への興味を実際のモノづくりとして具体的に体験することを目的とする。 本プログラムには全学科からの参加が可能である。すなわち、環境に配慮した材料（化学）をもとに、作り（機械・電気）、動かし（ロボティクス、情報）、運用し（建築、生活）、評価する（データサイエンス）ことを連動して、トータルの成果物に繋げる。 異なった学科の複数の学生同志でグループを組み、作業と討議を進めてもらい、工学に軸足を置いた SDGs への理解を深める。					
達成目標	目標 1	自らの製作対象を立案、企画することができる。【25%】					
	目標 2	自ら提案した事項を実施するための準備、情報収集および問題解決ができるようになる。【25%】					
	目標 3	自ら提案した製作対象を完成させることができる。【25%】					
	目標 4	製作物の構成と効果について説明できる。【25%】					
	目標 5						
	目標 6						
	目標 7						
アクティブ・ラーニング		ディスカッション	○	ディベート		グループワーク	◎
		プレゼンテーション	○	実習	◎	フィールドワーク	
		その他課題解決型学習					

	授業計画	授業時間外学修（予習及び復習を含む）
第1回	プログラムの概要の解説	自分が作りたい作品について考えておくこと（2時間）。
第2回	SDGsについて（1）17のゴール	SDGsの17のゴールについて調べておく（2時間）。SDGsについて受けた説明を復習する（2時間）
第3回	SDGsについて（2）つくる責任つかう責任	SDGsのNo12「つくる責任つかう責任」を事前に調べておく（1時間）。授業の内容を再度確認し理解しておく（1時間）。
第4回	SDGsについて（3）エネルギーをみんなにそしてクリーンに	SDGsのNo7「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」を事前に調べておく（1時間）。授業の内容を再度確認し理解しておく（1時間）。
第5回	安全教育と工具の使用法の諸注意	工作を行なう上での安全を事前に調べておく（1時間）。授業の内容を再度確認し理解しておく（1時間）。
第6回	作品の製作および活動計画の作成	製作品の具体的な案をまとめる（1時間）。授業後、指摘された内容を精査し、実施内容を見直す（1時間）。
第7回	製作に関する情報収集と資料整理	作品を製作するための情報をインターネット、参考書などから収集しまとめておく（2時間）。授業後、指摘された内容を精査し、実施内容に反映する（1時間）。
第8回	製作対象の設計作業と検討	作品の全体図を作成し問題点がないか検討する（2時間）。授業後、指摘された内容を精査し、実施内容に反映する（1時間）。
第9回	製作対象の詳細設計と検討	全体設計を見直し、部品の詳細設計を考える（2時間）。授業後、指摘された内容を精査し、実施内容に反映する（1時間）。
第10回	部品の製作	部品を製作する上で、材料の不足、問題点などがないか見直し、製作手順を考えておく（2時間）。授業後、指摘された内容を精査し、実施内容に反映する（1時間）。
第11回	製作品の組立作業	作品の組み立て手順、部品の確認などを行なう（2時間）。授業後、指摘された内容を精査し、実施内容に反映する（1時間）。
第12回	製作品の調整作業	製作品の不具合や改善点など調整手順を検討しておく（2時間）。授業後、指摘された内容を精査し、実施内容に反映する（1時間）。

第 13 回	製作品の発表準備	作品発表のための製作品の動作等をチェックする（2 時間）。授業後、指摘された内容を精査し、実施内容に反映する（1 時間）。
第 14 回	製作品の発表	作品発表の資料および作品を準備しておく（2 時間）。授業後、指摘された内容を精査し、次期の課題として記録する（1 時間）。
課題等に対するフィードバック	講義中の課題は、担当教員からのコメント・助言をつけて返却をするので、その内容をよく確認し、その後の活動に活かすこと。	
評価方法と基準	平常点（担当教員への報告およびインタビュー）40 点、製作・活動 50 点、発表 10 点、として評価する。	
テキスト	教員が選定したテキストを履修者に配布する予定。 -	
科目の位置付け	本プログラムの履修により、①SDGs や地球環境に対する知識・意識・意欲の増幅、②他学科の学生との取り組みによるコミュニケーション能力向上・不足部分の気づき・補完、③他大学他学部の学生との交流による視点・考え方の拡大などが、学生への教育的効果として見込まれる。これらは、就活時における企業選びや自己 PR のための重要な経験にもなる。	
履修登録前準備	・ SDGs についての解説記事などを参照しておく。 ・ 本科目は原則として、入学年度の秋学期のみ履修登録可能とします。	

授業コード		510894		オムニバス			
科目名		SDGs for Engineers I		単位数		1	
配当学年		2		曜日時限		集中講義	
年度学期		2025 年度 春学期		コース			
対象学科		基_応用, 基_環生		必選の別		選択科目	
科目区分		カレッジマイスタープログラム					
担当者		内田 祐一、伴 雅人					
実務家教員担当授業		担当教員の内田と伴は、企業においてリサイクルや省エネルギーに関する実務経験がある。その経験を活かし、卒業研究や社会活動に応用できる実践的なテーマや実例を授業で扱っている。-					
教室							
授業の目的と進め方		本プログラムでは、工学技術者（Engineers）の卵である学生達が、SDGs への興味を実際のモノづくりとして具体的に体験することを目的とする。 本プログラムには全学科からの参加が可能である。すなわち、環境に配慮した材料（化学）をもとに、作り（機械・電気）、動かし（ロボティクス、情報）、運用し（建築、生活）、評価する（データサイエンス）ことを連動して、トータルの成果物に繋げる。 異なった学科の複数の学生同志でグループを組み、作業と討議を進めてもらい、工学に軸足を置いた SDGs への理解を深める。					
達成目標	目標 1	自らの製作対象を立案、企画することができる。【25%】					
	目標 2	自ら提案した事項を実施するための準備、情報収集および問題解決ができるようになる。【25%】					
	目標 3	自ら提案した製作対象を完成させることができる。【25%】					
	目標 4	製作物の構成と効果について説明できる。【25%】					
	目標 5						
	目標 6						
	目標 7						
アクティブ・ラーニング		ディスカッション	○	ディベート		グループワーク	◎
		プレゼンテーション	○	実習	◎	フィールドワーク	
		その他課題解決型学習					

	授業計画	授業時間外学修（予習及び復習を含む）
第 1 回	プログラムの概要の解説	自分が作りたい作品について考えておくこと（2 時間）。
第 2 回	SDGs について（1）17 のゴール	SDGs の 17 のゴールについて調べておく（2 時間）。SDGs について受けた説明を復習する（2 時間）
第 3 回	SDGs について（2）つくる責任つかう責任	SDGs の No12「つくる責任つかう責任」を事前に調べておく（1 時間）。授業の内容を再度確認し理解しておく（1 時間）。
第 4 回	SDGs について（3）エネルギーをみんなに そしてクリーンに	SDGs の No7「エネルギーをみんなに そしてクリーンに」を事前に調べておく（1 時間）。授業の内容を再度確認し理解しておく（1 時間）。
第 5 回	安全教育と工具の使用法の諸注意	工作を行なう上での安全を事前に調べておく（1 時間）。授業の内容を再度確認し理解しておく（1 時間）。
第 6 回	作品の製作および活動計画の作成	製作品の具体的な案をまとめる（1 時間）。授業後、指摘された内容を精査し、実施内容を見直す（1 時間）。
第 7 回	製作に関する情報収集と資料整理	作品を製作するための情報をインターネット、参考書などから収集しまとめておく（2 時間）。授業後、指摘された内容を精査し、実施内容に反映する（1 時間）。
第 8 回	製作対象の設計作業と検討	作品の全体図を作成し問題点がないか検討する（2 時間）。授業後、指摘された内容を精査し、実施内容に反映する（1 時間）。
第 9 回	製作対象の詳細設計と検討	全体設計を見直し、部品の詳細設計を考える（2 時間）。授業後、指摘された内容を精査し、実施内容に反映する（1 時間）。
第 10 回	部品の製作	部品を製作する上で、材料の不足、問題点などがないか見直し、製作手順を考えておく（2 時間）。授業後、指摘された内容を精査し、実施内容に反映する（1 時間）。
第 11 回	製作品の組立作業	作品の組み立て手順、部品の確認などを行なう（2 時間）。授業後、指摘された内容を精査し、実施内容に反映する（1 時間）。
第 12 回	製作品の調整作業	製作品の不具合や改善点など調整手順を検討しておく（2 時間）。授業後、指摘された内容を精査し、実施内容に反映する（1 時間）。

第 13 回	製作品の発表準備	作品発表のための製作品の動作等をチェックする（2 時間）。授業後、指摘された内容を精査し、実施内容に反映する（1 時間）。
第 14 回	製作品の発表	作品発表の資料および作品を準備しておく（2 時間）。授業後、指摘された内容を精査し、次期の課題として記録する（1 時間）。
課題等に対するフィードバック	講義中の課題は、担当教員からのコメント・助言をつけて返却をするので、その内容をよく確認し、その後の活動に活かすこと。	
評価方法と基準	平常点（担当教員への報告およびインタビュー）40 点、製作・活動 50 点、発表 10 点、として評価する。	
テキスト	教員が選定したテキストを履修者に配布する予定。 -	
科目の位置付け	本プログラムの履修により、①SDGs や地球環境に対する知識・意識・意欲の増幅、②他学科の学生との取り組みによるコミュニケーション能力向上・不足部分の気づき・補完、③他大学他学部との学生との交流による視点・考え方の拡大などが、学生への教育的効果として見込まれる。これらは、就活時における企業選びや自己 PR のための重要な経験にもなる。	
履修登録前準備	・ SDGs についての解説記事などを参照しておく。 ・ 本科目は原則として、入学年度に 2 年生への進級要件を満たし、担当教員の承諾を得た学生のみが登録可能とします。	

授業コード		520941		オムニバス			
科目名		SDGs for Engineers II		単位数		1	
配当学年		2		曜日時限		集中講義	
年度学期		2025 年度 秋学期		コース			
対象学科		基_応用, 基_環生		必選の別		選択科目	
科目区分		カレッジマイスタープログラム					
担当者		内田 祐一、伴 雅人					
実務家教員担当授業		担当教員の内田と伴は、企業においてリサイクルや省エネルギーに関する実務経験がある。その経験を活かし、卒業研究や社会活動に応用できる実践的なテーマや実例を授業で扱っている。-					
教室							
授業の目的と進め方		本プログラムでは、工学技術者（Engineers）の卵である学生達が、SDGs への興味を実際のモノづくりとして具体的に体験することを目的とする。 本科目では、「SDGs for Engineers Prep」や「SDGs for Engineers I」で体験・獲得してきた知識や技能を活用し、下級生との連携のもと、工学に軸足を置いた立場で SDGs の理念をさらに具体化する製作を行う。					
達成目標	目標 1	自らの製作対象を立案、企画することができる。【25%】					
	目標 2	自ら提案した事項を実施するための準備、情報収集および問題解決ができるようになる。【25%】					
	目標 3	自ら提案した製作対象を完成させることができる。【25%】					
	目標 4	製作物の構成と効果について説明できる。【25%】					
	目標 5						
	目標 6						
	目標 7						
アクティブ・ラーニング	ディスカッション	○	ディベート		グループワーク	◎	
	プレゼンテーション	○	実習	◎	フィールドワーク		
	その他課題解決型学習						

	授業計画	授業時間外学修（予習及び復習を含む）
第1回	プログラムの概要の解説	自分が作りたい作品について考えておくこと（2時間）。
第2回	SDGsについて（1）17のゴール（詳細）	SDGsの17のゴールについて調べておく（2時間）。SDGsについて受けた説明を復習する（2時間）
第3回	SDGsについて（2）海の豊かさを守ろう（詳細）	SDGsのNo14「海の豊かさを守ろう」を事前に調べておく（1時間）。授業の内容を再度確認し理解しておく（1時間）。
第4回	SDGsについて（3）陸の豊かさを守ろう（詳細）	SDGsのNo15「陸の豊かさを守ろう」を事前に調べておく（1時間）。授業の内容を再度確認し理解しておく（1時間）。
第5回	安全教育と工具の使用法の諸注意（下級生との連携）	工作を行なう上での安全を事前に調べておく（1時間）。授業の内容を再度確認し理解しておく（1時間）。
第6回	作品の製作および活動計画の作成（下級生との連携）	製作品の具体的な案をまとめる（1時間）。授業後、指摘された内容を精査し、実施内容を見直す（1時間）。
第7回	製作に関する情報収集と資料整理（下級生との連携）	作品を製作するための情報をインターネット、参考書などから収集しまとめておく（2時間）。授業後、指摘された内容を精査し、実施内容に反映する（1時間）。
第8回	製作対象の設計作業と検討（下級生との連携）	作品の全体図を作成し問題点がないか検討する（2時間）。授業後、指摘された内容を精査し、実施内容に反映する（1時間）。
第9回	製作対象の詳細設計と検討（下級生との連携）	全体設計を見直し、部品の詳細設計を考える（2時間）。授業後、指摘された内容を精査し、実施内容に反映する（1時間）。
第10回	部品の製作（下級生との連携）	部品を製作する上で、材料の不足、問題点などがないか見直し、製作手順を考えておく（2時間）。授業後、指摘された内容を精査し、実施内容に反映する（1時間）。
第11回	製作品の組立作業（下級生との連携）	作品の組み立て手順、部品の確認などを行なう（2時間）。授業後、指摘された内容を精査し、実施内容に反映する（1時間）。
第12回	製作品の調整作業（下級生との連携）	製作品の不具合や改善点など調整手順を検討しておく（2時間）。授業後、指摘された内容を精査し、実施内容に反映する（1時間）。

第 13 回	製作品の発表準備（下級生との連携）	作品発表のための製作品の動作等をチェックする（2 時間）。授業後、指摘された内容を精査し、実施内容に反映する（1 時間）。
第 14 回	製作品の発表	作品発表の資料および作品を準備しておく（2 時間）。授業後、指摘された内容を精査し、次期の課題として記録する（1 時間）。
課題等に対するフィードバック	講義中の課題は、担当教員からのコメント・助言をつけて返却をするので、その内容をよく確認し、その後の活動に活かすこと。	
評価方法と基準	平常点（担当教員への報告およびインタビュー）40 点、製作・活動 50 点、発表 10 点、として評価する。	
テキスト	教員が選定したテキストを履修者に配布する予定。 -	
科目の位置付け	本プログラムの履修により、①SDGs や地球環境に対する知識・意識・意欲の増幅、②他学科の学生との取り組みによるコミュニケーション能力向上・不足部分の気づき・補完、③他大学他学部との学生との交流による視点・考え方の拡大などが、学生への教育的効果として見込まれる。これらは、就活時における企業選びや自己 PR のための重要な経験にもなる。	
履修登録前準備	・ SDGs についての解説記事などを参照しておく。 ・本科目は、「SDGs for Engineers Prep」もしくは「SDGs for Engineers I」を履修した学生のみ、履修登録可能とします。	

授業コード		510911		オムニバス			
科目名		SDGs for Engineers III		単位数		1	
配当学年		3		曜日時限		集中講義	
年度学期		2025 年度 春学期		コース			
対象学科		基_応用, 基_環生		必選の別		選択科目	
科目区分		カレッジマイスタープログラム					
担当者		内田 祐一、伴 雅人					
実務家教員担当授業		担当教員の内田と伴は、企業においてリサイクルや省エネルギーに関する実務経験がある。その経験を活かし、卒業研究や社会活動に応用できる実践的なテーマや実例を授業で扱っている。-					
教室							
授業の目的と進め方		本プログラムでは、工学技術者（Engineers）の卵である学生達が、SDGs への興味を実際のモノづくりとして具体的に体験することを目的とする。 本科目では、「SDGs for Engineers Prep」、「SDGs for Engineers I」および「SDGs for Engineers II」で体験・獲得してきた知識や技能を活用し、下級生との連携のもと、工学に軸足を置いた立場で SDGs の理念をさらに具体化する製作を行う。					
達成目標	目標 1	自らの製作対象を立案、企画することができる。【25%】					
	目標 2	自ら提案した事項を実施するための準備、情報収集および問題解決ができるようになる。【25%】					
	目標 3	自ら提案した製作対象を完成させることができる。【25%】					
	目標 4	製作物の構成と効果について説明できる。【25%】					
	目標 5						
	目標 6						
	目標 7						
アクティブ・ラーニング	ディスカッション	○	ディベート		グループワーク	◎	
	プレゼンテーション	○	実習	◎	フィールドワーク		
	その他課題解決型学習						

	授業計画	授業時間外学修（予習及び復習を含む）
第 1 回	プログラムの概要の解説	前学期までの調査や製作物を踏まえ、自分が作りたい作品について考えておくこと（2 時間）。
第 2 回	SDGs について（1）17 のゴール	SDGs の 17 のゴールについて調べておく（2 時間）。SDGs について受けた説明を復習する（2 時間）
第 3 回	SDGs について（2）住み続けられるまちづくりを	SDGs の No11「住み続けられるまちづくりを」を事前に調べておく（1 時間）。授業の内容を再度確認し理解しておく（1 時間）。
第 4 回	SDGs について（3）気候変動に具体的な対策を	SDGs の No13「気候変動に具体的な対策を」を事前に調べておく（1 時間）。授業の内容を再度確認し理解しておく（1 時間）。
第 5 回	安全教育と工具の使用法の諸注意	工作を行なう上での安全を事前に調べておく（1 時間）。授業の内容を再度確認し理解しておく（1 時間）。
第 6 回	作品の製作および活動計画の作成	製作品の具体的な案をまとめる（1 時間）。授業後、指摘された内容を精査し、実施内容を見直す（1 時間）。
第 7 回	製作に関する情報収集と資料整理	作品を製作するための情報をインターネット、参考書などから収集しまとめておく（2 時間）。授業後、指摘された内容を精査し、実施内容に反映する（1 時間）。
第 8 回	製作対象の設計作業と検討	作品の全体図を作成し問題点がないか検討する（2 時間）。授業後、指摘された内容を精査し、実施内容に反映する（1 時間）。
第 9 回	製作対象の詳細設計と検討	全体設計を見直し、部品の詳細設計を考える（2 時間）。授業後、指摘された内容を精査し、実施内容に反映する（1 時間）。
第 10 回	部品の製作	部品を製作する上で、材料の不足、問題点などがないか見直し、製作手順を考えておく（2 時間）。授業後、指摘された内容を精査し、実施内容に反映する（1 時間）。
第 11 回	製作品の組立作業	作品の組み立て手順、部品の確認などを行なう（2 時間）。授業後、指摘された内容を精査し、実施内容に反映する（1 時間）。
第 12 回	製作品の調整作業	製作品の不具合や改善点など調整手順を検討しておく（2 時間）。授業後、指摘された内容を精査し、実施内容に反映する（1 時間）。

第 13 回	製作品の発表準備	作品発表のための製作品の動作等をチェックする（2 時間）。授業後、指摘された内容を精査し、実施内容に反映する（1 時間）。
第 14 回	製作品の発表	作品発表の資料および作品を準備しておく（2 時間）。授業後、指摘された内容を精査し、次期の課題として記録する（1 時間）。
課題等に対するフィードバック	講義中の課題は、担当教員からのコメント・助言をつけて返却をするので、その内容をよく確認し、その後の活動に活かすこと。	
評価方法と基準	平常点（担当教員への報告およびインタビュー）40 点、製作・活動 50 点、発表 10 点、として評価する。	
テキスト	教員が選定したテキストを履修者に配布する予定。 -	
科目の位置付け	本プログラムの履修により、①SDGs や地球環境に対する知識・意識・意欲の増幅、②他学科の学生との取り組みによるコミュニケーション能力向上・不足部分の気づき・補完、③他大学他学部の学生との交流による視点・考え方の拡大などが、学生への教育的効果として見込まれる。これらは、就活時における企業選びや自己 PR のための重要な経験にもなる。	
履修登録前準備	・ SDGs についての解説記事などを参照しておく。 ・本科目は、「SDGs for Engineers Prep」もしくは「SDGs for Engineers I」を履修し、さらに「SDGs for Engineers II」を履修した学生のみ、履修登録可能とします。	

授業コード		520948		オムニバス			
科目名		SDGs for Engineers IV		単位数		1	
配当学年		3		曜日時限		集中講義	
年度学期		2025 年度 秋学期		コース			
対象学科		基_応用, 基_環生		必選の別		選択科目	
科目区分		カレッジマイスタープログラム					
担当者		内田 祐一、伴 雅人					
実務家教員担当授業		担当教員の内田と伴は、企業においてリサイクルや省エネルギーに関する実務経験がある。その経験を活かし、卒業研究や社会活動に応用できる実践的なテーマや実例を授業で扱っている。					
教室							
授業の目的と進め方		本プログラムでは、工学技術者（Engineers）の卵である学生達が、SDGs への興味を実際のモノづくりとして具体的に体験することを目的とする。 本科目では、「SDGs for Engineers Prep」「SDGs for Engineers I」「SDGs for Engineers II」および「SDGs for Engineers III」で体験・獲得してきた知識や技能を活用し、下級生との連携のもと、工学に軸足を置いた立場で SDGs の理念をさらに具体化する製作を行う。					
達成目標	目標 1	自らの製作対象を立案、企画することができる。【25%】					
	目標 2	自ら提案した事項を実施するための準備、情報収集および問題解決ができるようになる。【25%】					
	目標 3	自ら提案した製作対象を完成させることができる。【25%】					
	目標 4	製作物／調査結果をメンバー外に対して発表できる。【25%】					
	目標 5						
	目標 6						
	目標 7						
アクティブ・ラーニング	ディスカッション	○	ディベート		グループワーク	◎	
	プレゼンテーション	○	実習	◎	フィールドワーク		
	その他課題解決型学習						

	授業計画	授業時間外学修（予習及び復習を含む）
第1回	成果発表方針の策定	課題およびその解決策を考え、実践する準備を整えること。
第2回	製作・調査方法の立案	製作・調査方法を立案する。必要に応じ、自らが申し出て指導教員とディスカッションを重ねること。
第3回	データの収集・整理方法の検討	データの収集・整理方法の検討を行う。必要に応じ、自らが申し出て指導教員とディスカッションを重ねること。
第4回	データの収集	研究用のデータを収集する。必要に応じ、自らが申し出て上級生や指導教員とディスカッションを重ねること。
第5回	データの整理	収集したデータを整理する。必要に応じ、自らが申し出て指導教員とディスカッションを重ねること。
第6回	調査結果の整理	調査結果を説明可能な形に整理する。必要に応じ、自らが申し出て指導教員とディスカッションを重ねること。
第7回	調査結果の考察	整理した調査結果を考察する。目的に合致した結果と成っていない場合には、目的の設定、調査方法について見直しを行う。
第8回	発表の構成の立案	発表構成を立案するとともに、発表計画と残りのスケジュールを再構築する。
第9回	追加的なデータの収集	追加的なデータを収集する。
第10回	得られた知見の整理・分析	追加データを含めて、得られたデータを整理して、結果の取りまとめを行う。
第11回	発表構成の見直し	発表構成の見直しを行う。必要に応じ、自らが申し出て指導教員とディスカッションを行うこと。
第12回	発表資料の作成	発表資料を完成させること。必要に応じて構成を適切に再構築し、課外時間を使って仕上げること。

第 13 回	発表リハーサル	作成した資料を用いて、メンバーの前で発表のリハーサルを行うこと。受けた質問やコメントを踏まえ、内容の追加や見直しを行うこと。
第 14 回	成果発表	3 年間の活動を通じた最終的な成果を発表し、得られたコメントやアドバイスについて議論する。
課題等に対するフィードバック	講義中の課題は、担当教員からのコメント・助言をつけて返却をするので、その内容をよく確認し、その後の活動に活かすこと。	
評価方法と基準	平常点（担当教員への報告およびインタビュー）40 点、製作・活動 40 点、発表 20 点、として評価する。	
テキスト	教員が選定したテキストを履修者に配布する予定。	
科目の位置付け	本プログラムの履修により、①SDGs や地球環境に対する知識・意識・意欲の増幅、②他学科の学生との取り組みによるコミュニケーション能力向上・不足部分の気づき・補完、③他大学他学部との学生との交流による視点・考え方の拡大などが、学生への教育的効果として見込まれる。これらは、就活時における企業選びや自己 PR のための重要な経験にもなる。	
履修登録前準備	・ SDGs についての解説記事などを参照しておく。 ・本科目は、「SDGs for Engineers Prep」もしくは「SDGs for Engineers I」を履修し、さらに「SDGs for Engineers II」および「SDGs for Engineers III」を履修した学生のみ、履修登録可能とします。	